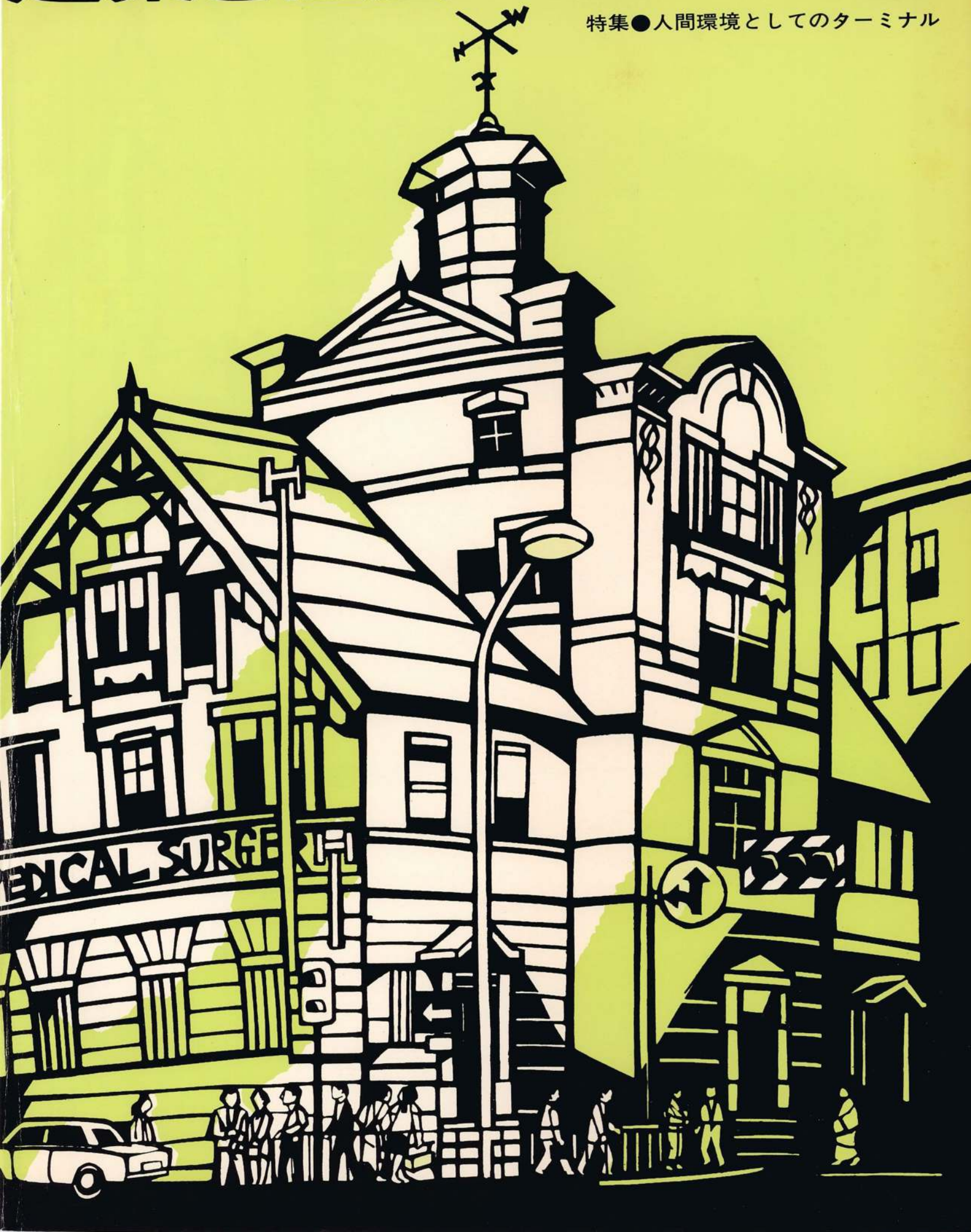
建築と社会

社団法人　日本建築協会
昭和50年 9月25日発行
毎月 1 回25日発行
昭和24年 3 月19日第 3 種郵便物認可

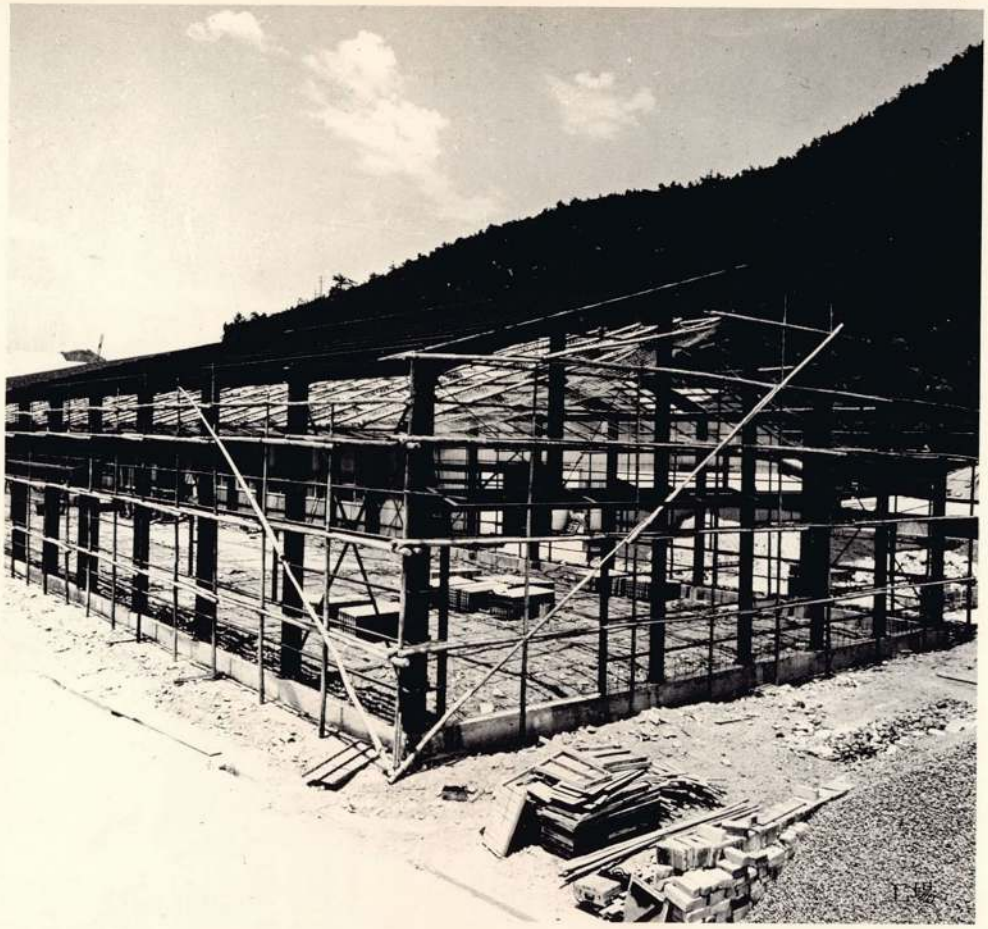
1975
第56輯第 9 号
642号

9

特集●人間環境としてのターミナル



人気上昇中、メリット集約構造部材



昨今の材料の暴騰、人手不足は深刻です。特に建築面においては節材節労が重要な課題となり、それに適合する構造部材が要求されてきました。住友の軽量H形鋼、リップ付軽量H形鋼、及び軽量H形鋼を素材としたスミフレームHは、こうした状況に対処すべく生まれた画期的な製品。現在、全国で販売され軽量のため、他の形鋼に比べコストが安く、しかも加工性、施工性抜群。工期が大幅に短縮できるといった数々のメリットが絶賛をあび、各地の倉庫、工場、畜舎、体育館、事務所、モータープールに数多く利用されつつあります。なお、大型構造物用プレハブ骨組としては先に開発したスミフレームVが大活躍。好評を博しておりますので、併せてご利用ください。

軽量H形鋼の特長

1．大形サイズの生産可能
　最大サイズ(450×250)。軽量H形鋼としては今までにない大形肉厚サイズ(12㎜)
2．材料から製品まで垂直的一貫生産でコストダウンを実現。品質も最高。
3．走行切断機によるプレスカットのため、切断面が美しい。
4．オンラインによるエアスプレー式塗装のため美麗・強固でかつ均一な塗膜厚が得られる。
5．軽量のため他の部材に比べて総鋼重が少なくてすみ経済的。
6．標準設計が完備（スミフレームH）



☆軽量H形鋼
☆リップ付軽量H形鋼
☆スミフレームH

住友金属
住友金属工業株式会社
大　阪＝大阪市東区北浜5－15（新住友ビル）　電（220）5111
東　京＝東京都千代田区丸の内1－3－2（新住友ビル）　電（282）6111
営業所＝熊谷・福岡・広島・岡山・高松・名古屋・富山・静岡・新潟・宇都宮・仙台・札幌

日本住宅公団 20 周年 特別企画



●目　次

日本住宅公団20年のあゆみと今後の開発の方向／中村　司……2
日本住宅公団関西支社昭和49年工事優良施工表彰作品……10
男山団地センター地区高層建築……9

関西ペイント……32
サイコー……14
昭和石油アスファルト工業…15
田島応用化工……表3
田島ルーフィング……84
東亜工業……16
日新工業……表4
パネ協(日本住宅パネル工業協同組合)17
丸菱油化工業……18
明研化学工業……19
ＹＫＫ吉田工業……20
永和工業……83

カネボウ(鐘紡合成化学)……74
近畿工業……72
合同特許建材工業……74
三榮建材工業……71
三協アルミニウム工業……71
三和シャッター……73
東洋シヤッター……73
東洋リノリューム……75
日鐵カーテンオール……70
不二サッシ販売……70
輸送機工業……72
ワコースチール……75

●日本住宅公団

20年のあゆみと今後の開発の方向

中　村　　司（日本住宅公団関西支社副支社長）

はじめに

最近、公共住宅の建設は危機に立っているといわれている。事実、第1期住宅建設5ヵ年計画より第2期住宅建設5ヵ年計画へと戸数も伸び悩み、第3期住宅建設5ヵ年計画を前にして住宅問題は、一つの折点へ差しかかったように見受けられる。しかし、住宅難は解消したのではなく、むしろ複雑性、多様性をおび、広い意味では逆に広がってきているともいえる。

住宅公団もこの昭和50年7月25日で発足以来20周年を迎えた。これまで住宅難解消のため公団住宅が果してきた役割は、功罪ともに大きいと思われる。しかし、20年の誕生日を迎え、現在の住宅公団は、量、質、家賃等の建設主体自身の問題の他、地方公共団体の人口抑制策とか建設予定地の住民パワー等で、四苦八苦している。これの解決には一公団だけではなく、国の住宅政策、あるいは国民自体の、住宅問題に対する意識向上をまたねばならない問題も多い。現在の社会情勢では、サラリーマンのマイホーム建設は、立地、地価問題、建設費問題等で段々難しくなりつつある。

しかし、現在の住宅問題を追求し、また、貧しい住宅水準を向上させていくことは、どうしても必要なことであり、その中での施策住宅中で、比較的多量に建設され、供給される公団住宅の果す役割は、非常に重要と思われる。

今、公団誕生20周年を迎え、過去の20年の歩みを振り返ってみるとともに、もう一度公団住宅の果さねばならない役割を考えてみたい。

1．20年のあゆみ

1）　誕生とその後の沿革

昭和20年8月、第2次世界大戦が終った時、国中の都会の大半は焦土と化し、その復旧は急務をきわめていた。戦後の住宅不足は、420万戸と推定された。そのため、戦後より昭和25年頃までの住宅は、もっぱら応急対策を中心に建設された。

昭和25年になって、初めて恒久的な住宅政策が考えられ、同年5月、「住宅金融公庫法」が制定され、これにより長期低利の資金を融資し、持家制度を国が積極的に援助する手法が定まった。そして、さらに昭和26年6月、「公営住宅法」が制定され、国および市町村が協力して良質な住宅を供給し、低所得の住宅困窮者にも、低家賃の住宅を提供することを基本とする方策が確立され、持家手法、貸家手法の住宅政策の2本の柱が揃ったのである。また、わが国の鉱工業生産も急速に回復し、衣食については昭和27、28年頃には戦前の水準に達した。しかし、住宅については、都市への人口集中、世帯分離の傾向が続いていたため、戦前の水準に回復させることができず、依然として住宅難は解消できなかった。

こうした状況を打開するため昭和29年12月に成立した鳩山内閣は、住宅建設10ヵ年計画を策定し、住宅難の解消をめざしたのである。

しかし、地方行政単位を超えて拡大しつつあった東京、大阪等の大都市圏では、住宅不足の解消は、前述の二本柱の住宅施策では非常に困難であった。

そのため、大都市圏における大規模な宅地開発と、勤労者住宅の大量建設を推進することとし、それに要する資金に民間資金を導入するなどの方策を講ずるための機関として昭和30年7月25日、「住宅不足の著しい地域において、住宅に困窮する勤労者のために、耐

火性能を有する集団住宅の建設、および、宅地の大規模な供給を行うとともに、健全な市街地を造成するため、土地区画整理事業を施行し、国民生活の安定と、社会福祉の増進に寄与すること」等を目的とした住宅公団が誕生した。これは公団法第一条に明記されており、この目的は現在も変らない。

創立当時は東京、名古屋、大阪、福岡に支所をおき、その初年度の住宅建設計画戸数は2万戸であったが、年度内にこれを上回る戸数の発注を完了し、昭和31年3月に賃貸住宅第1号として金岡団地の入居募集を行った。

昭和32年4月、公団の建設範囲が拡充され、住宅建設のための宅地の造成と、あわせて行うことが適当な学校、病院、商店、工場等の用地の造成、および水面埋立事業の施行が加えられた。

昭和36年4月、業務の範囲に市街地住宅と一体として建設することが適当な商店、事務所等の施設の建設等が加えられ、既成市街地の再開発とあわせて、住宅供給を促進することとなった。

昭和37年7月、増大する管理戸数に対応して、各支所に営業所を設置し、入居者サービスにつとめるようになった。また同じ7月、建設合理化要綱を制定してＰＣ工法およびＭＦ工法を中心とした、住宅の量産化、合理化のための研究実施方針を確立した。

この時点までは比較的供給戸数も少なく、むしろ公共団体と相協力できた密月時代といえよう。

40年代に入ると第1期住宅建設5ヵ年計画が制定され、戸数も飛躍的にのび始めた。一方、戸数が増大するにつれて、団地と附随する公共公益施設の問題が顕在化し、地方公共団体よりその是非が問い直される事態に入ってきた。

昭和42年、この事態に備えて五省協定が制定され、団地により、急増した公共公益施設は公団が立替施行させ、後年度補助をえる制度が確立した。

昭和44年6月、「都市再開発法」の施行に伴って、業務の範囲に市街地開発事業の施行が加えられた。

昭和45年に入ると、第2期住宅建設5ヵ年計画は予期どおり完結に向いつつあったが、一方、このころから地価高騰の影響をうけて、住宅建設費が上昇し、これによって家賃の高額化の傾向が目立つようになった。このような状況に対処して、初めて面開発団地に傾斜家賃制度が設けられた。その後この制度は次第に拡大され、48年度からは一般市街地、および団地高層住宅に、さらに49年度からは全賃貸住宅に適用されることになった。

昭和48年、長期特別分譲住宅制度が設けられた。この制度は勤労者の持家取得を一層容易にするため、支払い方法を改善し、また住宅の質の向上を図ったもので、これによって賃貸住宅家賃と同程度の割賦支払いで、持家が取得できるようになった。

昭和49年度には、勤労者の住宅需要動向によって、分譲住宅の建設戸数を増加することとし、建設計画では、賃貸分譲戸数が同戸数となっている。

公団が発足して以来の建設戸数は、50年度には100万戸に達しようとしている。この間、鉄筋コンクリートの集合住宅の建設が大いに進み、「団地族」とか「２ＤＫ夫人」という新語まで生れるに至り、ある時期、公団住宅は一種のあこがれの目でみられたこともあった。またその反面、団地は〝画一的コンクリートの墓場〟等の批判もうけた。

しかし、公団はステンレス流し、シリンダー錠の普及、規格化、寝食分離のためのダイニングキッチン—ＤＫ方式—等都市勤労者の居住形態に大きな変革をもたらし、集合住宅における住まい意識の向上に大きな役割を果したのも事実である。

2） 建設計画(戸数)のあゆみ

昭和30年に発足以来、49年度末までの建設実績戸数は全国で、926,787.5戸（分譲住宅338,176.5戸　賃貸住宅588,611戸）となり、住宅建設にはたした役割はそれなりに評価されて良いと思う。その経緯をたどると、発足された30年には年度半ばであったが、2万戸の計画に対し、22,599戸（賃貸と分譲との入替などにより年度区分を整理し、図表では17,228戸となっている）の建設を行った。翌31年度の計画は2万3千戸と前年度に比して、3千戸増加した。

昭和32年度に至り、昭和30年度に策定された「住宅建設10ヵ年計画」を短縮し、32年度から5ヵ年計画で住宅事情をおおむね安定させるという基本方針がとられ、前年度より、1万2千戸増の3万5千戸と大幅に増加した。しかし、昭和33年度には、なべ底景気により国際収支が悪化し、財政投融資の引締等の財政事情により、建設計画戸数は3万戸と若干減少し、35年までは同数であったが、その後の景気の立直りとともに36年度から39年度までは毎年1千戸～2千戸増加し、39年度には3万6千戸となり、実績においても30～39年度の10年間で30万7,163.5戸に達した。

昭和40年度は、それまでの高度成長政策の反動から経済不況に見舞れた年であった。同年度の建設計画戸数は、当初4万戸であったが、景気対策の一環として、年度途中において1万3千戸の追加事業が決定され、その結果、建設計画戸数は5万3千戸となり、前年度より1万7千戸増と飛躍的な増加を示した。

昭和41年度に入り、「住宅建設計画法」の制定に伴い、総合的な住宅建設計画が策定されることになり、41年度を初年度とする「第1期住宅建設5ヵ年計画」が決定され、一世帯一住宅を目標とし、量の確保に重点が置かれた。最終年度の45年度には8万1千戸となり、発足当時の4倍強の事業量となり、期間中の建設実績も33万5千戸となり、建設計画戸数の34万2千戸とほぼ同数で当初の目標を達成した。

第1期住宅建設5ヵ年計画に引続き、昭和46年度から第2期住宅建設5ヵ年計画が実施に移され、人口の都市集中、世帯の細分化等に伴う新期の住宅需要を充足し、あわせて50年度までに、おおむね「一人一室」の規模をもち、適正な構造と設備を備える居住環境を目標とし、初年度の46年度は、当初8万4千戸であったが、年度途中で景気対策として4千戸の追加事業が行われ、含めて8万8千戸で、建設実績もほぼこれを消化した。

しかし、第2期住宅建設5ヵ年計画の期間中である現在はまさに激動の時期であり、公団は発足以来最大の試練の場に立たされたといえよう。

昭和40年代の前半から、地方公共団体の抱える諸問題が表面化し、これに加えて交通騒音、日照、風害、テレビ電波障害等が社会問題として大きくクローズアップされ、地域住民の権利意識の高まりが住民パワーという形で住宅建設をより困難なものとした。建設費も年々増大してきたが、47年末から48年にかけての石油問題を契機として、建築資材、労務費が著しく高騰した。

昭和47年度以降、上記のような原因もあり、建設計画戸数の縮少を余議なくされ、昭和47年度は、当初8万8千戸であったものを、7万戸に計画変更を行った。

昭和48年度、昭和49年度においても、年度途中での事業計画の変更が行われ、それぞれ、5万9千戸と5万戸になった。

関西支社では、表－2に示す通り着実に実績を増やし昭和49年度末までに、全国の約25％に当る23万7,640.5戸の公団住宅を建設した。

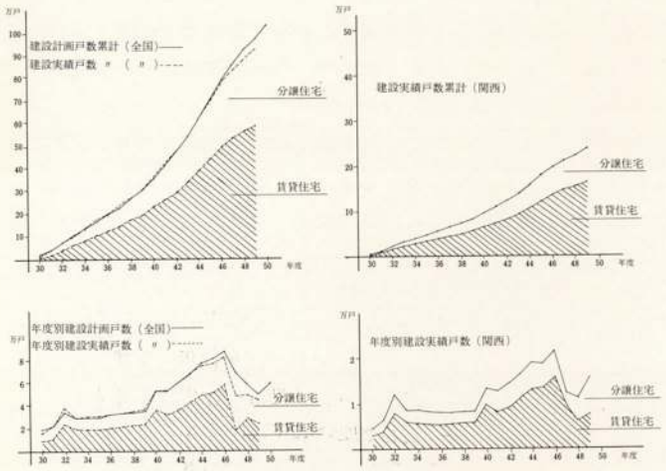
第1期住宅建設5ヵ年計画では、計画戸数8万7千戸に対し、達成率93.6％の8万1,439戸であり、第2期住宅建設5ヵ年計画戸数10

表－1　住宅建設計画一覧表

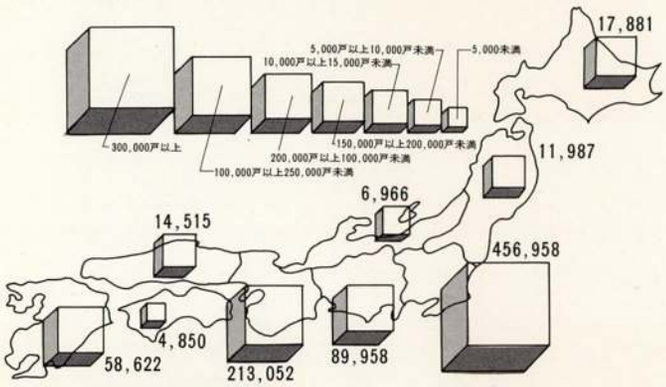
計画名	計画期間	建設計画戸数 総戸数	公的資金による住宅	民間自力建設戸数	計画決定	公団住宅の計画戸数
住宅建設10ヵ年計画	昭和(年度) 30～39	(万戸) 478.9	(万戸) 199.7	(万戸) 279.2	建設省策定 (昭30.10)	(万戸) (%) 30.3 (6.3)
住宅建設5ヵ年計画	32～36	284	113	171	建設省策定 (昭32.4)	15.7 (5.5)
新住宅建設5ヵ年計画	36～40	400	160	240	建設省策定 (昭35.8)	18.8 (4.7)
住宅建設7ヵ年計画	39～45	780	320	460	閣議説明 (昭39.2)	43.1 (5.5)
第一期住宅建設5ヵ年計画	41～45	670	270	400	閣議決定 (昭41.7)	34.2 (5.1)
第二期住宅建設5ヵ年計画	46～50	950	380	570	閣議決定 (昭46.3)	

(注)「公団住宅の計画戸数」欄におけるカッコ内は、「建設計画戸数」における「総戸数」に対する当該計画戸数の比率である。

表－2



図－1　公団住宅の地域別建設戸数(49.12.31現在)



万4千戸に対しては、約80%の達成率となる見込である。ちなみに、これら関西支社関連での公団住宅の居住者総数は約86万人（1戸当り3.4人）と推定され、これは、堺市の人口を越え、滋賀県の人口にとどくものである。(参考 堺市人口697,572人 滋賀県人口952,124人)

3)　住宅の質のあゆみ

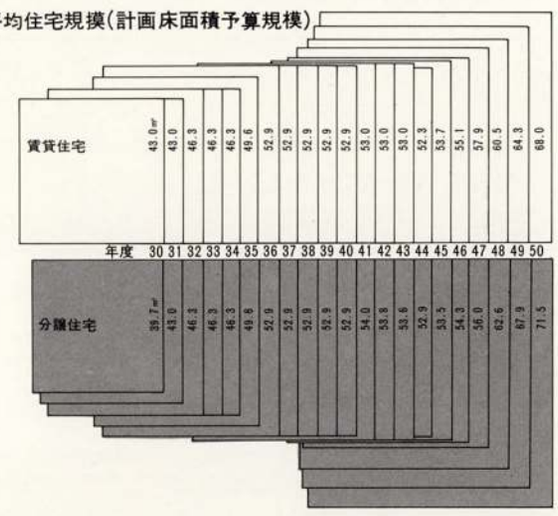
イ．住宅の規模について

「団地」という言葉は、公団が発足してから一般に定着してきたが、「団地サイズ」という言葉も公団が生んだものである。限られた予算の中で、その計画戸数を建設するための知恵であった。その予算計画規模から見ると、昭和30年の賃貸住宅は43.0m²であり、2DKが主流であった。その後いくらか増減はあるが、39年度には52.9m²となり、3K、3DKの比率が増加してきた。

昭和40年度に至り、「団地サイズ」の解消への取組が開始され、徐々に実施に移されていった。しかし、高層住宅化が進み、また平均規模の伸びがほとんどなかったため2DK中心の線をくずすことはできなかったが、分譲住宅では、41年度から特別分譲住宅制度（サラリーマン向分譲住宅）が発足し、「団地サイズ」であるが3DK型住宅が定着した。

昭和46年度から始まった、第2期住宅建設5ヵ年計画の期間には、各種住宅の規模も徐々に増加し、最終の50年度には70.1m²となり、「団地サイズ」を全て解消することができることとなると共に、分譲住宅では3LDK中心といえるようになった。発足以来、寝食分離を生活様式の中に定着させ、「一世帯一住宅」の実現を目ざし努めてきたが、さらに「一人一室」など、質の向上に努力を続けている。

表－3　平均住宅規模(計画床面積予算規模)



表－4　年度別住宅型式別建設戸数

(単位　戸)

型式			昭和30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	計
賃貸住宅	単身向住宅	1　K	776	1,754	1,686	1,539	657	578	626	589	467	471	287	0	0	0	0	0	0	0	241	9,671
	世帯向住宅 一居住室型	1 DK	0	412	3,935	3,567	3,912	4,841	6,998	4,875	3,482	2,051	1,661	1,099	1,560	2,768	4,739	7,864	11,062	3,718	1,148	69,692
	二居住室型	2　K	2,520	2,973	4,400	1,993	3,013	1,386	2,231	1,993	1,360	165	45	46	30	455	15	15	0	0	0	22,625
		2 DK	5,928	5,781	9,400	8,457	8,196	7,621	7,054	6,122	7,778	11,028	15,636	11,797	13,977	17,843	22,731	22,291	30,103	18,784	12,275	242,802
	三居住室型	3　K	296	516	3,914	3,902	4,021	4,046	2,880	7,147	8,211	6,195	11,048	10,450	12,755	12,558	11,344	13,864	12,570	6,023	2,884	134,624
		3 DK	480	65	617	539	186	1,508	511	1,265	1,702	4,074	7,862	8,608	7,666	9,093	10,201	6,980	5,193	3,981	4,049	74,580
	四居住室型	4K以上	0	0	48	4	16	22	55	9	0	16	81	0	12	0	0	1	12	38	16	330
	計		10,000	11,501	24,000	20,001	20,001	20,002	20,355	22,000	23,000	24,000	36,620	32,000	36,000	42,717	49,030	51,000	58,940	32,544	20,613	554,324
分譲住宅	単身向住宅	1　K	0	0	136	0	119	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	255
	世帯向住宅 一居住室型	1 DK	0	0	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	二居住室型	2　K	928	88	0	30	0	—	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	1,066
		2 DK	1,591	1,032	336	0	0	—	0	0	0	0	120	0	987	733	0	0	0	0	0	4,799
	三居住室型	3　K	180	116	256	32	0	—	0	96	24	80	0	80	393	150	0	0	0	0	0	1,407
		3 DK	20	1,072	618	124	0	—	36	108	462	1,011	2,463	7,329	9,333	9,992	7,866	8,115	11,572	6,874	6,373	73,368
	四居住室型	4K以上	0	0	6	26	22	—	60	180	318	429	2,711	2,591	1,267	1,008	1,934	1,385	963	1,960	1,892	16,752
	計		2,719	2,308	1,352	212	141	—	96	384	804	1,520	5,294	10,000	12,000	11,883	9,800	9,500	12,535	8,834	8,265	97,647
合計			12,719	13,809	25,352	20,213	20,142	20,002	20,451	22,384	23,804	25,520	41,914	42,000	48,000	54,600	58,830	60,500	71,475	41,378	28,878	651,971

(注) 分譲住宅の戸数は、特定分譲住宅を除いた戸数である。

ロ．団地設計について

昭和30～32年の３年間に、157団地、約７万７千戸の建設が行われたが、大多数が周辺依存型の小規模団地であった。昭和35年頃以降は郊外の大規模団地が主流となり、都市の生活関連施設一式を組込んだ独自の完結した団地が建設されるようになった。周辺依存型から自己完結型へ、そして、昭和40年頃から、工場跡地等を利用した面開発団地の建設が始った。関西では、森之宮団地を第一号とし、住吉、伝法、公園住区の千島、ペアー住宅のある豊里、ゴミの空気輸送の森之宮(2)、などがある。これらは、既存の都市施設をも利用しながら、豊富な利便施設や、オープンスペースを生み出し、密集市街地の環境改善に資そうとするものであった。



面開発団地

団地構成では、日照確保によって得られる開放的な空間が住戸の他の居住性の要素を保証することにも役立つため、現在でも居住性の総合指標として、重要視されている反面、性能水準を平等に保証する考え方は、全体として画一的な配置を生みがちである。発足当時はこれらの観点から、平行配置を基準とした配置となっていたが、昭和38年頃から、住棟のまわりに多様な屋外空間を取ることに重点を置いた団地設計が行われるようになった。団地の集会場や、遊び場は地域の小コミュニティ形成の物的手がかりとして重視され、囲み型配置など、グループピング、コミュニティ作りが行われたが、最近では、周辺既在住宅との融和を考慮して、団地内にとらわれることが少なく、周辺との融和を強調する配置、例えば、公園、広場etc.を団地周辺に配置するなど、周辺地区との調和に力を注いでいる。また、昭和37年ごろから、車の急激な普及を背景に、歩車道分離を行い、歩行者の軸に、遊び場、広場、植栽スペースを取り込んで、一体化し、団地の屋外生活の大部分を集約するような、多目的空間として、設計されるようになり、昭和41～42年頃には一般化した。一方、駐車場も社会の要請が強く、戸数比にして、昭和40年度は、５％であったものが、45年度は10％、49年度は30％と、のびてきている。

造園設計では、昭和41年頃、１ha当り200本程度の植栽本数であったものを、昭和46年以降、緑に対する世論の高まりの中で、より良好な緑の環境をつくり出すと共に、周辺地域とのスムーズな隔和を意図して、緑化対策が強化され、この予算措置によって1ha当り600本程度の植栽本数にまで増加すると共に植栽の手法でも単木、列植から自然風を取り入れた群植設計が行われるようになった。また現在では、既存の緑をできるだけ残し、自然環境の改変を最小限にとどめ、既存の緑、土壌などを実施計画の中に可能な限り、反映させるべく努力を続けている。

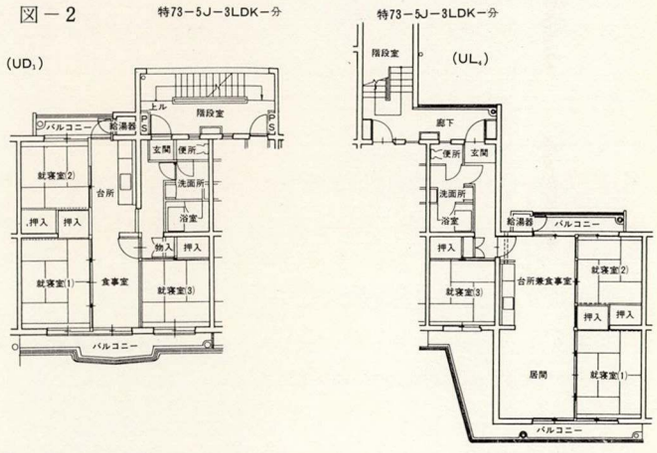
ハ．住宅設計について

—標準設計—

設計の目標を明確化し、設計手法、住宅の造りをそろえること。

同種の設計による建物の反復生産から得られる反省を標準化された設計なら逐次フィードバックさせ、設計の質を高めていくことができる。また、ひとたび標準化された設計は、フィードバックにより、設計の質を徐々に高めつつ、自動運転が可能となるので浮いた設計陣を新たな開発に投入することなどができる一方、公団住宅の立地は大都市周辺に限られ、その入居者は都市中堅勤労者であり、住宅の構造設備は比較的高度で、建設形態は一ヵ所大量建設であるなど、一般の建築が個別的、分散的であるのに比べ、非常に標準化しやすい類型をもっていた、等々の理由により、標準設計化の取り組みに力を注いだ。当初の標準設計には、本社で設計したものと、それをもとに支社で地域性などを考慮して多少の修正を行って設計された支社標準設計とがあり、実際に建設されたものは、支社標準設計であった。このようにして標準化の第１期が完成し、続いて全国統一型（63型）の登場を見て、標準化第２期を終え、この時期から支社で作成する設計はすべて特殊設計扱いとなり、普遍性の高いものは本社において標準設計化し、本社標準設計の支社における手直しも昭和47年度まで禁止された。48年度に入り、中層標準設計において強かった設計の固定化傾向と画一感などが顕在化し、また、資材の需給状況の悪化、施工方法の変化、技術水準の低下など、標準化の前提内容の変更に類する条件変化が続出するに至り、標準設計を標準化第２期設計から平面設計に関する標準化事項などを除いて、必要に応じて標準設計を変更して使用する文字どおりの「標準設計」へ移行した。さらに、画一化傾向を払拭するための一つの試みとして、バルコニーおよび手すり部品の付替え、73－５Ｊ型にみる住戸、階

図－２



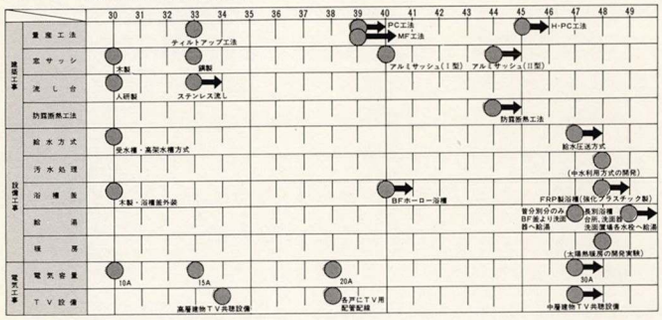
段室等の組替えによる住棟形状の変化手法など、標準化のなかで可能なものについては、標準設計で対応する試みなども、あわせて実施されるようになった。

住戸の平面計画では、公団発足から、その型式を居住室＋ＤＫとして、呼称される。ＤＫ型住宅、いわゆる、食寝分離を指向してきた。その後、この考え方を「主たる住まい方」として、受け継ぐほか、「従たる住まい方」として、第１就寝室を、Ｌ型（公私空間型）の住まい方にも、対応できるものとし、特にＫ型については、Ｌ型の住い方を「主たる住まい方」と考え、設計するようになった。40年から増加してきた分譲住宅には、居間を専有するＬ型住宅の設計がなされた。42年度以降から、それまで800モジュールを900標準モジュールとなり、賃貸住宅についても、量産工法住宅を中心に実施し、49年度に至っては、全住宅について実施した。また、47年度に至り、老人対策住宅として、(複合家族用住宅として）ペアー住宅（豊里住宅）の供給を始め、１団地の中で離れた２戸を組み合わせて賃貸する方式も、検討されるようになり、住宅供給の論理と実態の隔りは、より柔軟な住宅の管理体制の導入とあわせて、解決の方

向をとった。

また設備等では、昭和31年には洋風便器を採用し、昭和33年にはステンレス流しを創作採用するなど、その後も、昭和40年、ＢＦ釜ホーロー浴槽、昭和45年遠隔指示メーターの採用など種々の改善が行われた。

図－3　技術開発のあゆみ



4)　宅地開発のあゆみ

住宅用地の開発については、当初大都市周辺に母都市の都市計画—広域都市計画—を考慮した住宅用地を建設することにし、第１期工事として15地区の開発に着手した。関西では、旧陸軍用地の枚方市香里、池田市五月ヶ丘、堺市向ヶ丘、神戸市東舞子等がこれに当り、これらの地区の開発は、大量の住宅用地の供給と健全な新市街地の造成を目的とし、先買方式の土地区画整理事業により行われた。これらの地区は、大半、公団中層住宅を団地の核とし、その周辺に戸建宅地を配置する方式がとられており、現在では環境の良好な住宅地として、居住者の好評を得ている。

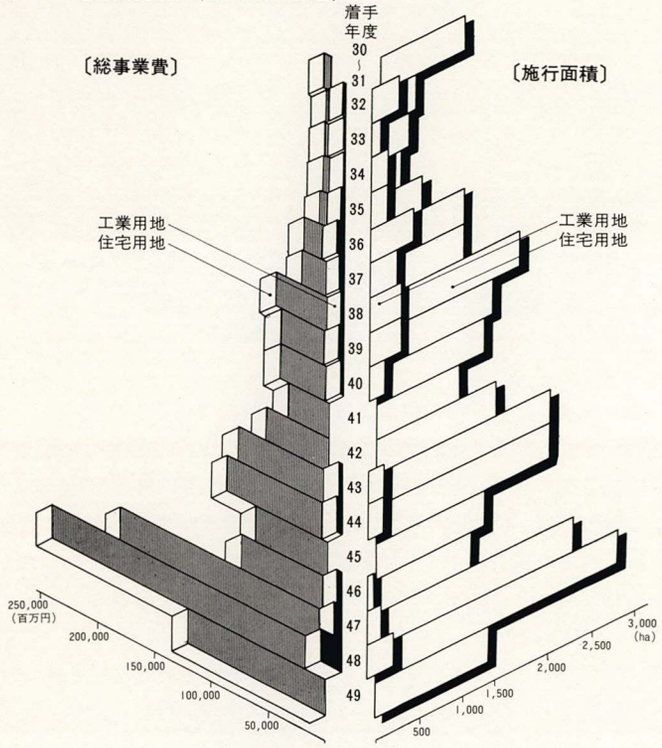
昭和30年代後半に入ると、さらに人口の大都市への集中が著しくなり、住宅用地、また工業用地の需要は増大の一途をたどっていった。このような事態に対処するため、また、住宅用地については大量の宅地を供給するため、都市として独立に機能する大規模開発を行うようになった。中部地区の高蔵寺ニュータウン、関西での平城地区の開発等である。さらに国においても、比較的短期間に計画的に大量に宅地を供給し、宅地の需要に対応するため新しい手法として、昭和38年７月、新住宅市街地開発法を制定した。公団関西支社の第１号は、和泉市における鶴山台団地である。

昭和40年代に入ると、大都市周辺の既成市街地はさらに都市化の波をうけ、開発適地は減少し、また地価は著しく高騰した。この地価の騰貴は地主の売措しみを誘発する等、大都市周辺での団地取得はさらに困難になってきた。加えてこの当時より、人口集中、団地開発による地方公共団体の財政問題が表面化し、事業の進捗は困難度をましてきた。この時期で開発に着手したものは、京都府八幡町の男山、神戸市の新多聞、奈良県高陵町、香芝町等があるが、いずれも現在、事業は継続中である。

近郊地域の開発が困難となってくると、新しい開発地としては、従来より外側か、又は交通機関をも含めた総合開発にならざるをえないため、膨大な投資を必要とする。この投資効率を高めるためには、大規模開発を行うことが望ましく、40年代中期以降は従来にもまして開発地区は大規模化してきた。

特に500haをこす北摂地区では、むしろ独立した都市で、公園、上下水道、小中学校と幼稚園等の公共施設の整備はもちろん、高等学校、公民館、児童館等の教育文化施設、総合病院等の医療施設も必要に応じ確保につとめ、都市的施設の完備した大規模宅地開発の推進を図っている。

図－4　宅地開発計画(49.12.31現在)



表—5　宅地開発地区一覧表

	地区名	所在地	手法	施行主体	面積	計画人口		地区名	所在地	手法	施行主体	面積	計画人口
					ha	人						ha	人
完了	五月ヶ丘	池田市	区画整理	池田市	52.7	8,800	工事中	八幡	八幡町	区画整理	公団	185.6	32,000
	甲南	芦屋市	同上	公団	31.8	3,700		新多聞	神戸市	同上	公団	193.4	35,000
	向ヶ丘	堺市	同上	同上	75.2	13,700		落合	神戸市	同上	神戸市	238.8	35,000
	東舞子	神戸市	同上	神戸市	41.3	6,400		光明池	和泉市	新住	公団	127.8	15,000
	香里	枚方市	同上	公団	155.2	25,800		金剛東	富田林市	区画整理	同上	230.5	40,000
	富雄	奈良市	同上	同上	71.7	9,300		平城	奈良市	同上	同上	348.7	43,000
	湖南(工住)	甲西町	同上	滋賀県	291.5	13,000		工事中計				1810	283,000
	金剛	狭山町 富田林市	同上	公団	216.4	31,000	事業計画作成中	(平城Ⅱ) 相楽	木津町 精華町	区画整理	公団	264.2	32,000
	鈴南台	神戸市	同上	神戸市	136.1	18,000		北神戸1.2.3	神戸市	同上	同上	502	75,000
	完了計				1071.9	129,700		北摂(住)	三田市	新住	同上	603	65,500
工事中	鶴山台	泉泉市	新住	公団	77.9	16,000		北摂(Ⅰ)	同上	工業団地	同上	143	——
	大久保東	明石市	区画整理	兵庫県	109.6	17,000		藤原	神戸市	区画整理	同上	280.7	36,000
	真美ヶ丘	香芝町 広陵町	同上	公団	297.8	50,000		計画作成中計				1792.9	208,500

合計　4,674.8 ha　　人口　621,200 人　※他に用地買収中数団地あり

2．今後の方向

1） 開発について

住宅建設も、30年代における地方公共団体との蜜月時代、続いて所得倍増計画によった高度成長時代の人口集中時代を経て、現在は低成長福祉時代へと時代は大きく変わりつつある。そのいずれの時代でも、常に住宅建設の必要性はとなえられてきた。しかし、現実は財政問題を背景にした地方公共団体の“団地お断わり”等、情勢は非常にきびしいものがある。なぜ、いずれの時代の流れにおいても、必要性が叫ばれている住宅建設が進まないかを考えてみたい。

これの主因は、1つは財政問題、2つめは地域開発計画との調和というが、新規団地と在来団地との異和点であろう。戦後から30年代までの住宅開発は、既成市街地の一部で行われていたが、だんだん規模が大きくなるにつれ、周辺の公共施設の充分でない山林地帯に、用地を求めて開発していき、その結果として開発に関連する公共施設の整備をめぐって、受入側の市町村との間に種々の問題を生じさせている。

現在のところ、公共施設の整備は原則として市町村の義務事項とされている。大都市周辺の都市は、大なり小なり開発が進んでいるが、住宅団地が進出することにより、これが急速に進み、それに対応するためには、短期間に相当量の公的施設を整備する必要が生じ、多額の資金を要する。この財政上の困難に加えて、開発地区の住民は、既在住民に比べて全く異質で、その社会的要求も在来住民と異なっており、権利意識も強く、その要求の出し方も強烈であり、新しい行政サービスを要求する。そして新住民のために作られた新しい施設は、既在住民の既在施設に対する不満を呼び、その整備をも行わねばならないことになり、この過程で住民感情が悪化するなど、好ましくないことが起っていく。

地方公共団体の仕事は、地方公共の秩序を維持し、住民の安全、健康、福祉を保持することにあり、住民全体の豊かな生活（精神的にも物質的にも）を目標にして行政を行っている。そして地域開発は、本来、地方公共団体が、その目標にあわせて、その地域の価値や位置づけ、将来計画などから総合的に行わねばならないものである。しかし、大都市周辺における人口の集中は、その周辺の衛生都市に、好むと好まざるにかかわらず、大規模の住宅開発を生じさせることになり、結果的には時代の波におされ、大きな財政需要とさらに異質の新住民により、行政サービスの質の転換を余議なくされ、その対策に苦慮する立場に立たされているのが市町村の現状である。

これらの問題に対応するため、市町村側ではいわゆる宅地開発指導要綱を制定し、これにあたろうとしている。公的住宅建設側でも、財政需要に対応するためには関係各省と協議し、公共公益施設については、補助金の要請、事業費の立替等を行っているが、これでは十分ではなく、まだまだ地方財政に与えている影響は非常に大きい。この問題の解決には種々の難かしさがあるが、今後、これらの財政負担について、一考を要することは間違いない。しかし、根本的にいえることは、国は住宅団地に対し、特別助政策をとり、援助対象の拡大、補助率の引上げ、地方財政の付与等を考慮し、財政面で手厚く面倒をみるべきであろう。

しかし、また一面、見方をかえると、通常住宅進出を予想される地域は、おそかれ早かれ都市化はまぬがれないところである。これを現状のまま放置して、自然発生的な市街地（スプロール）が生じることを考えるとき、公的機関による基幹都市施設の整備された団地の設定には、これを軸にして計画的な都市化を推進することは、非常に重要であり、かつ有利であろう。

このように、住宅開発が、長い目でみて好ましいものである限り、現在の負担能力を理由に、これを拒否したりせず、むしろ国に対し、現体制の中での負担力の増大を求め、積極的に公的機関のもつ技術力、資金力等を利用し、新しい地域開発を行う方に役立ててほしい。

また開発者側としても、在来の住宅団地は、ただ単に住宅のみを建設すればよいとする傾向があり、これも地域計画を混乱させた1つの原因である。今後の団地建設計画は、地方公共団体の総合計画にそったものであることが第一である。公共公益施設の整備についても、団地自身のもののみでなく、その市町村の将来計画に合致していることが必要で、また、その周辺が都市化を予想されるときは、それらも含めて総合的な施設等を考慮するなど、総合計画、地域環境整備計画にそった形の住宅団地である必要がある。

現在の都市に人口集中を起こす高度成長政策については、種々批判があり、多くの修正案が提案され、現実には低成長時代へ入りつつある。しかし、現実には、大都市周辺は依然として人口が増加しおり、また不良住宅の建替、住宅の質の向上等に対処する必要がある以上、住宅建設は不可欠である。それを考えると、地方公共団体の地域環境整備計画に従い、良好な都市環境を造り出す公的住宅開発は、むしろ市町村にとって喜ばれる仕事であろうと思っている。

今後の公的住宅開発機関は、それのもつ技術力、資金力を生かし、市町村と相協力してよりよい街造り、住宅造りを行っていくべきであろう。

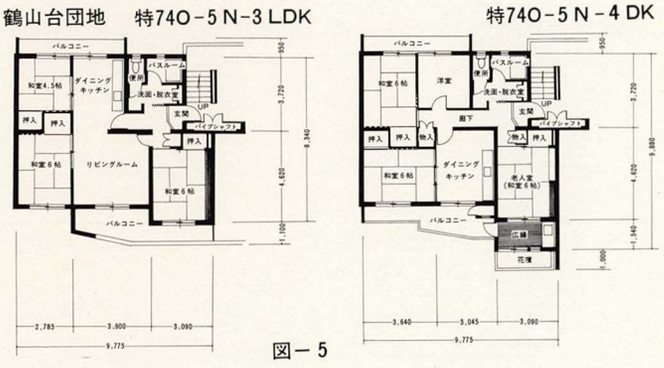
2） 設計について

発足以来20年をあゆんできた経験は何ものにも換えられないものである。それらを生かすも殺すも今後の課題である。一応、世帯数に見合った戸数は充足されたが、住宅の質の面では、未だ、その域を出ていない。

新たに、昭和51年度から発足される第3期住宅建設5ヵ年計画では、今、国を初めとして、地方公共団体で計画の策定に当り、色色な見地から住宅の見直しを行っておられ、当公団も、その計画には種々の計画目標を立てなければならないが、住宅の量より質の時代に入ることは言うまでもない。住宅の質といっても、現在、一番問題となっている広さ、規模の外に、設備の面を含めて居住性のレベルアップが問題となるであろう。

住宅規模では、20年のあゆみの中でも、後半に入り相当の規模増が行われ、大型住宅のしめる割合が増加してきて、鶴山台団地の3LDK、4DK、男山団地の低層4DK、また、ハウジング、コンペを行った泉北O団地も4LDKなど、大規模住宅の建設が、目じろ押しとなってきた。

鶴山台団地　特74O－5 N－3 LDK　　特74O－5 N－4 DK



図－5

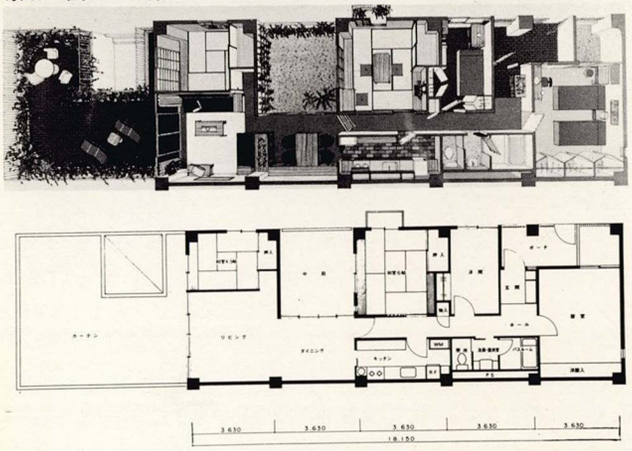
また、設備面でも、暖房給湯等の種々の設備向上がなされてきたが、今後の方向として、広さの面では、本域提案にもあるように、その規模を約90㎡を目標とする一方、ライフサイクルに合った住宅の住替えをも考えられなければならないと思う。

住替えについては、ひとり公団住宅相互のみならず、公営、公社住宅を含む公共住宅全般を対象とし、所得階層別（エアーポケットのない）、家族構成別の住替ができるようにしたいものである。

泉北O団地



泉北O団地　特75O－4LDK－分



また、既存の「団地サイズ」住宅で、しかも、小規模な住戸については、2戸を1戸の大型住宅に変える等の措置など、最近話題となってきた既存住宅の増築をも環境等の悪化につながらない限り、前向きの検討がなされることになろう。

設備面では、暖房給湯（ゴミの廃熱利用）にとどまらず、現在研究がなされている省資源のための中水道、太陽熱利用等の実用化促進は、ひとり公団のみものものでなく、国全体にかかせないものとなってきており、ますます新しい試みが必要となってきている。

その昔、上水を車で給水していたものが、パイプ給水に替り、汚水処理においても、現在、車（バキューム車）で処理しているところも多いが、それも、近年全て、公共下水道等によるパイプ輸送に替るごとく、ゴミの処理も、現在の集塵車（ロードパッカー車）が、全てパイプ輸送に替る時代がくる事は、予測し得ると思われる。そのトライアルが、森之宮(2)団地のゴミの空気輸送である。また、ゴミを、焼却場とパイプで直結し、その焼却予熱で住宅の暖房を行うなど、公益的施設への還元は、処理場、中水道と似て、巳から出たものは、それ自身で処理するというように、他の者（所）への依存が問題となっている今日、どうしても実現されなければならないと考えると共に、国の補助体系の確立を一日も早く望むものである。

その他、住宅建設に伴う周辺への影響では、日照障害、テレビ電波障害、風害など、新たな問題を提起しているが、どれをとってみても、解決の方法の定説はなく、とりわけ風害については、具体的な因果関係の究明など、これからの問題として山積している。なかでも日照については、判例など、数十件におよび一応の方向が見出されたが、未だ、問題は多種多様にわたって一般解決はない状況である。

また、テレビ障害においても、新宿のビル街の影響が、遠く千葉方面まで延びて、手のほどこしようがないとの、報道があったが、公団でも例にたがわず、大きなものでは影響戸数が1万戸にも及ぶ例も出ているのが現状である。ニュータウンでも、住宅棟相互での電波障害などが起っており、被害者が原因者にもなるという複雑なものとなっている。このようなことをさけるため、CATVの採用にふみ切っているものが出てきている。公団においてもこれらの検討を今後進めることが必要となろう。

そして、風害にいたっては、具体的な対策方法が確立されていないが、これまでの配置技法に加えて、たとえば、低層から高層までミックスさせるなど、新らしい空間化の手法が求められる。

おわりに

大都市への産業、人口の過度集中が種々の弊害を生み出しているため、人口の集中を抑制するという議論が以前から展開されている。そして、そのため種々の策がとられているが、いずれもその緒についたばかりで、その効果が現れるには、相当の時間を要するであろう。

その間にも、世帯分離や住宅の老朽化が進行し、あるいは、住水準の向上に伴い、相対的に狭い過密住宅が増加するなど、良質な住宅に対する需要は、当分衰えをみせることはないと思われる。人口集中抑制論、大都市改造論などは、それなりに意義があるとしても、現在の住宅需要を満たすためには、地道な施策を粘り強く進めることが必要である。それには適切な計画と、施設整備を伴って、既成市街地を再開発するか、または市街化する区域を外周に発展させるかのいずれかしかない。

再開発と外延的発展は、いずれも公団がすでに実施してきた事業である。確かに戦後の経済発展が、社会資本の充実をあと回しにしてきたため、そのひずみが、公団の事業の遂行に大きな障害となっている。しかし、その状況を悲観的にとらえるばかりでなく、問題点の所在を明らかにし、その解決を早めるように努力することこそ、公団に課せられた使命であろう。

事実、公団事業を通じて問題があらわれ、解決に進み出した事がらは数多くある。公共公益施設の整備に対する国の助政策の拡大は、その最も大きなものであろう。

また、今後においても、公団が積極的に改善を要望していくべき事がらは多い。関連公共施設の整備にかかわる国の補助、地方債および地方交付税の大幅な改善、開発者負担規準の明確化、関連公共施設整備費用の立替制度の改善など、いずれも早急に措置を講じる必要があろう。これらの一つずつは、そのまま地方公共団体の団地お断り論の緩和に連なるものである。公団の開発を受け入れることが決してマイナスにならないような条件づくりこそ、現状打開の最短距離といえるのではなかろうか。

一方、公団においても配慮すべき問題がある。たとえば施設整備水準の一層の向上、公団団地のコミニュティ施設の整備、団地景観の調和、規模の問題、住宅性能の問題、家賃の問題等、公団に対する種々の指摘、批判も多い。公団は、これらについての意見を謙虚に受け止め、理想的なコミニュティの形成を目ざして、たゆみない前進を続けていきたいと考える。

公団はこの20年間、大都市地域での、住宅、宅地不足の解決に全力をあげて取組んできた。しかし、この間、経済の高度成長、これに伴う都市の急激な発展という巨大な流れに対しては、必ずしも十分に対応し得ず、ややもすれば、これに押し流されようとした、と言える面もある。

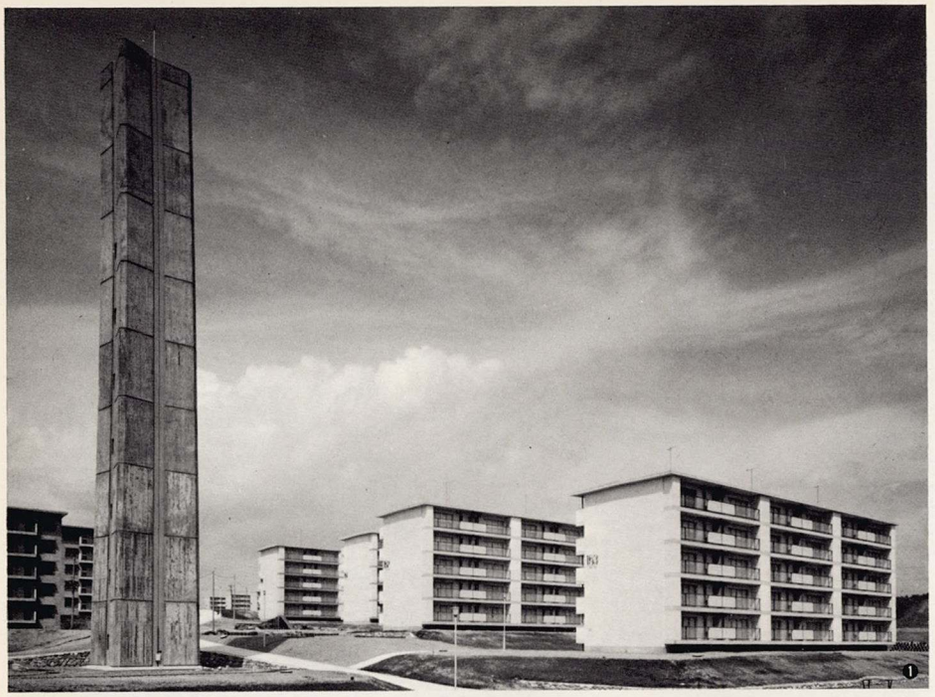
しかし、今20周年を迎えて、住宅生活環境の整備に対する国民の期待は、非常な高まりをみせている。この時期にあたり、国の住宅政策の重要な担い手である住宅公団は、その責任の重さを思い、国民の期待にこたえるよう努めていきたいと考えている。

男山団地センター地区

設　　計：坂内建築設計事務所
所 在 地：京都府綴喜郡八幡町
建築面積：1,825.92㎡
延 面 積：9,448.16㎡
構造規模：ＳＲＣ 14Ｆ 11Ｆ 10Ｆ 各１棟
　　ＲＣ ２Ｆ ２棟
工　　期：1973.4～1975.1

施工　松村組

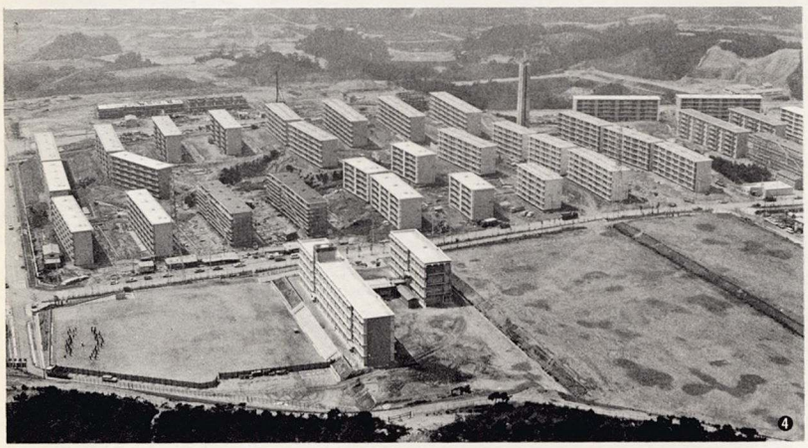








①新多聞団地Ｋ地区　②③(普)箕面粟生団地Ｄ地区　④⑤新多聞団地Ｇ地区　(①～⑤公団標準設計)





日本住宅公団関西支社
昭和49年工事優良施工表彰作品

昭和49年工事優良施工表彰業者(PR)

(順不同)

(別)新多聞団地Ａ地区建築その他工事
明石土建工業株式会社
明石市東王子町１－626－１
ＴＥＬ (078)923－0001(代表)

新多聞団地Ｇ地区建築その他工事
株式会社岡工務店
神戸市兵庫区水木通10－２－31
ＴＥＬ (078)576－2626(代表)

醍醐石田団地第二期Ａ地区高層建築その他工事
株式会社新工務所
大阪市北区曽根崎中１－43
ＴＥＬ (06) 313－1331(代表)

豊里市街地住宅Ｂ地区建築工事
鹿島建設株式会社 大阪支店
大阪市南区鰻谷西之町６
ＴＥＬ (06)245－2311(大代表)

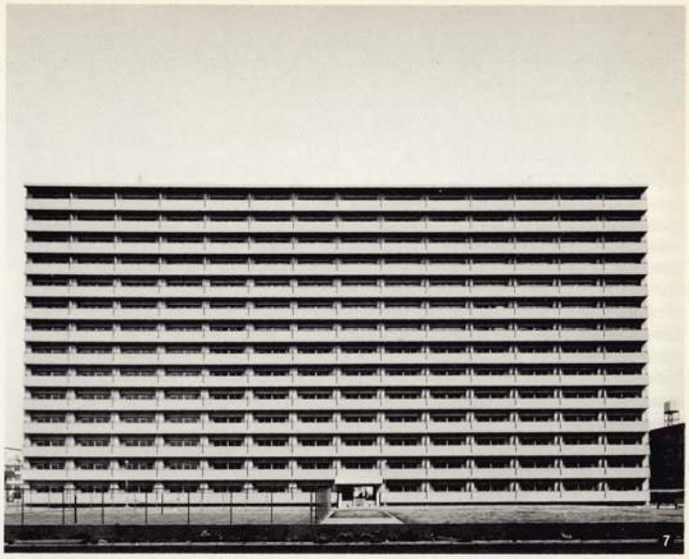
新多聞団地Ｋ地区建築その他工事
株式会社大橋組
神戸市葺合区大日通1－2－1－16
ＴＥＬ (078)241－8211(代表)

(普)箕面粟生団地Ｄ地区建築その他工事
甲南建設工業株式会社
大阪市淀川区十三本町２－４－28
ＴＥＬ (06) 302－1551(代表)

豊里市街地住宅Ｃ地区建築工事
男山団地第三期Ｆ地区建築その他工事(公団事業協力該当工事)
株式会社大林組
大阪市東区京橋３－37
ＴＥＬ (06)943-1131(大代表)

醍醐石田高層団地Ｇ地区建築その他工事
株式会社鴻池組
大阪市東区北久宝寺町４－27
ＴＥＬ ダイヤルイン(06)244-3500(受付台)





⑥醍醐石田団地第２期Ａ地区高層（設計　共同設計）　⑦大阪南港高層団地　⑧小栗栖団地Ａ～Ｃ地区　（⑦⑧　公団標準設計）



昭和49年工事優良施工表彰業者（ＰＲ）

（順不同）

新多聞団地Ｉ地区建築その他工事 **阪口建設株式会社**	大阪市東区京橋３－68 ＴＥＬ（06）941－8441（代表）	花山東高層団地Ｃ地区建築その他工事 **株式会社増岡組大阪支店**	大阪市東区今橋１－14 ＴＥＬ（06）202－3264（代表）
大阪南港高層団地建築その他工事 **株式会社竹中工務店**	大阪市東区本町４－27 ＴＥＬ（06）252-1201（大代表）	小栗栖団地Ｂ地区建築その他工事 **宮部建設株式会社**	大阪市浪速区桜川１－1039 ＴＥＬ（06）561－7075（代表）
豊里市街地住宅Ａ地区建築工事 **鉄建建設株式会社 大阪支店**	大阪市大淀区天神橋筋6－5（天六阪急ビル） ＴＥＬ（06）358－0321（代表）	光明池地区和泉市公共下水道甲斐田川幹線築造その１工事 **東洋建設株式会社 大阪支社**	大阪市西区江戸堀北通１－18 ＴＥＬ（06）４４３－８９７１
豊里市街地住宅Ｄ地区建築工事 **前田建設工業株式会社 大阪支店**	大阪市都島区東野田町2－4－20 ＴＥＬ（06）353－7891（代表）	金剛東地区中部雨水幹線築造工事 **不動建設株式会社**	大阪市東区平野町５－30 ＴＥＬ（06）201-1121（大代表）





⑨⑩⑫
豊里市街地住宅Ａ～Ｄ地区
⑪ 豊里市街地住宅全景
（設計　東畑建築事務所）





日本住宅公団関西支社
昭和49年工事優良施工表彰作品

昭和49年工事優良施工表彰業者（ＰＲ）

（順不同）

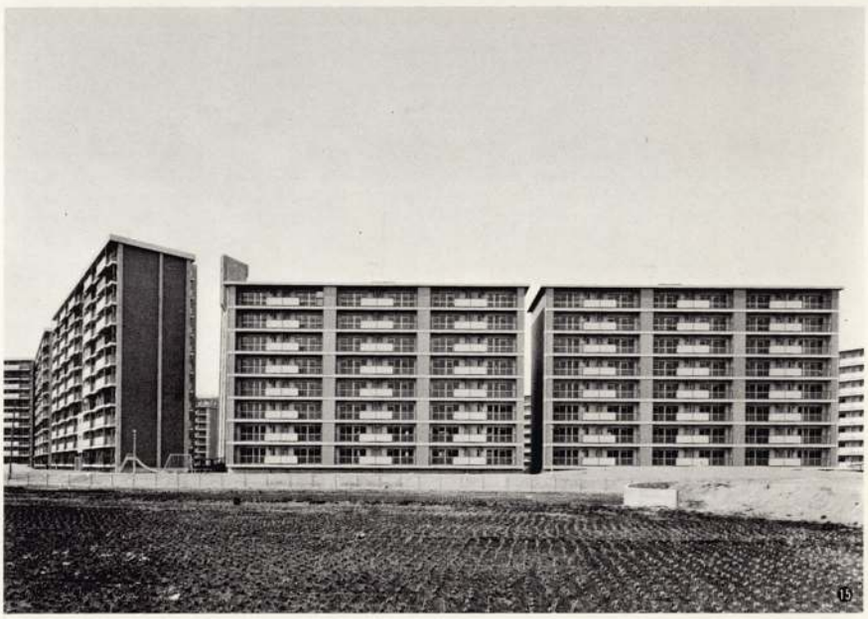
八幡地区第６工区整地工事 日本国土開発株式会社 大阪支店	大阪市東区北浜2－22（三井信託ビル） ＴＥＬ（06）231－2564（代表）	新多聞団地ＢＣ地区屋内外電気工事 沖電気工事株式会社 大阪支店	大阪市東区安土町４－10 ＴＥＬ（06）261－9136（代表）
光明池地区和泉市公共下水道汚水幹線築造その２工事 三菱建設株式会社 大阪支店	大阪市北区梅田２（第一生命ビル） ＴＥＬ（06）341－7141（代表）	新多聞団地ＨＪ地区屋内電気工事 京阪電気興業株式会社	大阪市旭区中宮２－13－24 ＴＥＬ（06）951－3271（代表）
新多聞団地センター地区造成その他工事 株式会社 今西組	大阪市天王寺区上本町７－２－１ ＴＥＬ（06）７７９－３３６１	豊里市街地住宅Ａ地区電気工事 三和大栄電気興業株式会社 大阪支店	大阪市淀川区西中島４－２－21 ＴＥＬ（06）301－1261（代表）
（別）新多聞団地第１工区道路その他工事 （別）新多聞団地第１工区道路舗装工事 旭化建工業株式会社	大阪市北区茶屋町38 ＴＥＬ（06）371－6555～7	（別）新多聞団地Ａ地区屋内外電気工事 西宮電機工業株式会社	西宮市池田町13－９ ＴＥＬ（0798）34－1185





⑬⑭⑮ 醍醐石田団地高層G地区
（設計　共同設計）

⑯⑰ 男山団地第3期GH地区
（公団標準設計）





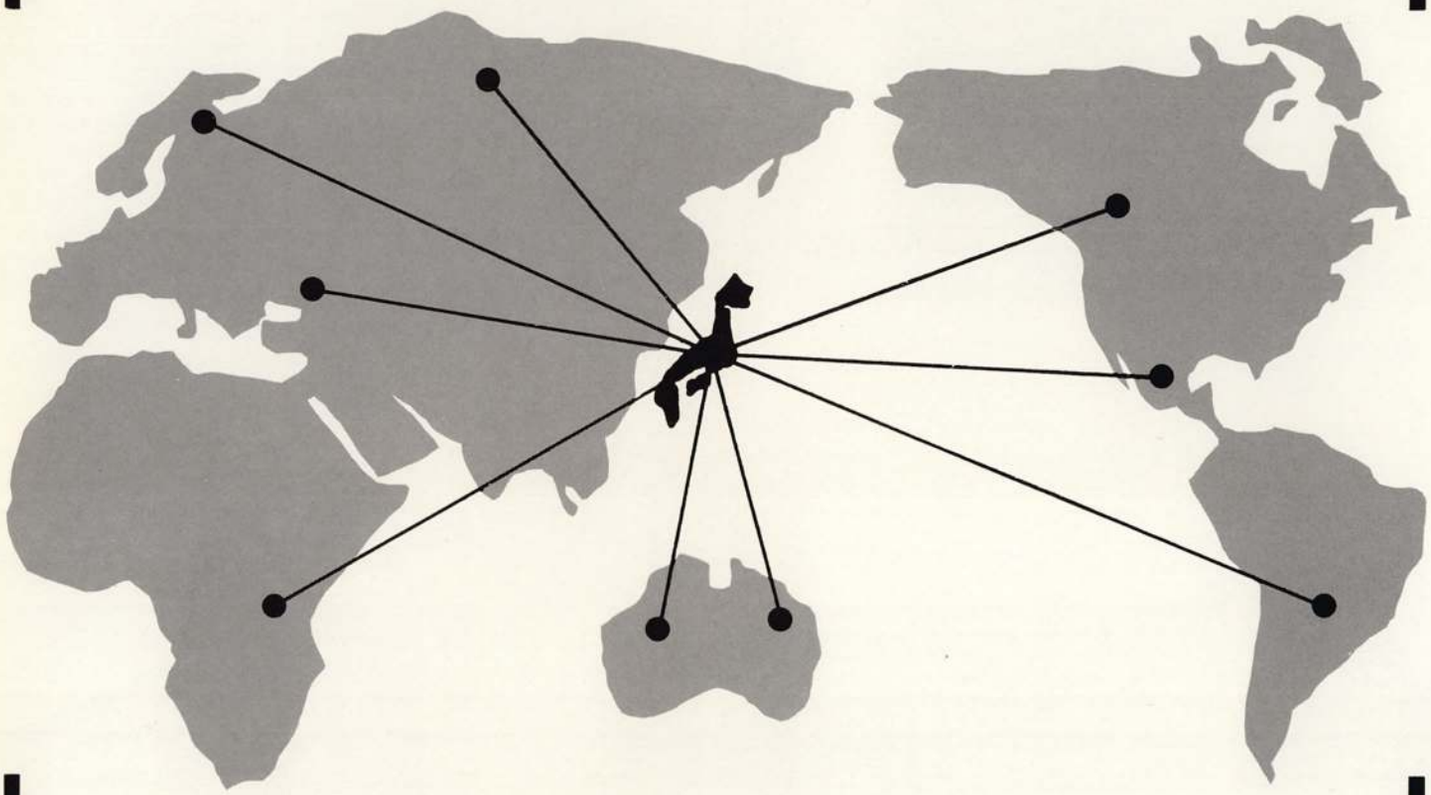


昭和49年工事優良施工表彰業者（PR）

（順不同）

新多聞団地Ⅰ地区屋内電気工事 松重電機株式会社	大阪市東区今橋2－16 TEL (06) 231－6951～3	新多聞団地G，H，Ⅰ地区造園工事 株式会社植捨組	本社　伊丹市荒牧字山道10－1 営業所　宝塚市雲雀丘2－1－8 TEL (0727)81－1536 TEL (0727)59－9505・7651
小栗栖団地A～C地区屋内衛生工事 株式会社大鳥居工業所	京都市右京区西院西田町30 TEL (075)313－2191(代表)	新多聞団地LMN地区造園工事 関西植木株式会社	大阪市西区千代崎町2－17－10 TEL (06) 581－3401(代表)
大阪南港高層団地衛生その他工事 株式会社三晃空調	大阪市北区富田町16 TEL (06) 363-1371(大代表)	新多聞団地JK地区造園工事 田中建設株式会社	伊丹市荒牧東鍵田7 TEL (0727)81－1659
新多聞団地KL地区屋内衛生工事 株式会社西原衛生工業所大阪店	大阪市大淀区中津南通4－11 TEL (06) 458－3531(代表)	小栗栖団地ABC地区造園工事 株式会社辻本龍松園	尼崎市田能1149 TEL (06) 491－9307(代表)

日本住宅公団指定壁布



古く新しい　サイコークロス

全国各地にあるサイコークロス

世界に拡がる　サイコークロス

建材に拡がる　サイコークロス

サイコーは原糸より最終製品迄一貫生産販売している業界唯一の存在です。

サイコー株式会社

本　　社　大阪市東区南本町１丁目22番地(第２サイコービル)
ＴＥＬ　大阪（06）261－9671～9677

東 京 店　東京都台東区台東１丁目22番地の４(第１サイコービル)
ＴＥＬ　東京（03）833－8571～8575

名古屋店　名古屋市中区西境町３丁目25番地(丸　田　町　ビ　ル)
ＴＥＬ　名古屋(052)262－7846～7847

製造部門　梶田工業株式会社
本　社　京都府相楽郡加茂町大字北小字船屋３番地

製造部門　サイコー化工株式会社
本　社　滋賀県栗太郡栗東町大字小柿５７６番地

Rubberized Asphalt





タフネス防水仕様

フジシール防水PC仕様

昭和石油アスファルト株式会社

東　京　東京都品川区南大井1－7－4　Tel　03-761-4271(代)
大　阪　大阪市北区梅田町27　産経ビル　Tel　06－341－6395
名古屋　名古屋市中区丸ノ内1-17-19 長銀ビル　Tel　052-231－6568
新　潟　新潟市平和町4－1　Tel　0252-74－7561
福　岡　福岡市博多区綱場町2-2 福岡第一ビル　Tel　092-291－0008

建設省東計振発第246号認可

ゴムアスファルト防水工事業協同組合

昭和石油アスファルト株式會社

東亜アスファルト防水

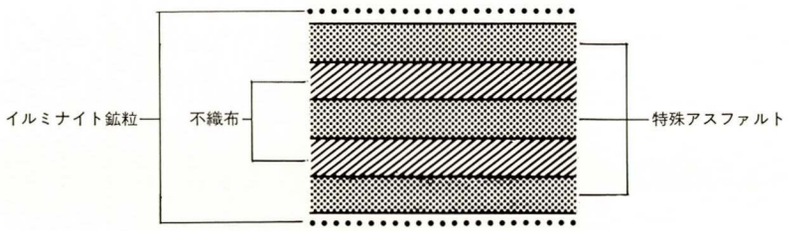
年限仕様

近代アスファルト防水工法に即した

ビニボンデル

乾式法による合成長繊維不織布(スパンボンド)を骨材としたルーフィング二層分を特殊工程にて貼合した積層品です。

この種の芯材としては均質強靱で、加えて引張り強度もあり、且つ伸び率抜群で柔軟性があります。特に原布のスパンボンドは長繊維であり多孔質のためアスファルト浸透率および含有量も大で、アスファルト防水層の骨材より一歩進んだもので製品そのものが一つの防水層といえるものです。



近代建築様式に適した特殊ルーフィング類

- ■ビニボンデル
  (合成長繊維不織布積層品)
- ■TNパワーシート
  (合成長繊維不織布)
- ■TNスポット
  (穴あき砂付グラス繊維不織布)
- ■TNグラスシート
  (グラス繊維不織布)
- ■TNコート
  (特殊コンパウンド)

●建設省計振発第55号認可

東亜アスファルト防水事業協同組合

〒581　大阪府八尾市南太子堂6丁目4-27　TEL.0729-23-3921

名古屋連絡所　〒462 名古屋市北区長喜町4丁目1　東亜工業㈱内　TEL.052-991-4855
和歌山連絡所　〒640 和歌山市寄合町1(藤井松ビル内)　興陽産業㈱内　TEL.0734-22-3705
広島連絡所　〒733 広島市舟入町7-9　丸福建材工業㈱内　TEL.0822-32-6155
北陸連絡所　〒921 石川県金沢市入江町イ20番地　北国防水工業センター内　TEL.0762-91-0759

●東亜印ルーフィング　**東亜工業株式會社**

本　社　〒581　大阪府八尾市南太子堂6丁目4-27　TEL.0729-23-3921

住宅部品工業化のパイオニアとして建築生産の近代化を担う!!

内装システムの一貫性をテーマに……

《住む人の身になって》
より良く——品　質
《造る楽しみとして》
より早く——施工性
《注文の味わいをもって》
より安く——コスト


〈公団住宅〉

トータルシステムとしての内装



天井・壁・床・開口部など、これら各部位を個別に考えるのでなく、部屋全体を一つの部位として、トータルの中から、機能性・居住性など全る特性を追求しています。
パネ協は、現在公共住宅などで採用されているパネル組立方式を最初に開発した内装施工技術をさらに前進させています。

工業化のための部品・部材



一つ一つの部品・部材は一見何んでもないようですが、内装システムの中から生まれたもので、内装工事での重要なカギをもっています。パネ協創立の第一目標に掲げた〝建築生産の近代化〟は、現場一品生産方式から各部材を工場で量産し、施工の省力化、品質の安定、コストの引下げを行ないます。



NJP
パネ協

日本住宅パネル工業協同組合　大阪支所　大阪市北区富田町46（第２富田町ビル）☎06（313）3321代　〒530

丸菱油化の責任施工
内外装高級吹付仕上剤

TRADE MARK
E B C

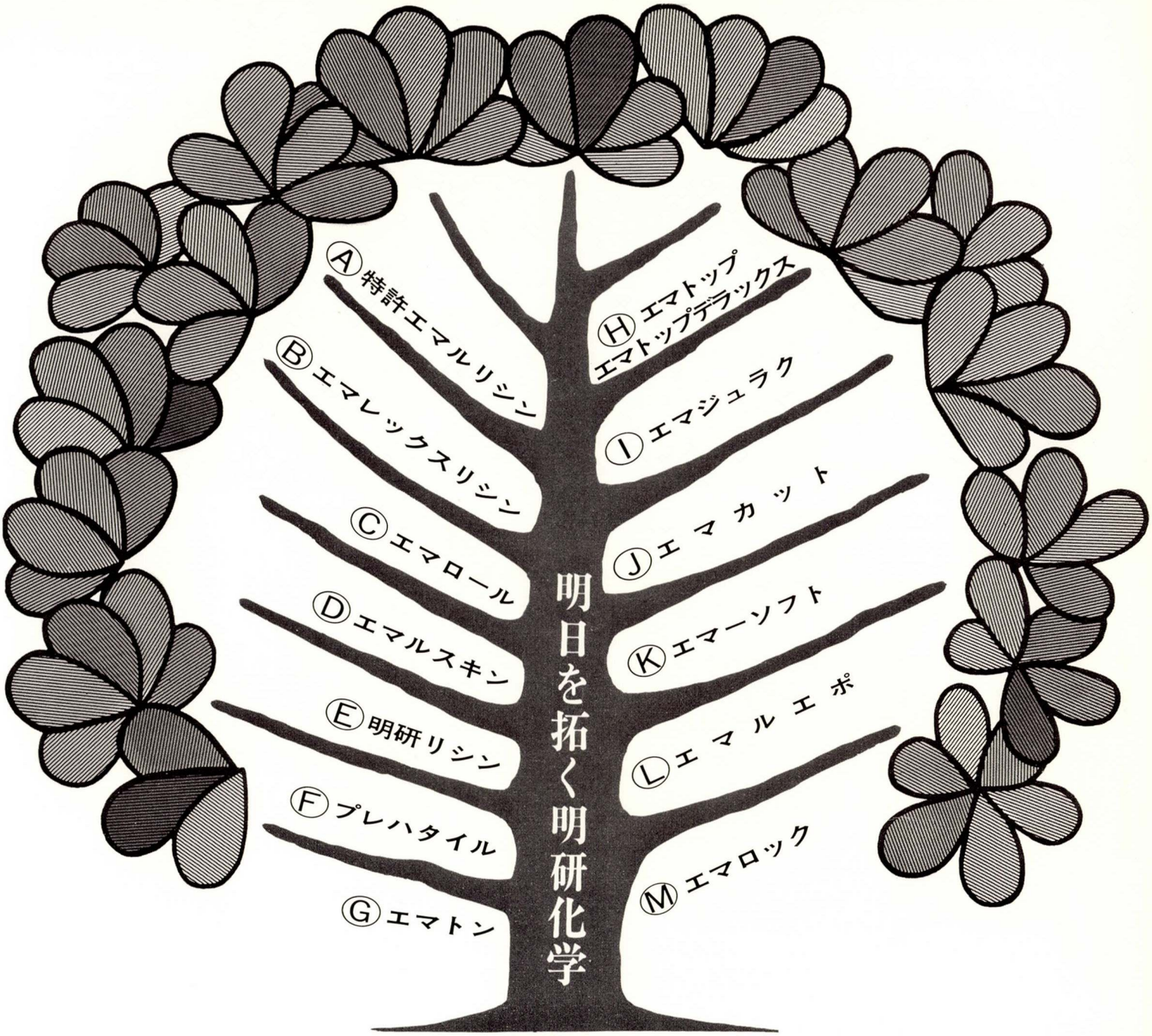


ノーベルリシン
ノーベルコート
アートタイル
ノーベルキング゛タイル
ノーベルデ゛ラックスタイル

丸菱油化 工業株式会社

建剤事業本部　大阪市北区芝田町57（西阪急ビル５Ｆ）　〒530 TEL（06）372－5431（代）
本社・工場　大阪市都島区友渕町３－７－１２　〒534 TEL（06）928－0331（代）
東京営業所　東京都千代田区丸之内3-3-1（新東京ビル5Ｆ）　〒100 TEL（03）212－8866～８
名古屋営業所　名古屋市中村区笹島町1-221-2（トヨタビル6F）　〒450 TEL（052）561－4251～4
福山営業所　広島県福山市昭和町６－27　〒720 TEL（0849）22－3292・3260

明研の内外装防水化粧用吹付塗装材



Ⓐ エマルリシン	化粧用セメント吹付材
Ⓑ エマレックスリシン	合成樹脂エマルション砂壁状吹付材A類
Ⓒ エマロール	合成樹脂エマルション砂壁状吹付材A類
Ⓓ エマルスキン	合成樹脂エマルション砂壁状吹付材B類
Ⓔ メイケンリシン	セメント系複合型吹付材（厚吹型）
Ⓕ プレハタイル	セメント系複層模様吹付材
Ⓖ エマトン	複層模様吹付材（合成樹脂エマルション系）
Ⓗ エマトップ	合成樹脂エマルション砂壁状吹付材A類
Ⓘ エマジュラク	合成樹脂エマルション砂壁状吹付材A類
Ⓙ エマカット	合成樹脂エマルション砂壁状吹付材A類（厚吹型）
Ⓚ エマーソフト	合成樹脂エマルション砂壁状吹付材C類
Ⓛ エマルエポ	複層模様吹付材 反応硬化型合成樹脂エマルション系
Ⓜ エマロック	合成樹脂エマルション砂壁状吹付材B類（厚吹型）

建築用吹付壁材・壁塗料の総合メーカー

明研化学工業株式会社

本　　社　明石市藤江中谷町888番地　(078)928－3456(代)
第二工場　神戸市垂水区岩岡町野中字福吉５６４
営 業 所　大阪・東京・名古屋・広島・福岡　駐在所　仙台







豊かな住まいづくりに、創意と技術の追求——

信頼に応える技術のYKK

現代ビルに要求されるメカニカルな機能美、経済性や軽量性、短期工法など構造技術の進歩に、YKKビル用アルミサッシは充分に応えています。
常に創意と技術の追求を続け、居住性の高い信頼される製品を生産しております。

●JIS表示許可工場㋮A4706：KJB製作認定工場
●BLマーク認定製品（防音サッシ・手摺ユニット）

YKK ビル用 アルミサッシ

吉田工業株式会社　吉田商事株式会社
本社／東京都千代田区神田和泉町1 ☎（03）866－7241
支店／大阪市東区両替町1－2　☎（06）942－2351
生地工場／富山県黒部市吉田200　☎（0765）56－8500

◀会員の受賞（建設大臣表彰）

このたび下記会員諸氏は、建設界における多年の功績によって建設大臣表彰を受けられました。こゝに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

記

谷口尚武氏（㈱大林組専務取締役）
福頼圭蔵氏（㈱新興建材工業所社長）
藤岡正一氏（藤岡設計事務所長）
村上二郎氏（サンエス石膏㈱代表取締役社長）
山崎達夫氏（マルエス工業㈱社長）

◀通常総会議決報告

昭和50年6月26日開催の通常総会におきまして、下記議案がそれぞれ原案のとおり承認されましたので、ここに会告申し上げます。

記

1　昭和49年度事業報告
2　昭和49年度収支決算報告
3　昭和50年度収支予算

以　上

社団法人　日本建築協会

◀沖縄海洋博建築写真集申込受付

詳細7月号会告欄参照、会員特価2,600円（送料200円別）

◀なにわのかくれた散歩道を歩く

――ディスカバー大阪・その1――

高津（こうづ）の宮の昔より現代に至るまで長い歴史を有する大阪には由緒ある史跡や神社・寺院が数多く残されています。しかしながらその多くのものは人の目にふれることも少なく忘れさられようとすらしています。

若い会員の集いでは、私達が日頃身近に接していながら見すごしている歴史的な史跡などを自分達の足で一つ一つ確かめて大阪を見なおそうという企画をたてました。

今回は、それらのうちで大阪城の南部にある越中井戸・真田山公園・円珠庵を初め上町台地に点在する高津神社・生国魂神社・愛染堂などを訪れてみようと考えています。

いままでとはちょっと違った大阪の顔を発見できるかもしれない散策を一緒に楽しんでみませんか。

多数のご参加をお待ちしています。

日　時　10月18日(土)　集合13：30→解散17：00

集合場所　大阪府立青少年会館前・目標会旗（東区森之宮西之町）
ただし、地下鉄・環状線「森ノ宮」駅より中央大通を西へ徒歩5分左側

定　員　30名

会　費　300円（資料代・その他）

行　程
13：30→14：15　越中井戸・真田山公園（休憩）
14：30→15：30　円珠庵・井原西鶴墓
近松門左衛門墓・高津神社（休憩）
15：40→16：30　生国魂神社・愛染堂（休憩）
16：40→17：00　清水寺・増井の清水・安居神社
（懇談の後、解散）

※解散地－最寄駅・地下鉄「谷町線・四天王寺」

〔注〕●小雨決行、水筒おやつ類を持参して下さい。●徒歩全行程　約5㎞

申　込　往復はがきに限ります。はがきは1名に1枚限りとし、氏名・勤務先名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し「ディスカバー大阪・その1」と明記の上、9月30日(火)までに建築協会事業課へ。ただし、定員を超過したときは抽せんにて決定し、ご通知いたします。

昭和50年度　茶室見学会（第1回）

◀大徳寺の茶室見学の会（1）

恒例の茶室見学は本会名誉会員の岡田孝男先生の御案内により、京の茶室の宝庫といわれる大徳寺を2回にわたり見学することにしました。多数のご参加をお待ちいたします。

1.龍光院の密庵（国宝）　密庵は四帖半台目、下座床、中柱、台目切密庵床つき。江戸時代初期、小堀遠州の好みです。

2.玉林院の蓑庵と霞床の席　蓑庵は三帖中板、下座床、中柱、台目切り（重文）
霞床の席は四帖半、霞床付（重文）。いずれも江戸時代中期、山中石窓の好みです。

3.高桐院の松向軒　松向軒は二帖台目、下座床、中柱、台目切り。江戸時代初期、細川三斎の好みと伝えます。

日　時　10月25日(土)　集合13：30→解散16：00

集合場所　京都市北区紫野大徳寺勅使門前・目標会旗
〔参考〕　市バス…京都駅前（西出口前）又は阪急電車四条烏丸バス停より（204甲）乗車→大徳寺前下車（50円）
※京阪三条からは乗替えで直通はありません。

講　師　帝塚山学院大学教授　工学博士　岡田孝男氏

定　員　30名

会　費　1,200円（拝観料、抹茶その他）

申　込　往復はがきに限ります。はがきは1人に1枚限りとし、氏名・勤務先名及び所在地名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、「大徳寺の茶室見学(1)」と明記の上、10月11日までに建築協会事業課へ。
ただし、定員を超過したときは抽せんにて決定し、ご通知いたします。

附記　本年度第2回茶室見学の会として来る11月15日(土)の午後、同様岡田先生の御案内で大徳寺の真珠庵の庭玉軒、孤篷庵の忘筌及び山雲床の席、三玄院の黙庵を見学する予定です。なお詳細は「建築と社会」10月号に会告いたします。

◀投稿募集!!『私の《きらい》な空間』

本誌〝読者の頁〟では「私のすきな空間」につづいて、『私の《きらい》な空間』のテーマで投稿を募っております。

日常生活の中、街を歩いたり車で通るとき、建物、街角、界隈などで、妙に気にかかる場所、異和感や抵抗をおぼえるところ、不快感や嫌悪をもよおし無意識のうちに避けているところ、また、目ざわりに感じておられるところを、その原因、理由、空間の構成要素なども含めてレポートして下さい。

近年、環境がかなり意識されてきていますが、きらいな空間はややもすれば避けられ、問い直されることも少なく意識下に沈められがちではないでしょうか。今回、しいてこれらを見据え、反面教師としてアプローチするとともに、その現実をもさらなる想像力の糧にできれば、と考えております。

下記要領にて、ふるってご投稿下さい。

記

●場所は特に限定いたしませんが、できるだけ知られた場所を希望します。
●建築に直接関係されていない方の投稿も歓迎いたします。
●その空間の雰囲気を伝える写真（手札以上）またはスケッチ（スミ書き、ハガキ大の大きさ）を添付下さい。
●見出しのタイトルは、各自でつけて下さい。
●字数800字以内
●締切　昭和50年10月3日(金)
●掲載分には薄謝進呈
●おくり先　〒541　大阪市東区北浜3－37
社団法人　日本建築協会　編集部

昭和50年度・第3回若い会員の集い

解体修理中の古建築見学会(第4回)

――国宝・東福寺三門その他――

レポート

7月5日、心配していた梅雨空が、ぽつりぽつりしだしたころ見学会は始まった。

まず当日の講師である京都府教育庁文化財保護課の川嶋、中尾両氏の紹介があり、引き続き川嶋氏より東福寺の歴史と三門解体修理工事の概要説明がなされた。東福寺の開創は、藤原忠平が法性寺（東福寺の前身）を延長年間（923～931）に建立した事に遡ることができる。三門の造営については明らかではないが、法堂の落慶が文永10年に行われていることから、この頃には三門も建立されていたものとみられるが、元応元年(1319)、建武元年(1334)、同3年(1336)と回禄の災に遭い三門もこのとき焼失しており、現存する三門はその後の再建になるものである。至徳3年(1384)には工事中とみられる記録が残されているが、三門の掲額は応永32年(1425)となっている。

その後の修理については、慶長9年(1604)～享保5年(1720)にかけての3度の屋根葺替が知られており、寛政3年(1791)～同4年にかけての二重小屋組の修理、隅支柱の補入、板壁による補強等かなり広範な修理が行われており、現在に至っている。

今回の見学会の特色は、現在、わが国で行われている解体修理工事として最大規模であることと、解体修理工事としてゆるされる限り現状の新しい技術が導入されている点にある。まず旧楼門根石の遺構を保護するためのコンクリート杭およびS.R.C造の地中梁工事があり、三門の巨大な重量を支える柱内部には鉄骨の補強部材が入れられている。また長大な軒先を支えるために垂木裏には鉄骨梁が注意深く挿入されることとなる。そしてこれらの工事をスムーズに進行させるために、巨大な鉄骨造の素屋根がかけられ、数基のクレーンが工事現場内を走行している。

見学会に参加したわれわれはこれらの新しい技術が約600年の歳月を経た、かけがえのない文化遺産を守るために実に注意深く使用されている点に強い興味をひかれると同時に、川嶋氏が見学会の中で話された、「昭和に生きるわれわれの使命は、現代の技術を駆使し先祖から受け継いだかけがえのない文化財を次の世代に正しく伝えることだ。」という言葉に深く感銘を受けた。

見学会は、現場の広さ等の問題もあり、2班に分かれて行われることとなり、東福寺境内の法堂、禅堂、通天橋その他の見学コースと、三門解体修理現場コースとに分かれる。

約2時間後、それぞれの班が無事見学をおえ、東福寺の塔頭の一つである竜吟庵にて懇談会がもたれた。あいにくの梅雨空でもあり、約2時間熱心に見学したためか、参加者全員いささかグロッキー気味ではあったが、熱いお茶を飲みながら、風通しのよい広縁での懇談会は、川嶋、中尾両講師を中心にして、活発にしてなごやかな雰囲気の中で進められた。（赤木圀文記）

今回は企画当初より京都府文化財保護課の川嶋一雄氏、中尾正治氏に多大のご協力をいただきました。誌上より厚くお礼申しあげます。





伝統的な大工技術を現代に生かしてほしい

――東福寺三門見学会に参加して――

東野良平

東福寺は京阪鳥羽街道下車、南東へ約10分ほど歩いたところにある。東福寺は今も多くの塔頭を持ち、(竜吟庵は重要文化財)伽藍諸堂とあわせ、広大で閑静な一郭を形成している。しかもここには、京都五山の伽藍諸堂が中世の遺構を残さないのに比べ、三門を始め数棟の中世の遺構を残しているのは貴重といわざるを得ない。

今日はその三門の見学会である。三門は上層の高欄を禅宗様とし、組物を大仏様系とする、和様に大仏様を色濃く採用した様式を持つといわれる。大仏様を採用した遺構は現在知られている範囲ではその数が少なく、その点でも異彩を放つ建築といえる。恐らく、三門として最大級のこの建築は、大仏様が大規模な建物に好んで良く用いられたことを思えば、やはり、その例にもれないであろう。

ところで、今回の見学会の焦点は、私見によれば、「鉄骨の補強による古建築の修理」の是非であろう。そこで、この問題に対する私の素朴な意見を簡単に述べてみたい。講師の説明によると、三門は木造屈指の大建築のゆえか、架構上に無理があるらしく、特に、軒先の垂下が避けられない遺構であるという。それゆえ、屋根の傷がひどくなり、幾十年も経ないうちに屋根修理を行わねばならなくなるらしい。したがって、屋根荷重を支える鉄骨を挿入して、直接、垂木や斗栱に伝達させることなく、屋根を補強するということであった。(30～50年ごとに屋根修理をすることは経済的に困難で、税金のムダ使いにもなる？)しかし、おおよそ、建築美は荷重と支持のバランスや合理性のうちに見出されることが多く、建築史は架構の洗練、発展の空間創造によって、その歴史が綴られてきたという見方が許されるなら、鉄骨補強の東福寺三門の垂木や斗栱は単に見せかけだけで、その本質的役割を失うことにならないだろうか。また、法隆寺棟梁西岡常一氏によれば、鉄骨と木造部材の接合は、鉄のクギやボルトがその錆によって木材の生命を著しく早めると警告されている。ただしこの問題は単に修理上の問題にとどまらない。それは文化財行政のあり方、建築技法の研究、建築論等々、さまざまな未解決の問題を包含する、困難な問題であるが、それでもなお、(未熟な私には代案はないが)できることなら、木造はやはり木材で補強し、その欠点を補ってほしいと素朴に思う。

現代は大工技術の低下が叫ばれて久しい。だからこそ私は、わが国が誇るべき伝統的な大工技術を甦らすために、積極的な意味で古来の技術に忠実であってほしい。

私は、社寺建築が多くの現代人には縁遠い存在となり、文化財あるいは観光の対象としてしか縁の無いものとなりつつあることに対し、現代に甦らす努力とともに、古きものの中から新しい発見の可能なことを学びたいと思う。なぜなら、伝統という過去のない人間は、住を持たぬ人間は、どこにも、明日への生のエネルギーの原点を持つことができないからだ。……帰りの東福寺日下門前のゆるやかな石畳を降りながら、この企画に骨折られた協会関係各位と修理現場の人々に感謝しつつ、こんなことを考えた。（大阪府立布施工業高校）

日　時	昭和50年7月5日(土) 集合14：00→解散17：00
場　所	京都市・東山区・東福寺境内
参加者	38名
講　師	京都府文化財保護課　川嶋一雄氏 中尾正治氏
行　程	
14：10→15：40	東福寺三門修理現場その他の見学及説明
15：40→16：30	通天橋その他の拝観
16：30→17：00	抹茶、懇談会、終了後現地解散

日本建築協会法規委員会

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

95

法令建築事務所制度の建築確認審査事務に対する活用

昭和48年6月に発足いたしました大阪建築士事務所団体協議会が運営する法令建築事務所制度の、建築指導行政への活用については、過去2ヵ年間に亘り、大阪府下の11特定行政庁と、大阪建築士事務所団体協議会が、協議を重ね、このたびつぎの要領により本年8月1日から実施する運びとなりました。これを運用することは、行政庁と法令建築事務が、相協力し、相互信頼にもとづき特定行政庁の建築主事の業務の一部を、法令建築事務所に委譲するものでありまして、全国的にも類がないものであります。建築士が元来持つべきプロフェッショナル性を最大限に活かされ、かつ、社会的使命の責任姿勢を明確にすることにより、建築士の行政への活用の法制化が図られていくものと思料されるところであります。

（大阪府建築部建築指導課　**梶原明**）

大阪建築士事務所団体協議会が運営する法令建築事務所に対する建築確認審査事務の一部を簡略することの特例扱いの実施について

S50.7.14決定
大阪府下特定行政庁連絡協議会

上記について、昭和48年6月18日付で社団法人大阪府建築士会、社団法人日本建築家協会関西支部、社団法人大阪建築設計協会の三団体からなる大阪建築士事務所団体協議会の自主運営により法令建築事務所制度が発足し、この2ヶ年間において445社の建築事務所が法令建築事務所として、建築指導行政に対し協力し運営がなされたところであります。

これら法令建築事務所を建築確認業務の協力者として活用することについて別添の要望書にもとづき確認審査事務の簡略化並びに審査期間の短縮を図るとともに、建築士の資質の向上と、社会的使命の責任姿勢を確立させることにより、行政庁と建築士が協力して違反建築物の防止につとめ、かつ急激な都市化現象に対応した環境整備を図ることが府民の生命と財産の保護に寄与されることと思料されるので次の要領により、法令建築事務所が作成及び作成に協力した建築確認申請の審査の一部を簡略することとする。

確認審査業務簡略化の実施要領

（目的）

第1．大阪府下の特定行政庁は、大阪建築士事務所団体協議会が運営する法令建築事務所制度の趣旨を尊重し、当該協議会が実施している資格検定を了した者を有している建築事務所（以下「法令建築事務所」という）が、建築指導行政の協力者であることの認識にたって、相互信頼に基づき、確認審査事務を簡略化して、建築主事の確認業務の能率化、迅速化を図り、違反建築物の防止、および現場指導の充実に資することを目的とする。

このため本制度の育成充実につとめ、この要領を段階的に拡大し、法制化を促進することとするものである。

（建築士事務所の範囲）

第2．この要領の適用を受ける建築士事務所は、大阪建築士事務所団体協議会（以下「団体協議会」という）に法令建築事務所として登録した建築士事務所を対象とする。ただし、登録後において、建築基準法第9条の3に基づき、建設大臣、又は大阪府知事に通知され、行政処分を受けた建築士事務所は除く。

（建築物の規模）

第3．この要領の対象建築物は、階数が2以下で、かつ延べ面積が500平方メートル以下とする。

（審査事務の範囲）

第4．この要領の対象となる審査事務は次の各号に掲げるもの以外とする。

一　建築物の敷地に係る関係法令の適合する旨の照合にかかるもの、（施行規則第1条第5項並びに関係法令）

二　道路の定義に係る審査事務（法第42条）

三　敷地と道路との関係に係る審査事務（法第43条府条例第6条第5章）

四　用途地域内の建築制限に係る審査事務（法第48条、第49条、別表第2）

（実施の方法）

第5．この要領の実施の方法は、第2に掲げる士建築事務所の作成に係る確認申請書が、第3に定める規模以下の建築物である場合に限り、第4に掲げる審査事務以外について確認の審査を簡略化し、迅速に事務処理を行うものとする。

（細目）

第6．この要領の円滑な運用を図るため、特定行政庁は団体協議会と協議して、細目を定めることとする。

（付則）

1　この要領の実施の時期は、昭和50年8月1日からとする。

2　第2に掲げる建築士事務所のうち、本要領の適用を受ける建築士事務所は、当分の間、団体協議会に昭和48年度、第1回登録の法令建築事務を対象とする。なお、第2回以降の登録法令建築事務所の取扱いについては、府下特定行政庁連絡会議が、団体協議会に、本要領の適用する旨の通知をした日から実施するものとする。

以上

昭和50年6月4日

大阪府知事　黒田了一　殿
大阪市市長　大島靖　殿
豊中市市長　下村輝雄　殿
堺　市市長　我堂武夫　殿
東大阪市市長　伏見格之助　殿
吹田市市長　榎原一夫　殿
高槻市市長　吉田得三　殿
守口市市長　木崎正隆　殿
枚方市市長　山村富造　殿
八尾市市長　山脇悦司　殿
寝屋川市市長　北川義男　殿

大阪建築士事務所団体協議会会長　小河吉之助

拝啓　時下要務ご多端の折柄、建築士事務所の業務について、格段のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、過般当建築士事務所団体協議会が運営に当っております法令建築事務所制度に関しまして、去る昭和50年4月1日付の要望書で、法令建築事務所が行う確認申請についての特例扱いの実施方をお願い申し上げたところでありますが、当協議会の本制度の運営及び特例扱いへの対応措置については、下記の基本方針に基づき登録建築事務所を指導し、かつ各自の自主規制に努めて参りたいと考えておりますので、特例扱いの早期実施方をあらためて要望申し上げます。

記

1.（法令建築事務所制度の主旨）
本制度は、建築士法に定められた建築士事務所が、本来持たねばならない資質を、特に法令の面から再検討して、これの向上をはかり、建築行政への協力を果そうとするもので、すべての建築士事務所を法令建築事務所の水準に達せしめるための手法でありまして、特定行政庁と法令建築事務所とが協力して、相互信頼の上に立ってこれが制度を積極的に推進するものである。

2.（特定行政庁と法令建築事務所との関係）
特定行政庁は、法令建築事務所が前項の主旨に沿って建築設計、確認手続、工事監理等を通して、建築指導行政への最良の協力者であることのご理解をいただき、指導育成をお願いするとともに、確認事務等の迅速化をお願いする。

3.（法令建築事務所の義務）
法令建築事務所の義務は、別添の「法令建築事務所制度規程」に定める通りであるが、特に次の点について履行に努めることとする。

一　確認申請上疑義がある場合は、必ず特定行政庁の建築主事と事前協議を行う。

二　確認以後の工事監理について責任をもつ。

三　工事が完了したときは、必ず工事完了届の提出を建築主に促し、工事完了検査をうける。

四　特例扱いの運用にともない、法令建築事務所の責任に係る業務範囲の確認上の諸問題は、特定行政庁の協力を得て当該法令建築事務所の責任において解決する。

4.（建築士事務所団体協議会の施策）
法令建築事務所制度規程の適正な運営に努める他、確認申請事務の特例扱いの実施に当っては、当協議会は次の施策を実施する。

一　法令建築事務所の業務実績報告を受けて、各事務所の業務実績を把握する。

二　法令建築事務所の指導のため次のことを実施する。

イ．法令ニュースの刊行による情報提供。

ロ．法令相談室の運営による建築法令相談及び指導。

ハ．実務講習会の実施。

三　法令建築事務所の義務及び責任の履行に関する審判調停のための審判調停委員会を設置する。

四　法令建築事務所としての不誠実な行為のある事務所に対する戒告、登録取消等の処分を行う。

五　法令建築事務所の行った業務に関し、制度規程第7条の責任の履行に係る資金を必要とする場合のための共済基金制度を設ける。

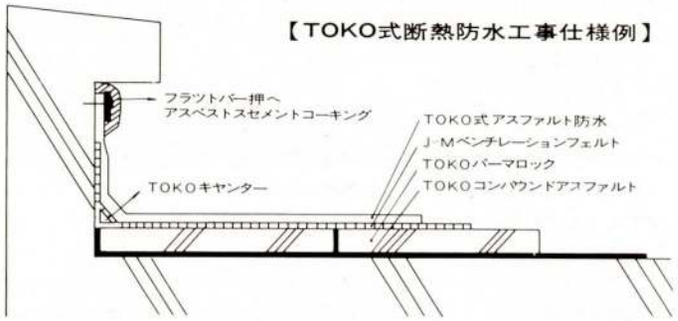
以上

完全屋根断熱防水工事に
パーライトの特性を
100%発揮

軽量断熱・露出防水フクレ防止・防水層のキレツ防止

ＴＯＫＯパーマロックは特殊撥水性パーライトを繊維間に効果的に配合し、パーライトの長所のみを有効的に発揮することに成功した、全く新しい多目的パーライト繊維板です。

【TOKO式断熱防水工事仕様例】



TOKOパーマロック断熱板

■営業種目■ J・M式完全防水工事◆TOKO完全防水工事◆TOKOルーフインサレーター◆TOKO耐酸工事（設計施工）◆TOKOベンチレーション・ルーフィング工法◆シーリング工事◆床タイル貼工事◆他内装工事一般

米国ジョンズ・マンヴィル社技術提携

東興アスファルト工業株式会社

大阪営業所　〒550 大阪市西区阿波座上通1－20（雍翠ビル）
☎ 06（541）7583～4
本社・工場　〒210 神奈川県川崎市藤崎3の65
☎ 044（28）4534（代）
本社営業部　〒105 東京都港区新橋5丁目8番9号（東興ビル）
☎ 03（432）2151（代）　直通（436）4531～2
各地営業所　札幌・仙台・富山・名古屋・広島・福岡

読者の頁

今回、読者の頁では『私のすきな空間』のテーマでの投稿をご紹介いたします。
これに引きつづいて『私の《きらい》な空間』のテーマで、現在、投稿を募っております。街を歩いたり車で通るとき、建物、街角、界隈で妙に気にかかる場所、異和感、不快感、また、抵抗を感じられるところなどを、その原因、理由、空間の構成要素なども含めてレポート下さい。締切は10月3日㈮。尚、その場所の写真、またはスケッチ（スミ書き）も添付下さい。

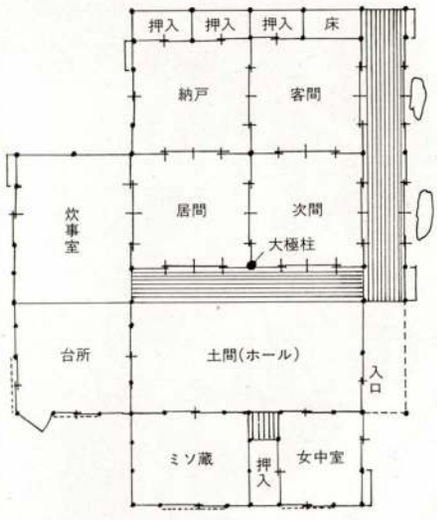
《私のすきな空間》

大極柱のある土間

鈴木忠五郎

これは、明治時代までの一般農家の住宅の土間ホールである。全面積の⅓以上が土間のホールであった。入口は六尺幅の大板扉の引戸で、中に入ると、正面に大極柱、幅広い敷居框と平の鴨居、それに太い小屋梁の乱舞する構造美にはまづ、肝を抜かさんばかり。それに、天井は張ってないので煙出しが明り窓をなし、漏れるかすかな光には、神秘な佇まいがしてくるもの。何分にも広く、悠々としている。客の20人くらい入っても、尚余裕がある。昔は、馬に米をつけたまま入っても、仕事ができた。
こんな馬鹿げたプランの土間は、どこの民家でもあったものだった。だから、家に入った途端、安心したものだった。この土間が、日本人の生活を育んだものと、私は信ずる。
私の忘れ難い少年時代の、すきな空間だった。もう消滅せんとしている傾向は留め難いが、なんとなく惜しいような感がする。現在の建築企画常識からは、到底考えられない。だが、この土間を必要とした農民の生活を、現在の建築家さんは推測できるであろうか。

大極柱のみえる民家の悠々たる土間ホール。10坪を超えるものも少なくなかった。



《私のすきな空間》

神戸、須磨離宮道界隈

稲毛政信

夏の暑い日ざしをあびて、海水浴に下駄をカラコロ鳴らしながら海へ一直線に下りていった思い出。……。
緑の山々を背に前面にキラ、キラと輝く海。そして、両側の整えられた松並木、途中の洋館風の屋根などが、何か異国的で日本にない明るさを出していた。
ここ須磨の離宮道は私の家のすぐ横、好きな空間のひとつだ。今も昔も変りはないが、車のラッシュで道の真中を歩けないのが非常に残念である。
この離宮道のあたりは、神戸の典型とも言えるぐらい海と山とが接近し、徒歩で10分もすればどちらにも行ける。そういった地形を生かし、天皇によって造られた道ではあるが、海と山と坂と、そこにはドラマがあり、人間的スケールの松並木とともに楽しさをかもし出している。
以前の離宮は、現在離宮公園になっているが、離宮道から続く正門をくぐり、車寄せのスロープを登っていくと中門があり、その入ったところが、また、パッと海への展望がある。（今は中門からアプローチせず、すぐ新しい公園に入ってしまう。）
建物に向うのではなく海へのバルコニーとなっているところなど、昔の趣味というか、自然と造形のすばらしさというか、小意気な感じで、うまいものだと感心している。ただし、現在は御多聞にもれず悪くなっている。

（神戸市住宅局住宅建設課）



離宮道



離宮公園・庭門

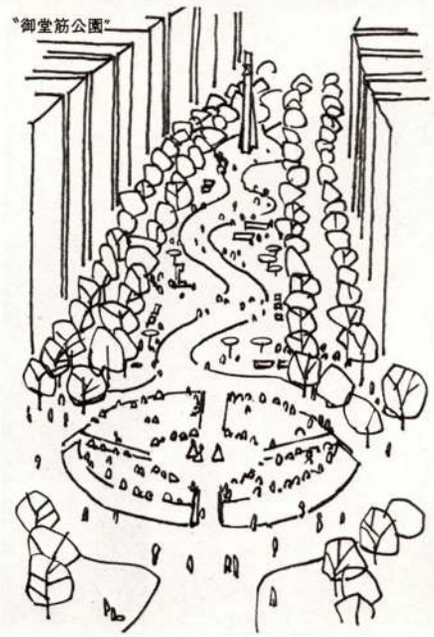
《私のすきな空間》

意味されるべき空間

内海利彦

私のきらいな空間というのはあっても、すきな空間というと、これがなかなか想いあたらぬ。しかし、これはいい空間がまるでないことの十分条件ではないので、すごく気が楽だ。でも、だれでもが好ましくおもうそれは、通勤の途中街中に満ち溢れているとはいえないようだ。というよりも、建築に直接関係しているといないとによらず、こういうことに興味がないのかもしれなくて、それはそれで自然で、つまり、そこには砂漠のような都市空間に対する不信感に裏打ちされた眼があるように解せるからだ。
が、こと万博とか街の一角にすごいビルが建ったとかいうと、関心の声かまびすしいからフシギで、フシギの話をすすめると、多くの人々がひどい住生活を（一種住専、一種高度といったクラス分けがあって、少数のめぐまれた人は別だが）強いられているそのそばを、ぼくのような軽薄男児にはトンと判らぬそのときどきの高邁な形式論理をひっさげた〝大建築〟がまかりとおるといった現状を後づける、一部建築アカデミズム、ジャーナリズムの存在は、現実への健全な平衡感覚を失わせるに多いに功あるというところまでいきつく。一方通行のふるいにかけられた情報しか得られぬ人々は、今日の情報化社会ではますますあわれな位置に追いやられ、その度合たるやヒットラーのこしらえた操作可能の「ラジオ的人間」どころではすでになく、条件反射で深層心理に繰り返しやられると、そのプロパガンダからは身を護りきれないという結論がでているそうだ。
かような、広くいえば政治とマスコミがつくりだす定義のおしつけにウンザリすることがまづ必要で、たとえば、ある団地に対する通過交通を、つまり自分の車が他の団地のそれになっている自分をやめさせるといった変換を経た地域生活向上、地域生活基盤整備に向う自身の住空間、定義をたてるダイナミズムが大切だろう。
人々の生活が感じられるような空間には〝ホッ〟とする。たとえば〝御堂筋公園〟がある仕事空間なぞはいかがなものか。

（大成建設・設計課）


〝御堂筋公園〟


管理棟


管理棟アプローチ

大阪建物株式会社
小豆島貸別荘

設計・施工　株式会社 大林組
設計担当　上村幸之・船橋昭三
山田耕治・中川原正平
所在地　香川県小豆郡内海町橘
工期　1975年4月～7月

	貸別荘A	貸別荘B	管理棟
構造・規模	RC・木造2F	木造1F	木造2F
建築面積	116 ㎡	127 ㎡	149 ㎡
延床面積	122 ㎡	109 ㎡	144 ㎡

電気・衛生設備　大阪電気暖房株式会社

設計主旨
この貸別荘と管理棟からなる別荘群は、播磨灘が一望できる瀬戸内海、小豆島東端の橘湾に面した、風光明媚な岬の傾斜地に建っている。
これらの建物は、自然を破壊せぬよう、夫々地形に応じて計画され、管理棟は1階が管理関係、2階が自社専用の保養施設、又貸別荘は夫々1LDKタイプのものとなっている。


貸別荘A


貸別荘Bアプローチ


貸別荘Bベランダ

建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。

新刊紹介

『建築経済学』

岡島孝雄著　A 5判 281頁　¥2300　相模書房

建築というものは、もともと技術的側面だけでなく、社会科学的側面をあわせもっているものだけに、建築経済学的側面を知らなくては、とうてい総体としての建築を把握できない。

それでは建築経済とは何か。著者によれば、こう概念規定をされている。「建築経済とは、特定工業部門である建築工業における生産諸関係ならびにそれを基盤とする流通上の諸関係の総体を内容とする一定の構造である。」このような建築経済の構造を法則的につかむことが、これからの建築技術者にとっても、建築の領域の広がりとともに必要になってくると思われる。

本書はそういった意味で、第1章において、「建築経済学の対象と方法」を論じ、第2章では、「建築生産機構論」として、下請生産関係、建設企業間の競争、市場構造などを論じている。さらに第3章では、「建設企業倒産論」として、いろいろな調査からみた建設企業倒産の特異な体質を分析し、最後の第4章では「建設労働論」を展開している。これからの建築学徒のみならず、建築の実務者にも好適の書である。

『建設業はどう変わるか』

ENR編・池辺研究室・寺崎恒正共訳
A 5判　278頁　¥2,200　鹿島出版会

本書はEngineering News−Record(ENR)誌が、その100年記念出版として、アメリカの建築技術100年の歩みから21世紀に向けての展望を試みたものである。編集者16人がそれぞれ魅力的な16章のタイトルをつけてレポートしている。都市、住宅、エネルギー、交通機関、水、ゴミ、建設業、労働者、道具、材料、デザイン等々は、どのように変化し、すすんでいくのだろうか。これらの「未来の予測」は建設業にとって、「これからの人間環境と技術」を考えるにとって不可欠の要素だ。建設業関係者にとって一読をすすめたい本である。原題「PROBING THE FUTURE」。巻末に「アメリカ建設100年史」の年表が付されているのも興味深い。

『私のルイス・カーン』

工藤国雄著　A 5判 230頁　¥1800　鹿島出版会

『私のルイス・カーン』と題された本書は、晩年のルイス・カーンのもとで直接働き、そして、この小柄な老人から「決定的な影響」を受けた著者が、その精神的起点をアクチブな時点で再現するものとして、著者自身の備忘録として書かれたものである。

ここでは、カーンとの出あい、怒りをテコとして、カオスがわずかな核をたよりに雄々しく自らを秩序づけるようなエネルギッシュな実際の設計の進め方、思想、エピソード、想い出などにより、難解で謎の多い建築家ルイス・カーン（1900〜1974）の炎のような生を浮き彫りにするとともに、《建築に化す》ことの永久指向者として、己れの生を最もよく生きたといえるカーンの「存在の意志」＝近代意識の祖型としての生の純粋運動＝をも表出し、読むものを強烈に引き込んでゆく。

一方、「大むこうをはったルイス・カーン論ではない」という著者のことばにもかかわらず、この備忘録を通して「彼（カーン）の住みかを作」った著者の新たな意志が感じられる。

中国建築学会訪日代表団来阪

日中建築技術交流会（吉阪隆正会長）では一昨年11月設立以来、日中両国の友好と建築技術の交流に務め、昨年代表が中国を表敬訪問したが、今回、同会の招きにより中国建築学会訪日代表団（団長：張哲民・中国建築学会副理事長、王剣青・国家建設委員会処長、李承祚・清華大学副教授、劉正発・国家建設委員会機械化施工工程師、孫明輝・北京市建築工程局施工機械公司工人、尤祖徳・通訳）が7月18日より8月1日の日程で訪日、関東、近畿を中心に見学、交流の場をもった。

26日大阪入りした一行は、五日間のスケジュールで近畿各地（京都・奈良の古建築、万博施設、千里ニュータウン、大林組京都プレハブ工場、梅田阪急電鉄地下構法、伊藤萬ビル、地下鉄シールド、南港施設、身障者スポーツセンターなど）を見学した。

その中で、7月28日夜ロイヤルホテルにおいて一行の歓迎パーティーが関西地区の建築関係者約100名を集めて開催された。当日は、東畑謙三日中建築技術交流会副会長、横尾義貫日本建築学会会長の歓迎挨拶につづいて、張団長の挨拶がのべられ、張団長、塚本猛次日本建築協会会長の音頭による乾杯で開宴、一行から東畑氏に花瓶が贈られ、これに応えて、建設機械・新建材の視察を主な目的としている一行に最新のカタログ集が贈られ、和やかな雰囲気のなかで交流の場がもたれた。なお、日本建築協会からは、同会編集・出版になる「建築データシート」（1組4分冊）を代表団各員に夫々寄贈された。



樹の話シリーズ・13

あきにれ　にれ科　Ulmus Parvifolia Jacg.

小川の堤の縁に小さな葉をいっぱいつけたがさつな枝振りの木が立っている。樹皮は全面剝げ落ちたような褐色の粗い肌で、秋には平たい小判型の翼のついた種子を枝先にたわわにつけるのがあきにれである。

にれは、けやき、えのき、むくのきなどと同じにれ科に属する。にれ属の中で北日本に多いはるにれと本州中部以西に多いあきにれに別かれている。春に花をつけ、樹皮がコルク質で厚いのがはるにれで、札幌の並木は有名である。秋に小さな淡黄色の小花が葉のつけ根に咲き、種子がつくのがあきにれである。学名のUlmusとはにれの古いラテン名でこれがエルムとなる。ヨーロッパのにれはノニレで並木として優れている。

あきにれのparvifoliaとは小型葉という意味である。5月頃枝先の葉に虫こぶができる。はじめ白っぽくやがて黄色から赤色、紫色になり一月ほどで虫がとび出して黒くしぼむ。虫こぶのことはあまり詳らかでないが、多分或る種のハエの類が新葉に産卵し、ふ化、幼虫の成長にともない植物細胞の一部が異常増殖するのであろう。秋には葉はまばらに黄葉化し落葉する。

あきにれは成長が遅く材が硬いので別名いしげやきと呼ばれる。心材は赤褐色、辺材は淡黄色ではっきり別かれる。大きな材は得られないので特に利用されることは少ないが、樹皮の繊維からかつて繩をつくったり、また、内皮の白い部分を薬や食用にしたともいう。

川沿に生える名もない雑木で、かわらげやきなどとも呼ばれるが、万葉集にも詠われ、また、楡という何となく楽しそうな字があてられているので、ロマンチックな木というイメージがもたれるのもおもしろい。最近では公園やビルの足元のテラスなどの芝生地に木影をつくる木として利用されているが、もともとの性格からやや湿地を好むようである。盆栽にも使われており、大阪城の石垣の縁に生育しているあきにれの種子をもらえば、よい苗が沢山ふやせるだろう。

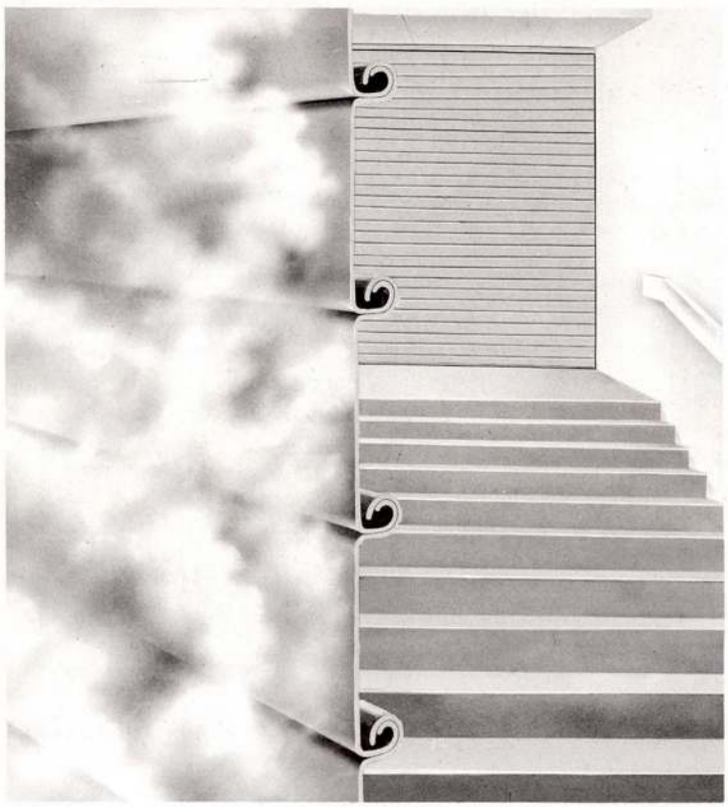
（関根　記）



煙の惨事を未然に防ぐ 防煙シャッター

NS防煙シャッターは建設省告示第2564号の規定に適合!!

政令基準、火災時の空気圧2kg/m²時、煙の漏気量0.2m³/min. m²をはるかに下廻る0.03 m³/min. m²（業界No.1）を記録しました。



近年、ビル火災でのいたましい、犠牲者の続出はそのほとんどが《火》よりも《煙》によるものでその為建築物の防煙性能の向上が一段と重要になってまいりました。

建築物の設計上、防煙、防火区画でのシャッターの役割は非常に重要なポイントとなっております。

その防煙区画に、すばらしい遮煙性能を備えた、　ＮＳ防煙シャッターを、御採用下さい。

防煙シャッターの開閉には、業界最高の性能を誇る、Ｌ型電動開閉機を使用しております。



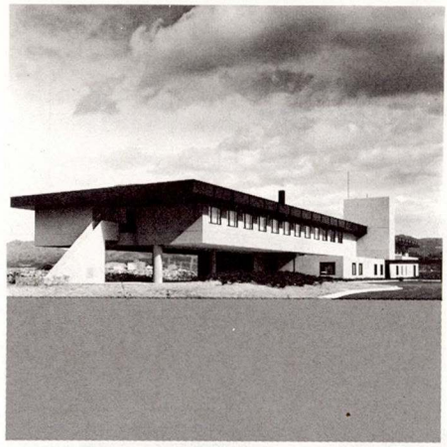
御一報次第カタログお送りします。

株式会社 日本シャッター製作所

大阪本社　大阪市淀川区田川北３丁目２番４号　電話06(301) 3656～9
大阪工場　大阪府枚方市招提田近１丁目７番地　電話0720(57)4535～9
東京工場　川崎市中原区新丸子東３丁目１１５９番地　電話代044 (411) 6325
名古屋支店　名古屋市中川区北江町２丁目１２番地　電話代052 (361) 7441
九州支店・工場　福岡県粕屋郡粕屋町大字仲原字明神984－4　電話 09293 (8) 4661

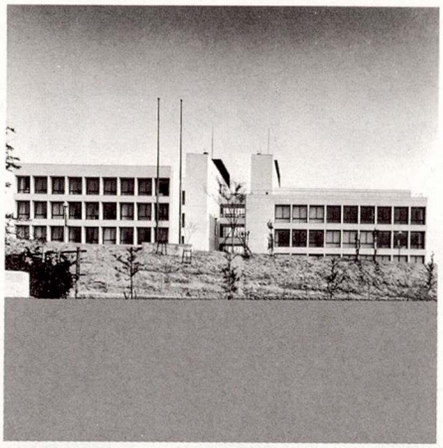
営業所　横浜・大宮・静岡・千葉
北陸・京都・神戸・高松
広島・北九州・大分・宮崎
鹿児島・佐賀・長崎

□ 写真と概要をどしどしお送りください。
凡例：a.所在地 b．敷地面積 c．建築面積 d．延面積 e.構造規模 f．工期



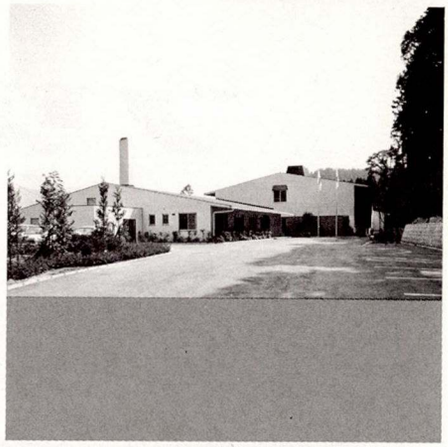
1126. 竹中工務店総合研修センター

設計：竹中工務店
施工：竹中工務店
a．兵庫県川西市柳谷字隠場41の1
b． 83,573㎡
c． 2,150㎡
d． 2,944㎡
e． S、RC、2F
f．昭和47年2月～昭和47年10月



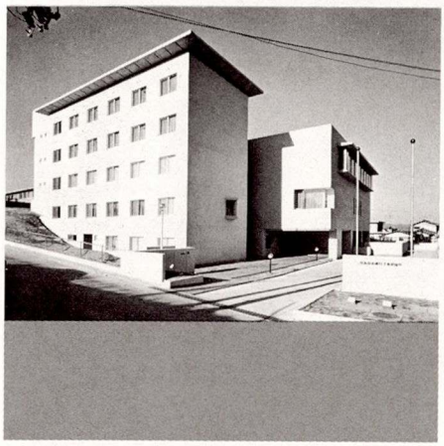
1127. ダイエー教育センター

設計：竹中工務店
施工：竹中工務店
a．大阪府吹田市桃山台5丁目3番地の4
b． 4,388.77㎡
c． 1,260.00㎡
d． 5,672.70㎡
e． RC、3F、P1
f．昭和47年9月～昭和48年4月



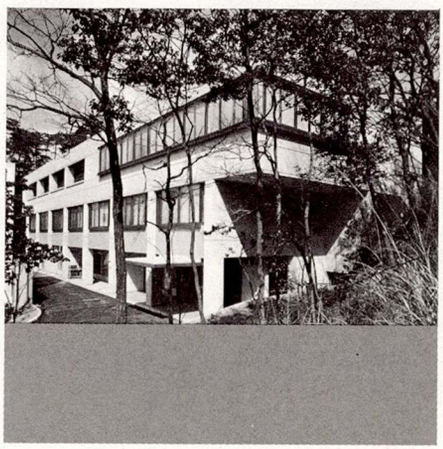
1128. 日立造船阿蘇三學舎

設計：大林組
施工：大林組
a．熊本県阿蘇郡阿蘇町大字車帰字下道上
b． 132,357.10㎡
b． 1,556.44㎡
d． 2,169.48㎡
e． RC、B1、2F、P1
f．昭和49年3月～昭和49年10月



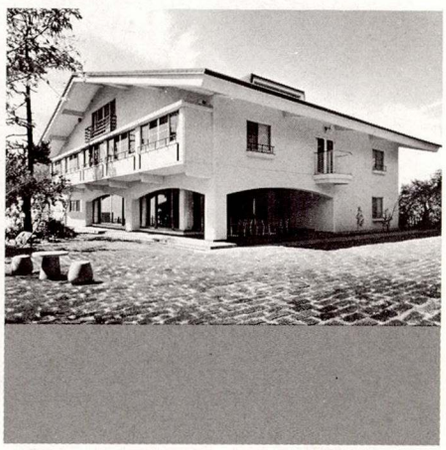
1129. 住友信託銀行千里研修所

設計：日建設計
施工：戸田建設
a．大阪府吹田市桃山台5－24－3
b． 2,634.01㎡
c． 786.14㎡
d． 3,083.45㎡
e． RC、B1、4F、P1
f．昭和49年3月～昭和49年9月



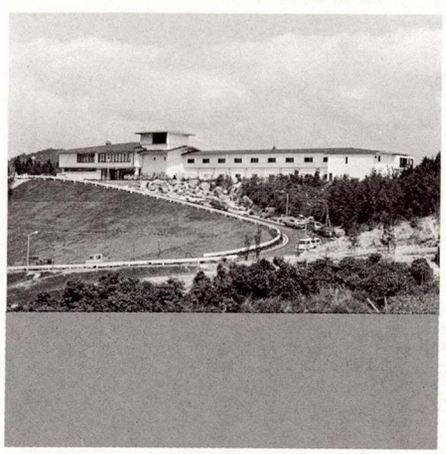
1130. 近鉄百貨店東生駒研修所

設計：近畿設計事務所
施工：清水建設
a．生駒市東生駒4丁目398－170
b． 10,538.00㎡
c． 933.76㎡
d． 1,918.12㎡
e． RC、3F
f．昭和48年8月～昭和49年3月



1131. 大同生命保険相互会社六甲山荘

設計：大林組
施工：大林組
a．神戸市灘区六甲山町北六甲 4512／21
b． 5,381.41㎡
c． 695.80㎡
d． 1,322.08㎡
e． RC、B1、2F、P1
f．昭和49年8月～昭和50年6月



1132. 青蓮寺レークホテル

基本設計：近畿日本鉄道技術室
設計、施工：大日本土木大阪支店
a．三重県名張市青蓮寺
b． 74,606㎡
c． 1,559㎡
d． 2,864㎡
e． RC、B1、2F、P1
f．昭和49年12月～昭和50年6月



1133. エバーグリーン西田辺ハイツ

設計：熊谷組大阪支店
施工：熊谷組大阪支店
a．大阪市阿倍野区西田辺町2丁目58－1
b． 1,458.74㎡
c． 875.16㎡
d． 5,717.21㎡
e． RC、7F
f．昭和48年1月～昭和49年2月



1134. 長崎バスターミナルホテル

設計：泉沢建築設計事務所
施工：大長崎建設
a．長崎市新地町151
b． 597.940㎡
c． 3,812,202㎡
d． SRC、10F
e．昭和48年10月～昭和50年1月

フリントコート®

マスチックフローリング

耐久性のすぐれた防湿床材



飯田町紙基地センター
設計監理：国鉄東京建築工事局　施工：清水建設・熊谷組・鉄建建設共同企業体
使用場所：床　仕様番号：F－9®

特　長

1　耐久性：耐久性にすぐれている。
2　耐摩性：摩耗の度合が低く、ホコリなど生じない。
3　すべり抵抗性：すべり抵抗性にすぐれている。
4　復元性：弾性があり、万一亀裂ができても使用している間に復元する。
5　粘着性：多少湿っていても、コンクリート、金属、木など、どんな面にもよく粘着する。
6　不燃性：引火のおそれがなく、ガス工場、爆薬工場の床に使用されている。
7　無毒無臭：完全無毒で各種食品工場、貯蔵庫に多く使用されている。

フリントコートについてのお問合せは下記へ

FLINTKOTE®

株式会社シエル石油大阪発売所
フリントコート施工販売部

大　阪	〒532	大阪市淀川区西中島２丁目11番30号	☎(06) 303－7131
東　京	〒104	東京都中央区宝町2丁目4番地(第2ぬり彦ビル3階)	☎(03) 562－4646
名古屋	〒461	名古屋市東区東門前町3の47(日本橋ビル4階)	☎(052)931－8537
広　島	〒730	広島市東白島町１５番６号(西林ビル３階)	☎(0822)21－1224
福　岡	〒810	福岡市中央区舞鶴１－１－５(舞鶴ビル３階)	☎(092) 77－1961

建築の眼

梶浦恒男●大阪市立大学講師・生活科学部住居学科住生活学講座
坂本勝比古●神戸市教育委員会・社会教育部主幹、工学博士
瀧　光夫●瀧 光夫建築・都市設計事務所
荒川治徳●清水建設大阪支店技術部技術課長
7月号より12月号まで上記4氏で担当

団地と動物

鉄筋のアパート団地に住まって数年、団地ずまいについて、いろいろ感じることが多い。先日、夕日のさしこむ住棟の間の芝生で、小犬と遊んでいる子供たちをみた。団地で犬を飼うことは禁じられているから、こういう風景はめずらしい。小一時間ほど遊んでいた子供たちは、何やら相談して、植えこみのなかのダンボール箱に小犬をいれ、それぞれの家にもどっていった。夕食の時に小学一年生の息子が、皆んなで犬を飼うことになったと話していた。明日は自分の当番で、犬の世話をするのだという。ところが残念なことに、小犬は五日目ぐらいに、団地の規則だということで、保健所にひきとられていったらしい。

立体的に住戸を重ねた共同住宅で、独立住宅と同じように各戸が犬や猫を飼うのは、たしかにいろいろなトラブルがおきて困難である。しかしながら、団地でそだつ子供たちが、犬やハトや、あるいはニワトリといった動物と、日常生活の場で接する機会はつくりだしてやりたい。団地での動物飼育は、共同生活の形態をとってなされるべきであろう。共同の犬小屋やニワトリ小屋がつくられないものだろうか。共同の用地は、灰色のコンクリートが敷きつめられて、つぎつぎと駐車場所に変っていく。子供たちの自発的な共同生活の芽を生かす空間づくり、団地づくりのできないことを、大変残念に思ったのであった。

（K）

近代建築・ヨーロッパと日本

昨年(1974年)、しばらくローマに滞在している間に、ヨーロッパ諸都市の近代建築のいくつかを見る機会があった。その見聞のなかでとくに強い印象を受けたことは、近代建築の保存が想像以上に良好であることだった。その保存の意味は、建物の機能や維持管理が十分に行われていて、都市環境のなかで安定した位置を占めていることであって、明治にはじまる日本の近代建築が、大正、昭和前期のものを含めて、大変きびしい環境のなかに置かれ、うらぶれて明日の命運もはかりしれない状態にあるのと、きわめて対照的なのである。ヨーロッパの近代建築は、古くからの様式主義建築に伍して、そのもつ歴史的使命を誇らしげに市街地や都市近郊のなかに生きつづけているのである。

ウィーンやダルムシュタットのセセッションや、ブラッセル、パリーのアール・ヌーボー、オランダ・アムステルダム派の建築、ハンブルグのドイツ表現派のものなど、日本の明治後半から大正末期にかけてに相当する近代建築物が、昨日建ったかのような新鮮味をもってわれわれに迫ってくるのである。

そして、このような現実を可能とする社会的背景や、市民が都市の蓄積や景観を大切に考える文化的な基盤、すなわち、都市と建築と文化といった命題に、日本人がもっている意識との根本的な違いこそ、われわれが今後真剣に見つめ考えなければならない問題が秘められていると思うのである。

（S）

藤棚の下で

愛知県でパーゴラの設計をした。藤がいっぱいに下がることをイメージしていたら、それには10年以上かかるといわれて、建築と造園のテンポのちがいを考えさせられた。

東京の西新井大師の樹齢 800年といわれる藤棚をみてきたり、屋久島の縄文杉といわれる樹齢数千年の杉の話などきかされると、今さらながら植物の生命力におどろかされる。そこでパーゴラは、充分な断面の鉄筋コンクリートでせいぜい重厚につくって、藤が一面に下がるのは老後の楽しみにすることにした。

それにしても、ついつい竣工時をピークに考えがちな設計習慣には大いに反省させられた。造園は竣工時が出発点で、それ以後のありかたが設計のポイントになる。建築だって以後の使われ方が問題なのだから、竣工後次第によくなっていくようでないといけないはずだが、どうもそういう風調ではなさそうだ。

考えてみれば、木造建築でも 1,000年以上残っているものがあるのだから、今日の技術からすれば、無限年にちかい耐久性が求められてもおかしくないはずだのに、世の中プレファブ、使いすてムードである。中には、建築はこわしやすくつくるべしと主張する人もいる。

建築に永遠性を求めるなど古い古いといわれてきたが、今日ほど永遠性を必要とし、又、それが可能な条件もそろってきている時代もないのではないかという気がしているのだが。

（T）

失敗は成功のもと

失敗は成功のもとという。この言葉は失敗した人に気を落さないように言う慰めの言葉かも知れない。しかし、失敗の中には多くの教訓が秘められているのも事実である。

また、失敗にも種々のものがあり、全く未知のものに挑んでの失敗もあるし、既知の分野における失敗もある。既知の分野での失敗というのは、あることを成しとげるのに、必ずとるべき手順が定められているのにその手順を踏まなかった為に起ることが多いように思う。われわれがたずさわる建設業における災害も多くはそのような失敗の結果、発生しているのであろう。従って建設災害を防ぐにはこのような失敗をなくすこと、つまり定められた手順を確実に実行していけばよさそうであるが、これがまた大変むずかしいことなのである。それは自分の日常の行動を振り返ってみてもわかる。一寸行けば横断歩道があるのに車の流れの切れ目を見つけて横断してはいけない箇所で横断したり、時速40㎞と標示されているのにそれ以上の速度で車を運転したり、真夜中をよいことにどんどん信号無視をしたり、その他数えあげればきりがない筈である。しかし、このようなつまらぬように見える手順を踏むことが大切とわかれば、しようがないから馬鹿になったつもりで盲滅法手順を守ることが必要なのではあるまいか。諺にいう、〝急がばまわれ〟〝ころばぬ先のつえ〟〝石橋もたたいて渡れ〟〝用心に程なし〟〝初心忘るべからず〟……とは、以上のようなことをいっているのであろう。

（A）



建築用仕上げ材料

マルチタイル

マルチタイルとは　つやのよい多彩模様の立体感豊かな高級意匠壁をつくりだす建築用仕上げ材料ずす
塗膜が厚く　耐候性・耐水性にすぐれ　変褪色がなく　光沢保持性がよいので　建築外壁の防水加工に適しております
また　打ち放しコンクリートやモルタルなどの無機質材料に直接施工ができるので　左官工事が省略でき
長期間美観を保持します
デザインも　高原・筑紫・近江・箱根・吉野と以前に比較し斬新なものになりました

※詳しいカタログを差し上げますので　当社宣伝建社係へおハガキでお申し込みください

関西ペイント

〒541 大阪市東区伏見町5-27　☎06(203)5531

建築と社会

©第56集(1917年創刊)

ARCHITECTURE AND SOCIETY VOL.56 1975

■10月号特集予告
騒音対策と防音材料
■11月号特集予告
第22回青年技術者
■12月号特集予告
集合住宅の設備
■1月号特集予告
これからのデザインの方向

通巻642号
1975 9

特集・人間環境としてのターミナル

SPECIAL FEATURES ON THE TERMINAL HAVING HUMAN ENVIRONMENT

特別企画　日本住宅公団設立20周年
[1] 日本住宅公団20年のあゆみと今後の開発の方向／中村　司……2
[2] 日本住宅公団関西支社昭和49年工事優良施工表彰作品……10
男山団地センター地区高層建築　設計：坂内建築事務所　施工　松村組……9
会告　通常総会議決報告。会員の受賞（建設大臣表彰)。なにわのかくれた散歩道を歩く―ディスカバー大阪・その1―。昭和50年度茶室見学会（第1回）大徳寺の茶室見学の会(1)。投稿募集！「私の《きらい》な空間」……21
若い会員の集いレポート　解体修理中の古建築見学会―国宝・東福寺三門その他／赤木圀文・東野良平……22
法令コーナー95　法令建築事務所制度の建築確認審査事務に対する活用／梶原　明……23
読者の頁　私のすきな空間／鈴木忠五郎・稲毛政信・内海利彦……25
新建築　大阪建物㈱貸別荘　設計施工：大林組……26
建築と社会ニュース　中国建築学会訪日代表団来阪。新刊紹介。樹の話シリーズNo.12あきにれ……27
スケッチブック　最近竣工した新建築9点（No.1126～1134）……29
建築の眼　団地と動物／梶浦恒男　近代建築・ヨーロッパと日本と／坂本勝比古　藤棚の下で／瀧　光夫　失敗は成功のもと／荒川治徳……31
作品作風　国立大洲青年の家　設計：中国地方建設局　施工：奥村組・村上工業……34
神戸新聞 上月リバーサイドタウン　設計施工：竹中工務店……35
大分銀行湯布院研修所　設計：日建設計　施工：佐伯建設……36

●特集＝人間環境としてのターミナル

梅田ターミナル形成史……上田隆夫……37
都心ターミナルとして梅田地区……近藤達夫……40
歩行空間の現況と診断……紙野桂人／知花弘吉／春井秀雄……42
はじめに
1．歩行経路の「あるきやすさ」はどうか
2．周辺街路の現況と問題点
3．空間の「わかりやすさ」はどうか
4．梅田ターミナルの将来へ向けての提案
通勤者のターミナルかいわいにおける日常的領域
――京阪神主要ターミナルでの調査――
調査グループ／片倉健雄・塩崎賢明・稲垣雅彦……56
北欧諸都市のターミナル建築……紙野桂人……60
ストックホルム・ヘルシンキ・コペンハーゲン・スツットガルト

構造の頁15　鉄骨構造物の鋼材量と基礎のコスト／須賀好富・八木省三……63
設備の頁15　蓄熱そうの断熱について／金子　稔……64
施工材料の頁15　スクイズ式鉄筋継手工法／松井　攻……65
日本建築総合試験所だより37　繊維インテリア材料による省エネルギー効果／長橋英彦……66
月報　日本建築協会月間の動き（昭和50年7月分）……68

昭和50年度編集委員会(順不同)
編集委員長　久保田進也　中川洋一
松村慶三　竹木丈大朗　西岡康夫
編集理事　十倉毅　石田宏
井上滉　伴一郎　尾路義一
岡田光正　星忠甫　須賀好富
北垣智造　松原孝史　徳田裕英
小西岬　三原清敬　藤岡正見
高野孝二郎　山下博司　内田昌文
窪田祐　渡辺亮　大倉良司
松村慶三　上原正行　志田康
山田幸一　黒田達雄　河津隆之
前野慶太郎　隅谷康彦　佐々木友喜
菅谷健児　田中弘成　浅野満男
伴一郎　沼田修一　石塚克彦
渡辺亮　横川隆一　桝本弘之
副委員長　横山誠一　梶原明
伴一郎　若野暢三　平林孝
横山誠一　荒木兵一郎　鈴木基之
鈴木基之　稲垣雅彦　高羽俊治
編集委員　片倉健雄　中村和隆
上森肇　塩崎賢明　船井美彦

編集人　松井昭光
印刷　昭和50年9月20日
発行　昭和50年9月25日
発行人　福中定三郎
発行所　(社)日本建築協会
大阪市東区北浜3－37
電　06－231－9648
振替口座　大阪39975
印刷所　凸版印刷株式会社　関西支社
大阪市福島区海老江上4－23
電　06－458－2251㈹
売価　1部　600円・送料共

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

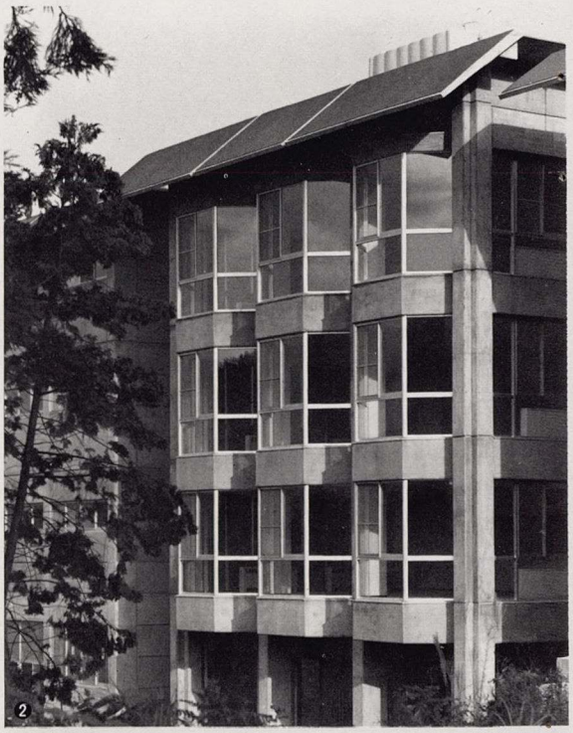
CONTENTS

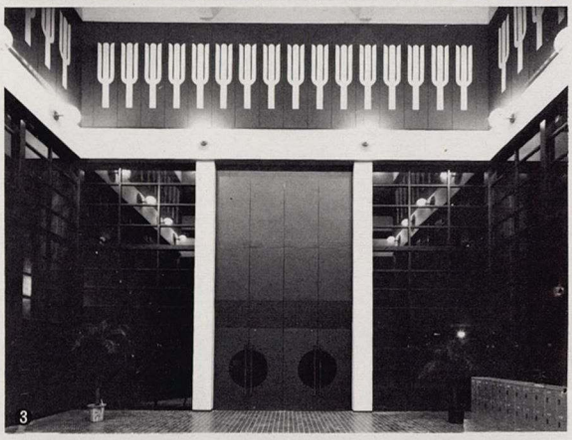
国立大洲青年の家

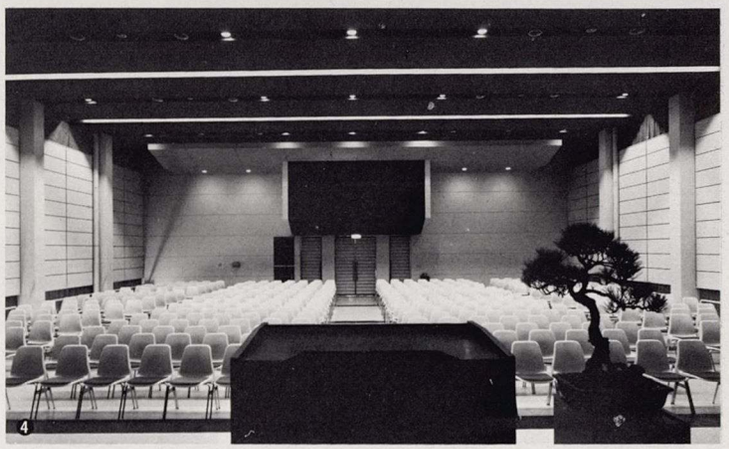
設計監理　中国地方建設局営繕部
施　　工　奥村組、村上工業

所在地	愛媛県大洲市北只	
建築面積	3,989.04㎡	
構造規模	本　館　RC、4F.	4,706.29㎡
	宿泊棟　RC、B1、2F.	3,168.94㎡
	連絡棟　RC、1F.	218.95㎡
	音楽棟　RC、1F.	185.02㎡
	車庫棟　RC、1F.	195.12㎡
延床面積		8,472㎡
工　　期	昭和47年12月～昭和49年11月	
室　　数	本館65室　宿泊棟96室(うち宿泊室68室)	
収容人員	400名　宿泊人員 400名	


1


2


3

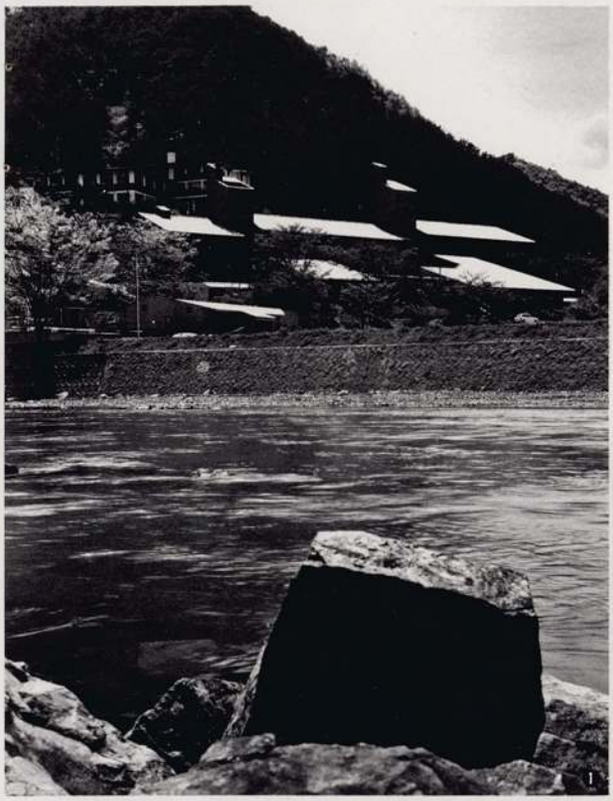

4

①全景
②本館談話室窓面
③本館玄関ホール
④本館講堂

神戸新聞
上月リバーサイドクラブ

設計施工　竹中工務店

所 在 地　兵庫県佐用郡上月町久崎
敷地面積　8,098㎡
建築面積　1,126㎡
延床面積　1,987㎡
構造規模　RC、3F、P2
工　　期　昭和49年1月～昭和49年10月
室　　数　18室　50人宿泊
　　野球場、テニスコート、プール併設









③食堂
④談話室・記念ホール
撮影①④　河野　豊
　②③　多比良敏雄

大分銀行 湯布院研修所

設計監理　日建設計
施　　工　佐伯建設

所 在 地　大分県大分郡湯布院町川西字湯無田
敷地面積　39,663㎡
建築面積　1,059㎡
延床面積　2,277㎡
構造規模　RC、B1、3F
工　　期　昭和46年6月～昭和47年4月
収容人員　235名
宿泊人員　97名
室　　数　洋室21、和室4





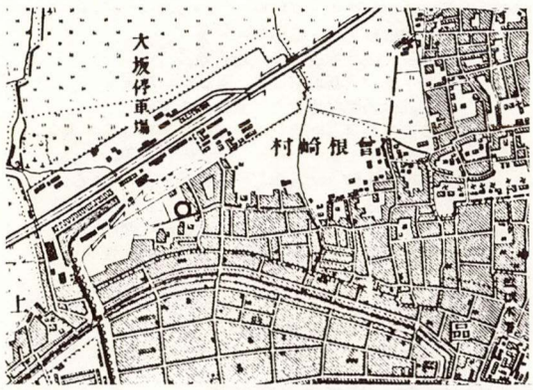


撮影　伊東直明

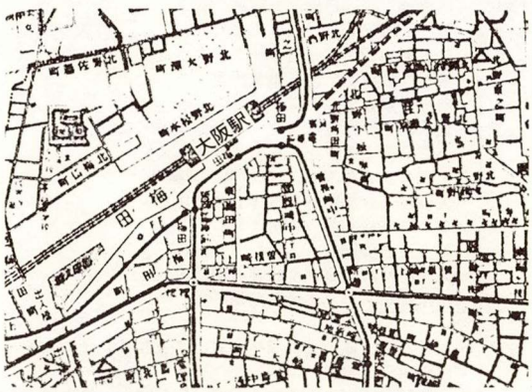
梅田ターミナル形成史

上田　隆夫

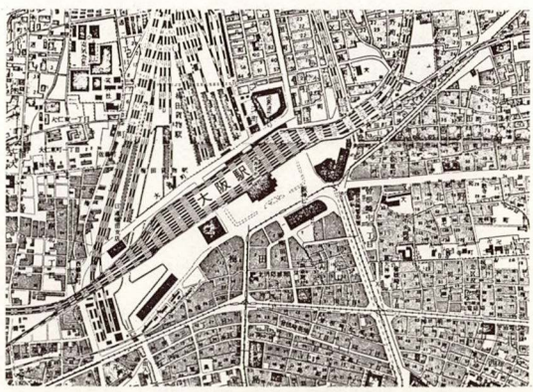
市街地変遷図



明治18年（1885）



大正7年（1918）



昭和27年（1952）



昭和49年（1974）

1．はじめに

この小論は、“阪急”（阪急百貨店共栄会）に昭和47年4月号から48年5、6月号まで12回にわたって連載された川端直正（元大阪市史編集委員）の「梅田かいわい」と宮本又次著“キタ、風土記大阪”（昭和39年4月、ミネルヴァ書房）をもとにし、これに既往の調査資料や古地図などを加えて、梅田ターミナル周辺約100年間のうつりかわりを主として都市計画的な面からとらえたものである。

2．梅田ターミナルとその周辺の市街地形成の大要

梅田は、「ウヅメタ」とよばれ、沼沢の地を埋めて田にした土地をあらわしている。しかし、天満宮の存在とそのゆかりの梅にあやかって「梅田」と改められたといわれている。（一説には、地主の梅田宗庵が埋めたてたことから「梅田」となった説もある）。このように梅田周辺は、大阪落城後の元和（1615）の昔より明治初期に至る約250年間うらぼん会以外は人々に忘れられた墓地（大阪7墓地の一つで、現在の梅田貨物駅の南にあった。）や田圃、野原の寂しい所であった。しかし、この寂寥の地に明治2年阪神間の鉄道建設計画がおこり、同7年5月、近世フランス式のゴシック風で英国の煉瓦を使った堂々たる駅舎（現在の中央郵便局附近が東口）をもつ鉄道が開通し、以来大阪の玄関口、大阪の顔としての第一歩を踏み出すことになった。この梅田周辺のうつりかわりの跡を年をおって要約するとつぎのとおりであり、略年表と市街地変遷図を参考にしながらご覧いただきたい。

(1)　明治初期　初代大阪駅の建設　初代大阪駅は、先にも述べたように明治7年旧市街地から離れた位置に設定されたもので、旧曽根崎村に属し、市中心部との連絡道路は拡幅前のほそい桜橋筋1本であった。しかし、この地に駅舎ができるや腰弁当をさげた市民がステンション（ステーションをなまった。）見物に押しかけ、たちまち大阪の新名所となった。

(2)　明治20～30年代　第1次市域拡張、2代目大阪駅や梅田新道の建設　この時代はわが国が急速に近代国家としての基礎を築いた時期で、明治22年には新橋・神戸間の鉄道が開通し、大阪では28年、城東線（環状線の前身）が開通し、梅田地区が大阪の玄関口としての重要性が認められはじめた。すなわち、それまでの大阪は、川口、八軒屋を玄関とする舟運および紀州街道（堺筋）を軸とする陸運が主体であり、ここに鉄道という新しい交通機関が加わり、その玄関口が梅田である。このような意味から、2代目大阪駅が34年7月、ほぼ現在の場所に機能を拡充して建設され、このため都市核が東に移動し、今日の都市形成への足がかりとなった。また、この時期は大阪市としても拡大隆盛の初期にあたり、曽根崎、北野村など周辺町村を合併し、このため、梅田地区も30年4月からは名実ともに大阪の玄関口となった。

さらに、36年には第5回内国勧業博覧会が開催されることとなり、大阪駅東口方面と船場を結ぶ御堂筋の前身である梅田新道（地名ではなく道路名称である。）が整備され、現在の都市軸の基礎がつくられた。

(3)　明治後期　阪神、阪急、市電の整備と教育施設の立地　明治39年12月、阪神が出入橋から梅田に延長し、43年3月には、梅田から箕面、宝塚への箕面有馬電鉄（阪急の前身）が開通した。この沿線には人口が少なかったため、住宅地の造成に力をそそぎ関西におけるこの種の住宅地の先鞭となった。さらに、市電も41年8月大江橋から梅田、梅田から桜橋筋を通って渡辺橋を南下する南北線が開通し、都市内交通の新しい結節点梅田の誕生となった。なお、梅田周辺の市電網は、大正15年天六方面、昭和2年扇橋方面の開通によって完成された。（市電の開通は、道路の拡幅整備でもあった。）また、42年7月には北の大火（焼失戸数11,365戸、罹災面積120ha）

があり、これを契機として北区の市街地の更新がおこり、現代に及ぶ市街地形成が始まった。

さらに、今日の阪大、市大、北野高校、大手前高校、都島工高、金蘭会等はいずれも北区が発祥の地であり、阪大を除く各校は、この時期に梅田周辺に立地し、あたかも梅田が新しい教育の中心地となった観があった。しかし、各校とも市街化、商業化の波によって昭和初期には現在の地に移転していった。

(4) 大正時代　阪急神戸線の開通と近郊住宅地の発展　大正9年7月、阪急神戸線が開通し、10年には岡本住宅地をはじめとして仁川、甲東園などの住宅地が次つぎと開発され、梅田駅の利用者も増加しはじめた。この乗客サービスのため、9年11月5階建駅舎を建設し、ここに「白木屋梅田店」を設けた。これが後の阪急マーケット（14年開業）、阪急百貨店（昭和4年）であり、わが国の郊外住宅地—郊外電車—百貨店のパターンが姿を見せはじめた。また、この時期は都市計画上も重要な時期で、都市計画法や市街地建築物法も定められ、用途地域も初めて指定された。

(5) 昭和前期　御堂筋・地下鉄の開通、大阪駅の高架化等交通施設の近代化　第1次世界大戦後の急激な都市の膨張発展に対応して多くの近代化の施策が講じられたが、その一つが御堂筋で、大正15年10月着工、昭和12年5月に完成した、大阪市が誇る広路である。さらに、地下鉄も8年5月はじめて梅田心斉橋間が開通し、ついで10年10月には難波、13年4月天王寺まで延長された。また、3年12月には梅田駅の貨物荷扱所が分離され、広域的な客貨の集中に対応するとともに、この頃から大阪駅といわれるようになった。さらに市営バスもこの頃開業し、梅田は道路・鉄道の両面からのジャンクション機能が強化された。

(6) 戦中期　アミューズメントの定着と駅前広場等の整備　昭和11年阪急ビル第4期工事が完成し、ほぼ今日の姿をあらわし、つづいて12年の北野劇場にはじまり梅田映画劇場、地下劇場が開業し、アミューズメントセンターとしての発展の基礎ができた。さらに、14年8月には中央郵便局、同じく14年には阪神地下梅田駅、15年には阪神マート、15年6月第3代目大阪駅の開業があり、都市計画事業としても駅前広場や地下道の建設、さらに17年12月大阪駅附近土地区画整理事業が完成し、高度地区の指定とあいまって大阪の駅前地区としての街区整備が着々と進んだ。しかし、残念なことにいずれも第2次世界大戦のため計画のほとんどが途中で頓座し、戦後の混乱期にひきつがれた。

(7) 戦後混乱期　市街地秩序の喪失と戦災復興　昭和20年3月の空襲により北区をはじめ大阪市中心部は大被害をうけ、（焼失約112,000戸、罹災者51万人）さらに、同年6月の空襲によって被害は拡大し、8月の終戦を迎え、あらゆる秩序がこわされ市中は言語に絶する混乱となった。ことに大阪駅は、疎開先からの帰郷者や復員軍人があふれ、たちまち構内地下道はねぐらと化し、不衛生な状態と犯罪の温床となった。さらに、20年9月にはヤミ市（自由市場とも称していた。）が通称ダイヤモンド地区を中心に誕生し、都市生活者にとっては一つの有効な物資補給源となっていたが、土地の不法占拠や衛生上の問題から、いつまでもこれを放置することは大阪復興の支障となることから22年8月強制閉鎖が行われた。ヤミ市閉鎖後、ヤミ市時代からの古着屋から新品を徐々に加えた繊維街が24年頃にはすでに形成され、大阪駅に近いところから地方業者が集まり活気を呈し、26年11月には梅田繊維卸商連合会が結成された。また、交通機関についても戦争と戦災により大きな被害を受けたが、「大阪市の復興は市民の足から」との旗印をかかげ、軍用車輌の払い下げをうけ、バスを中心として再建を軌道にのせた。一方、一時軍需会社が使用し休止状態にあった阪急百貨店も22年より本格営業をはじめ、京都線も23年梅田乗り入れを再開し、徐々に戦前のターミナル機能をとりもどしつつあった。

梅田かいわい略年表

年　月	西暦	事　　項
明治		
2.11	1869	・阪神間鉄道計画発表
7. 5		・大阪—神戸間鉄道開通　初代大阪駅竣工
9. 9		・大阪—京都間鉄道開通
18.12		・小林授産場（大阪市の社会事業施設の最初）牛丸町に開設
22. 4		・市制施行（面積15.27k㎡・人口約47万人）
		・北の九階遊楽場「凌雲閣」開業（梅田東小学校附近）
7		・神戸—新橋間鉄道開通
27. 8		・日清戦争おこる
28.10		・梅田—天王寺間城東線開通
30. 4	1897	・第1次市域拡張（面積55.7k㎡・人口約76万人）
31. 4		・国鉄西成線大阪—安治川間開通
34. 7		・2代目大阪駅完成（ほゞ現在地）
35. 3		・北野中学校（現北野高校）芝田町に移転開校（昭和6年まで）
36. 3		・第5回内国勧業博覧会　新世界で開催
		・梅田新道開通（明治41年・昭和2年に拡幅・御堂筋の前身）
37. 2		・日露戦争おこる
38. 4		・阪神西梅田町（出入橋）—三宮間開通
39.12		・阪神梅田延長
40. 5	1907	・大阪工業学校（現都島工高）牛丸町に開校
41. 8		・市電東西線・南北線（現四ッ橋筋）の一部開通（明治43年12月全線開通）
42. 7		・北の大火
43. 3		・阪急梅田—宝塚間開通
		・梅田高等女学校（現大手前高校）北梅田町に移転開校（大正12年大阪駅拡張まで）
大正		
9. 7	1920	・阪急神戸線（梅田—上筒井）開通
10		・第1回国勢調査（人口約127万人）
11		・白木屋梅田店開業（ターミナル百貨店のはじめ）
10. 3		・第1次大阪都市計画事業認可
5		・市庁舎現位置に竣工
11. 4		・大阪都市計画区域決定（区域面積220.15k㎡）
12. 4		・市電梅田車庫廃止（現富国生命ビル）
13. 7		・大阪乗合自動車KK（青バス）開業
14. 3		・大阪都市計画用途地域はじめて指定
4		・第2次市域拡張　13区となる
10		・第2回国勢調査（人口約211万人）
15. 3		・大阪都市計画高速度交通機関認可
4		・市電梅田—都島本通間開通
昭和		
2. 2	1927	・市営バス（銀バス）開業、青バスと競争時代に入る
2. 7		・市電梅田—扇橋間開通
3. 5		・大阪駅附近都市計画事業認可（駅前広場・地下道・街路の新設）
		・総合都市計画の決定
12		・梅田貨物駅開設（客扱いは大阪駅とよばれるようになる）
4. 4		・阪急百貨店開業
5		・曽根崎警察署完成（東洋一といわれる）
7. 3		・国鉄城東線高架化（8年電車運行）
10		・第2次都市計画事業認可
		・15区制実施
8. 5		・地下鉄梅田—心斉橋間開通
9. 5		・大阪駅構内高架化工事完成
7		・国鉄吹田—須磨間電車運転
9		・室戸台風来襲
12		・都市計画美観地区指定
10. 4	1935	・大阪駅前土地区画整理事業着工（15年3月竣工）
10		・第4回国勢調査（人口約299万人）
11. 1		・大阪駅前高度地区（最低限高さ）指定、（昭和37年10月変更）
12. 3		・第3次都市計画事業認可
5		・御堂筋開通
12. 7		・日華事変おこる（15年頃より資材難によりビルの高層化ストップ）
12		・北野劇場開場（「キタ」の近代劇場の先がけ）
13. 4		・地下鉄心斉橋—天王寺間開通
14. 3		・阪神地下梅田駅で営業開始
8		・中央郵便局竣工
15. 3		・阪神梅田駅に阪神マート開業
6		・青バス市営バスに統合
		・3代目大阪駅（現大阪駅）完成
10		・第5回国勢調査（人口約325万人）
16. 5		・国鉄桜島線大阪—桜島間開通
12		・太平洋戦争おこる
18. 4		・22区制実施
20. 3	1945	・空襲による大被害
6		・月4回の空襲で都心部焼野原となる
8		・終戦

(8) 昭和20年代　ビルラッシュによる高層化など都市集積の増大

昭和24年ごろから戦争中の統制が解除されるにつれ急激に商業活動の範囲は広くなり、一方建築基準法をはじめとする建設3法が制定され、長い間抑制されていた耐震耐火建築物が一斉に計画され、26年阪急航空ビル、27年産経会館、28年第一生命ビル（潜函工法として有名）が完成し、このビルラッシュと時を同じくして22年ＯＳ劇場、24年梅田シネマ、29年ＯＳミュージックホール、31年梅田コマ等が誕生し、アミューズメントセンターとしての「キタ」の位置が一段と向上した。

(9) 昭和30年代　モータリゼーションの進展と高速度交通機関の拡充　戦後の都市人口の集中は、まことにはげしいものがあり、とくに難波・梅田などのターミナルにおける交通量は、人・車とも30年すぎには飽和点に達し、人を安全に通行させるために地下道の利用が考えられ、31年5月大阪地下街株式会社を創設し、38年11月「地図にない町」といわれる巨大な地下街の核となる地区がオープンした。また、横断歩道橋も38年4月に大阪中央郵便局前、39年10月に阪急前新梅田歩道橋が完成し、人・車の立体分離が行われた。一方自動車交通の輻輳から市電の廃止が始まり、大阪駅前においても38年8月大阪駅前・肥後橋間、41年7月大阪駅前・淀屋橋間が廃止され、ついに大阪駅前から市電が姿を消すこととなった。これに変わって高速度交通機関の整備が着々と進められ、国鉄環状線が36年4月に全線、地下鉄が39年9月新幹線開通にあわせて新大阪駅まで、40年10月西梅田・大国町間が開通し、阪急では、34年、37年にホームの延伸が行われ、この結果先の地下街の建設とあいまってビルの高層化もはじまり、37年新阪急ビル、38年大阪神ビル、39年富国生命ビルの建設など梅田かいわいは、戦後2回目のビルラッシュがおこり立体化の梅田へと変貌し、この姿が大阪駅北側、天六、梅田新道方面へも波及していった。この市街地の高層化に応じて大阪市においても36年11月大阪駅前市街地改造計画がスタートした。したがってこの時期は梅田ターミナルにとって戦後の一大飛躍期にあたったといえる。

(10) 昭和40年代　地下鉄網、高速道路網の拡充と地下空間の拡大

昭和45年の万国博を契機として大阪市の都市施設整備が急速に進んだ時期であり、梅田ターミナルにとっても新御堂筋の開通（45年3月）や高速道梅田ランプの開設などがあり、41年廃止された市電に変わるものとしての地下鉄網が西梅田・大国町間の開通につづいて、42年3月東梅田・谷町間、43年12月天王寺まで営業を開始し、桜橋方面の発展や大手前一帯の官庁街と「キタ」との結びつきの強化に寄与するところが大きかった。一方、国鉄の高架線によって拡張をおさえられていた阪急は乗客の大幅な伸びに対応するため、41年、駅の拡張工事に着手し、48年大ターミナル駅として完成をみた。さらに、「泉の広場」などをもつ地下街第2期工事が扇町線の下を新御堂筋まで45年3月竣工し、46年11月には「川のあるまち」、「滝のあるまち」などユニークな地下街をかかげた「阪急3番街」が出現し、その後「17番街」、「阪急ファイブ」等、「キタ」の新名所を増しつつ、人々を地下空間へ誘い込むこととなった。このような大阪駅東地区が一変するとともに、桜橋方面や大阪駅南側地区も43年12月の大阪駅前市街改造ビル第一棟の西半分、45年4月には東半分が完成し、引きつづき第2棟が現在工事中であり、吉本の円筒型ビルとともに、この地区は、今後梅田ターミナルの一方の核として変貌していくものと考えられる。一方、梅田ターミナルに不足していた宿泊施設も39年の新阪急ホテル、42年の西阪神ホテルや梅田ＯＳホテル等のビジネスホテルが次つぎと開業し、ターミナルの総合機能がますます強化された。

3．おわりに

大阪駅前を中心とする梅田地区は、近代的都市機能の集積にともなって明治以降新たに出現してきたエリアではあるが、大阪の玄関口として充実した都市空間の形成が今後の課題といえる。とくに、安定成長期に入った日本経済の中で都市がどのように変貌し、また整備されていくのか、50年代は梅田にとっても注目される時期になるであろう。

年月	西暦	事項
	1945	
21. 9		・ヤミ市誕生（22年8月強制撤去）
22.11		・梅田厚生館設置
2		・復興土地区画整理事業計画決定
7		・OS映画劇場開場
23.10		・第6回国勢調査（人口約166万人）
25. 8		・阪急京都線乗り入れ再開
26. 5		・建築基準法公布
8		・阪急航空ビル完成　ビルラッシュ始まる
28.11		・梅田繊維街卸商連合会結成
30. 9	1955	・トロリーバス大阪駅―加島間開業
4		・第3次市域拡張（面積202k㎡）
33.10		・第8回国勢調査（人口約255万人）
34. 5		・大阪駅前土地区画整理事務所開設
36. 2		・阪急3複線となる
4		・国鉄大阪環状線営業開始
6		・千里ニュータウン起工
8		・都心部に駐車場整備地区指定
9		・第2室戸台風来襲
38.11		・大阪駅前市街地改造事業決定
4		・梅田歩道橋完成（中央郵便局前）
39.11		・梅田地下街完成（地下街の幕あけ）
9		・新幹線新大阪―東京間開通
		・地下鉄梅田―新大阪間開通
40.10	1965	・新梅田歩道橋完成（阪急前）
10		・地下鉄西梅田―大国町間開通
41.10		・第10回国勢調査（人口約316万人）
42. 7		・大阪駅前から市電消える（全市は44年4月）
3		・地下鉄東梅田―谷町4丁目間開通（43年12月天王寺まで延長）
		・大阪市総合計画基本構想発表
43. 8		・阪神高速道路空港線開通
44. 6		・新都市計画法公布
45. 6		・都心部容積地区制採用
1		・幹線道路「一方通行」交通規制はじまる
3		・日本万国博覧会大阪で開催
		・新御堂筋開通
		・梅田地下センター第2期工事竣工
4		・大阪駅前市街地改造ビル第1棟完成
46.10		・第11回国勢調査（人口約298万人）
8		・「クリーン・エアプラン71」発表
47.11		・阪急3番街完成
3		・新幹線新大阪―岡山間開通
48.11		・地下鉄四ッ橋線玉出―住之江公園間開通
4		・自転車の歩道利用実施
7		・梅田新道東交差点立体化工事完成
8		・新用途地域指定
49.11		・大阪駅東口新歩道橋完成
4		・夕方のバス専用レーン4幹線で実施
5		・大規模建築物事前協議制実施
		・地下鉄谷町線東梅田―都島間開通
7		・中華人民共和国展覧会大阪で開幕
		・26区制実施
9		・梅田Vゾーン設置（歩行者天国）

なお、本小論は、前掲の図書のほか、つぎの参考文献によった。

1) 大阪市総合計画局"梅田ターミナル改造計画に関する基礎調査報告書"（1970.3）
2) 大阪市総合計画局・梅田地区計画研究会"梅田地区交通施設計画、歩行空間・広場形成のために"（1974.3）
3) 大阪市"都市計画年表"（1971.4）
4) 大阪市北区役所"北区誌"（1961.6）
5) 大阪市"大阪市統計書"

（うえだ　たかお　大阪市総合計画局都市計画部）

都心ターミナルとしての梅田地区

近藤　達夫

はしがき

去る昭和44年度、関西鉄道協会都市交通研究所のテーマとして、都心ターミナルの問題がとり上げられ、富永祐治所長以下、学者先生四委員による都心ターミナル研究小委員会が設けられ、梅田ターミナル地区をケーススタディーの対象として種々検討がなされた。

この際、国鉄、在阪五私鉄、大阪市交通局、大阪市総合計画局等の各担当者は、研究協力者の形で客観的資料を提供し、一方、各所属団体とは全く無関係に、ユーザーの利便増進の立場から、個人として意見開陳、討議などに参加した。

この研究結果の要約編はすでに昭和45年6月9日「都心ターミナルとしての梅田地区の再開発」の標題で関西鉄道協会都市交通研究所より発行（非売品）されているが、本稿はこのうち一部を富永所長のご厚意で拝借するとともに、再開発関係についてはかなり私の意見を付け加え述べたものである。

1．ターミナルの概念

ターミナルとは最も原初的には交通手段の中断点における施設、端的にいえば鉄道あるいはバスなどの起終点施設を意味する。ターミナルの中で都市への流出入交通を都市内の各目的地へ配分する施設が都市ターミナルであり、都市ターミナルでとくに都心に立地したものが都心ターミナルである。

都心ターミナルは業務地区が近く、したがって乗り換え機能よりも徒歩による業務地区へのアプローチの比重が高まっていくのがその発展の方向であり、したがって、都市再開発によって徒歩で行ける業務地区の造成が促進され、都心業務機能とターミナル機能の一体化した完結的地区形成の方向で検討されるべきであろう。

2．都心ターミナルの構成要素

都心ターミナルの構成要素は、(i)交通目的のために直接機能する基本的な必要施設。(ii)付随的な必要施設。(iii)本来は必要でないがそれらを考慮することが不可避な空間、に分けられる。

(i)．基本的に必要な施設

●人に対するもの

(1)．乗降施設

(2)．連絡のための施設

（連絡通路、エスカレーター、エレベーター、ムーヴィング・ウォークなど）

(3)．異質、異種の交通手段のジャンクションとして人の流れの時間的、量的ギャップを調整する施設(待合室など)

(4)．歩行者のフローを配分するための施設

(5)．出札、集改札施設

(6)．ターミナルおよび交通従業員のための施設

●輸送手段に対するもの

(1)．車に対するサービス施設（車両の運転、整備などのための施設）

(2)．車を留置する施設（引上線、バスベイ、タクシーベイ、自家用車、パーキングなど）

(ii)．付随的な施設

(1)．公共サービス的施設（電報電話、郵便、案内、救急医療、手荷物保管、飲食手洗などのための施設）

(2)．保安施設（警察、消防など）

(3)．あった方が便利な施設（ショッピング、アミューズメント施設など）

(iii)．必要ではないがそれを考慮することが不可避な空間

既述の都心機能と一体化したターミナルでは都心における人、エネルギー、情報の集中する場所であり、業務活動と直結し、人間の交歓の場でもありうる。したがって交通目的からは必要ではないが、待ち合わせ場所、広場、集合場所、公園などを考慮しなければならない。

3．ターミナル施設の規模

基本的な施設の中で乗降場、階段、連絡通路、出札、改集札口数、エレベーター、エスカレーター、ムーヴィング・ウォークなどの個々の規模の決定については、参照しうる資料も多く比較的容易であるが、駅全体の規模については、とくに大きな駅になると、その駅における交通目的のみに必要な施設のほかに配慮されるべき要因が多く、乗降人員などに関係して一義的な決定法を求めることは困難である。さらに都心ターミナルに付随するサービス業、小売業などの業種別の規模と乗降人員などとの相関をターミナルの百貨店、地下街について調査してみてもこれらのターミナルにとってその必要性が相対的に稀薄な施設は、その適正規模をきめる要因が広域的かつ多元的であり、交通面からとらえたターミナルの単一指標との関係を見出すことは困難である。

しかしながら、今はっきりいえることは、国鉄大阪駅は旅客のラッチ内移動がものすごく多く、かつ、その動線は輻輳し、これがスペースの不足と相まって混乱をきわめていることである。この改善策の一つとしてはラッチ数をふやして無用の客をラッチ外のより広いスペースで処理することであり、このことは改集札の自動化を前提とすれば省力化と矛盾することなく実施できそうに思われる。

4．都心ターミナルとしての梅田地区

梅田は大阪で最大の都心ターミナルであるが、施設面で多くの問題をはらんでおり、以下に述べるように、土地利用、鉄道・道路計画、広場と歩行者空間、地下街防災、さらには都心形態とマストラのパターンの改革等々、今後に残された課題が多い。

(i)．土地利用

梅田地区の土地利用は明治初年国鉄大阪駅誕生以来、駅前地区はみやげ物店、飲食店、旅館といった商業施設群が逐次成長して、百貨店に代表される小売店舗群と高級専門店に加えてバー、キャバレー、映画館といった歓楽街が形成され、最近は都心業務地の拡大の形で業務ビルの建設が進み、これが国道176号線(大阪福知山線）沿いに駅裏へのび、十三方面へ延伸されつつある。

駅裏は貨物駅施設の影響で土地利用は物流および関連サービス施設群が土地利用を先取りしてきた。都市計画用途地域指定も長らく準工業地域であったが、戦後、商業化の気運に合わせて昭和40年2月商業地域、防火地域指定がなされ、一流ホテル、オフィスビルが進出してきた。

いま、梅田周辺おおむね1キロ圏の土地利用の現況をみると、駅前：駅裏の比較は、道路率26.5%：12.4%、公有地率49.3%：63.3%、宅地率29.7%：22.1%であり、また建物についてみると駅前は駅裏に比し、建物件数で2.2倍、延床面積で5.1倍、平均階数で約3階の差がある。一方、建物用途をみると、駅前地区の建物延床面積の約80%を事務所と店舗が占め、駅裏では事務所と店舗の合計と住宅床面積がほぼ等しく、かなりの差違があるが、今後はさきにも述べたように駅前駅裏一体化された業務地化の方向で土地利用の進展が期待される。

(ii). 交通

(1). 鉄道　大阪都市圏における人口集中と都市構造の変化は著しい輸送需要の増加となり、昭和45年の梅田ターミナルの一日降車人員は120万人を数え、昭和35年に比べ57%の増加を示している。この流入動態は朝夕のラッシュ時以外にも連鎖し、業務、買物、娯楽その他の目的のために多数の人がこのターミナルを利用していることを考えるとターミナル施設の整備はもとより、その周辺を含む再開発が要望される。

大阪市としては都市のドーナツ化現象は遠距離通勤と公共投資の非効率を招くものとして、都心周辺の適地に高密度の住居専用地区および住商複能地区を配し、職住近接を図るとともに、交通機関の輸送能力、住宅の供給能力等公共施設計画との調整を図るべくマスタープランを立てているが、もし、昭和65年の市内昼間就業人口 290万人、市内常住人口300万人とすれば、流入就業者155万人となり、通勤輸送の鉄道利用率を不変とすれば昭和45年の流入人口 108万人の約1.4倍の需要増加となる。

梅田地区における通勤者の流入実態については、昭和42年11月に将来のターミナル整備計画の樹立を目的として、交通機関別流入率、乗換状況の実態を調査してある。これによれば梅田ターミナルへの流入は平日出勤時(午前8時～9時)において208,018人であり、このうち約71%は他の交通機関へ乗り換え、他は徒歩で近接業務地へ向かっている。この乗り換えパターンを用いて昭和50, 60年の最混雑1時間の乗換ＯＤ表を推定したが、昭和60年の最混雑1時間の降車人員は約29万人で昭和42年調査の1.4倍となる。ただし、この数字は梅田のみの発生交通量をトレンドから予測したものを基礎としているので、都市圏における広域的な通勤交通量の予測値との斎合性について若干の問題がある。

(2). 道路　市内における自動車保有台数は昭和49年3月末で62万台を数え、35年同期と較べ3.7倍に増加している。都心部の主要交差点における交通量も保有量の伸びと同様の経過をたどっていたが、昭和35年頃より飽和状態を示し、交通停滞を多発、この状態が漸次外周部へと波及しつつある。路面交通の現状を根本的に打開するためには、単に交通需要を後追いする道路整備の姿勢を改め、路面交通需要そのものの抑制と発生源としての都市機能の分散、代替手段たるマストラの整備等の諸施策を総合的かつ効率的に検討する必要がある。

梅田における主要交差点について交通量の推移をみると、やはり昭和35年以降飽和ぎみであるが、昭和48年の昼間交通量(午前7時～午後7時)は阪急前60,076台、阪神前85,906台、梅新84,611台で、交通量集中の激しさがうかがわれる。交差点における車種別比率をみると、乗用車比率がいずれも60%前後で貨物交通流の混合度が高い。これは大阪都心部の特性として従来都心部に卸売業が存在することと梅田に大阪最大の梅田貨物駅があることによる。国鉄大阪駅北側に立地する梅田貨物駅に対するトラフィックラインのパターンがきわめて粗であることは、前述のとおり駅裏における道路配置の不備によるもので、貨物駅へのアプローチはほとんど大阪駅前迂回という形をとっている。したがって以下に述べるようにターミナル機能の分散を含めた都心形態の変革、マストラのネットワークの見直しと関連した市街地再開発が一体としてなされなければ、梅田地区の交通混乱の解消は望み難いと考えられる。

(iii). 都心形態と鉄道網について

わが国の諸都市は、鉄道を輸送の主軸として都市形成が進んできた。東京都心は神田、東京、有楽町、新橋といった具合に都心の長手方向に国鉄線が走り、乗降客はこれら複数の各駅でかなり分散して乗降しており、一方幹線道路も都心の長手方向に複数の路線が整備されている。ところで、大阪都心部は旧船場北浜地区から中之島・堂島、梅田に至る南北に長い都心地域の北端をかすめる形で東海道線が淀川を越えてサービスしており、淀川以北の東淀川、塚本の各駅は、新大阪副都心の形成を別にすれば、全く都心とは異質の土地利用の地区に立地している。道路網も南北軸が強く梅田では駅前からやや放射状のパターンを呈しており、なかんずく駅裏側が弱いのは前述のとおりである。

このため国鉄の乗降客は梅田のみに集中し、梅田でドンと降りてまたドンと乗るパターンであり、このあおりを地下鉄1号線が受けて四苦八苦している。これに加えて阪急の三複線と阪神の複線がともに梅田でドンになっており、これが梅田ターミナルでの混乱に拍車をかけている。

この救済策としては、過日都市交通審議会大阪圏部会で答申がなされたように、片福連絡線の整備(国道1、2号線地下)とか市交3号延伸(地下鉄四ツ橋線北進、十三経由北伊丹方面)等々、都心貫通型のパターンに変革して、梅田での強制乗り換えの解除を図る必要がある。

また、実現の可能性を別にすれば前述の梅田でドンになっている阪急・阪神両線の延長についても配慮する必要があろうし、梅田到達前のいずれかの地点でサブターミナルを開発して、新種のマストラで受けて都心へのサービスを行うことと、これらのサブターミナルを前述の東京都心部並みの業務地に育成して都心形態そのものを変革する構想を樹立すべきであろう。

(iv). 広場と歩行者空間

さきにふれたように、大阪市への流入人口は国勢調査年の5年目ごとに約1.5倍、10年間では2倍を越える増加率で伸びてきた。このことは、市内の雇用力の伸びが強く、不足する労働力を市外から供給を仰いできたからであるが、これに対応する各鉄道事業者の輸送力増強策は従来の線路施設の上に車両の増強とホーム延長、運転時隔の短縮などの方法で進められてきた。したがって、比較的容易に輸送力増強がなされたことも手伝って、5年後に1.5倍、10年後に約2倍と、おおむね輸送需要に対応した輸送実績を上げて今日に至っているが、ジャンクション機能としての広場、連絡通路等の拡充は容易に進まず、難問を後に残している。

近年、梅田地下街の防災上の問題が強く指摘されているが、これももとを正せば梅田地区における歩行者空間の絶対量が不足していることにその根源があるといわざるを得ない。

駅周辺地区のスペース不足は全国的な問題でもあり、このため各自治体により後追い整備の形で駅前広場を生み出すための市街地再開発事業「駅前シリーズ」がくり拡げられてきた。しかしながら、この手法は大阪府下の衛星都市とか他の中都市程度の駅前で地価が坪当たり40～50万円程度の場所が再開発事業完成後、坪当たり80～100万円へと飛躍的に上昇する所では事業可能であるが、大阪市のような既成大都市の駅前ではすでに地価が300万円/坪程度となっており、ここに公共施設等の追加投資がなされたからといって地価が2倍の600万円/坪になる可能性は薄い。

したがって、今後は梅田のような大ターミナルに対してさらに負荷を増やす方向は避けて、さきに述べたターミナル機能の分散とそれに関連した市街地再開発の方向を模索すべきであろう。

(こんどうたつお　大阪市総合計画局調整部主幹)

歩行空間の現況と診断

紙野桂人／知花弘吉／春井秀雄

はじめに

いま、大都市のターミナル・エリアのありかたについて不満をもつ人は大変多い。にもかかわらず、毎日のラッシュ時の雑踏、休日のショッピング客の殺到にみられるように、その都市圏に住む人の大多数がこのターミナル・エリアとよばれる空間と何らかの交渉をもたざるを得ないのが実情である。人とその都市との触れ合いが居住地とターミナルの二面に極限されている場合も家庭の主婦などにとってはしばしば起こることである。通勤者にしても、職場とターミナルおよびそのかいわいと自分の家との間を規則的に往復するような生活パターンはまれではない。このように、ターミナル・エリアが都市空間のなかで秀れて実効性の高い公共空間であることは、まず間違いのないところである。とくに大阪の場合、キタとミナミで代表されるように、たんに交通結節としてだけではなく、コミュニケーションの機能もアメニティの要素もかね備えた文字どおりの都心として、ますます多くの人と物を吸い寄せていることは周知のとおりである。そこで、機能と空間と人との複雑多岐なからみ合いは、とけないもつれた糸のようにより合わされていく。

人々は、このもつれた糸くずの中を手際よく泳ぎまわることに倒錯した充足感を持つと同時に、心身の疲労をさそう複雑さ面倒さ、人と物の過密とそれにともなう非衛生、不合理、空間不足について大きな不満をいだきながら、なおかつそこに通いつづけているのが実情である。なかでも、誰もがいまターミナルの人間環境として問題に思っているのは、人の歩く空間についてである。

ターミナル・エリアでは、個々の建物であっても、その中を群集が激しく流れて街路や地下街につながっていき、いわば都市空間と建築空間ひとつながりの歩行経路の網の目ができあがっている。そこでは、一個の建築物といえども準公共空間として都市空間の中に組み込まれていくのが実情であるが、残念ながらターミナル・エリア全体を通じる公共空間の流れ、歩行空間の流れについてマスタープランをもてないままに、個々の機能や空間の膨脹がくり広げられてきてしまった。

このような、空間の複雑化・多様化に加えて、自動車交通増大とのからみで、さらに問題は悪い方向に向かってしまっている。

ターミナル・エリアにおける自動車の発生交通もさることながら、ターミナル周辺の街路が同時により広域の自動車交通の幹線機能を合わせもっている場合が多いので、ターミナル・エリアを自由に往来しようとする群集の流れと大量の自動車交通とがもろにかみ合う結果となった。これまでのところ、街路は自動車の流れにとってリニアーな構造となり、街区と街区はこの河の両岸に分けへだてられて、歩行者は渡し舟（横断歩道）に乗るか上下する橋を渡って向こう岸にたどりつくかせねばならない状態になってしまった。

河を渡る場所がこのように限定されると、道筋はあらかたごくかぎられた経路にしぼられてしまう。それが、自然なわかりやすい路線になっているならばまだしも、空間の複雑化・多様化の波にもまれて不自然なわかりにくい、使いづらいものになってしまっている。

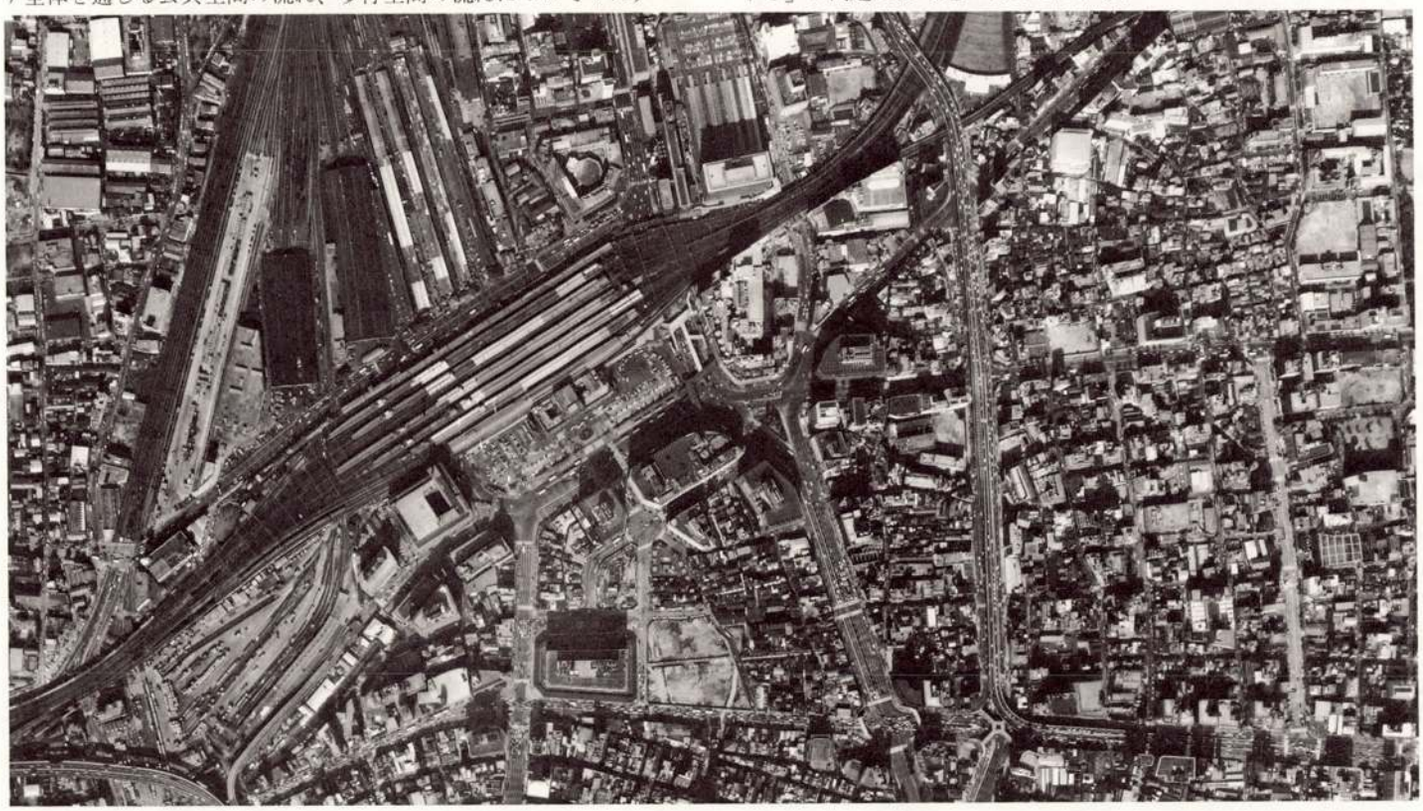
では、いったいどのくらい悪くなっているのか？

この質問に対して、はっきりした答えを出すことは意外に困難である。なぜなら、そこを使い慣れている人々にとっては、なんとか使いこなす習性が身についてしまって、答えは生理的・心理的に屈折し潜在化してしまって明確にはね返ってはこないからである。

この問いに明瞭に答えるためには、ターミナル・エリア全体を歩行空間としての環境評価で洗い直してみることが必要である。また、もっと直接的な診断法として、初めてそのターミナルにやってきた人の素朴な行動を通して状態を判断することがひとつの解を与えるであろう。

前置きが長くなったが、この特集の主題を受けて、そのようなターミナル空間の診断の実例を大阪梅田ターミナルと、国鉄京都駅について示して問題にひとつの手掛りを提供したいと思う。

なお、ターミナルの空間のとらえ方として、(1)各駅のラッチ内の空間、(2)乗り換えなどのために往来するジャンクション・スペース、(3)その外に展開する市街地空間の区分があるが、ここでは、(1)は置いて、(2)と(3)について検討する。そこで、歩行環境としての洗い直しについては、「あるきやすさ」からみた問題として述べる。また、初めてきた人（初来訪者）の行動による診断は、空間の「わかりやすさ」の問題として述べることにする。



1 歩行経路の「あるきやすさ」はどうか

1．ジャンクション・エリアについて

梅田ターミナル地区には、鉄道駅として、阪急梅田、阪神梅田、国鉄大阪、地下鉄梅田・東梅田・西梅田の6つの駅がある。昭和48年度で乗降人員は、東梅田約12万人、西梅田約9万人、梅田約45万人、阪急梅田約72万人、阪神梅田約24万人、国鉄大阪約63万人で梅田ターミナル地区全体で約225万人の乗降人員がある。パーソントリップによる鉄道の乗換率は約61％である。よってこの率がかわらないと仮定すると昭和48年度で約 137万人の人が乗り換えの目的で動いている。

このように多くの人が動く「交通の中枢」としてのターミナル地区は、老齢者や身体障害者にとって障害物としてよくある例は、床の段差、階段、利用しにくいエレベーター、急で狭い道、方向のわかりにくい交差点、横断歩道などであるが、これらは健康なすべての人々の交通のネックにもなっている。

つぎにこれら交通貧困層を個々に検討する。

●歩行ネック地点について

図－1は地上レベルにおける歩行者の歩行ネックとなる箇所，すなわち交差点、横断歩道、上り階段、下り階段を地図上にプロットしている。これをみると、いかに交通機関の相互乗り換えが歩行者にとって、不便で経路がわかりにくくなる地点を通らなければならないかがよくわかる。またこの図面は歩行ネックとなるこれらの地点にナンバーをつけている。これは図－3の乗り換えの分析図にも明示している。図－2の地下1階レベルの歩行ネック地点分布も同様であるが、ネック地点としてレベル差が少しだけある階段も入れている。

●ジャンクション機能の条件整理

鉄道駅間の乗り換えについて検討している項目として距離、道程、レベル差の駅相互の概要項目、それに階段数、交差点、横断歩道数の歩行ネック項目、最後に経路分析として所要時分、歩行経路の建築物内部率、距離に対する道程の倍率、100mを歩くのに何秒かかっているか、参考としてラッシュ時の乗り換え人数を示している。例として阪急↔阪神間の歩行経路を分析しているが、Ⓐは平面図、Ⓑは断面図、Ⓒはレベル差、Ⓓは調査日と所要時分、Ⓔは平面図の凡例を示す。

■交通貧困層（いろいろなタイプ別にみてみると）

●老齢層（65歳以上の人と定義づけると大阪府下で5％強の人がいる）老境にうるおいをもたらすものに、友人、知己への訪問、芝居見物などがある。これらの欲求をみたすために公共交通機関の乗り換えを余儀なくされる。この人々が困っている主な事柄を列挙すると、①階段ののぼりおりが大変である。とくに階段の長いX14の東梅田からきて阪急百貨店に上がる階段など。②行先の経路がわからない。とくに階段からおりてきたり、角度が複雑な交差点などで方向がまったくわからない。③自動販売機による切符購入時に大変まごつく。④休憩場所が非常に少ない。（国鉄コンコースにはあるが）

●心身障害者層（一応身体障害者手帳保有者と定義すると大阪市内で約2％の人がいる）

普通の交通貧困層と同じ障害のほかに、各障害別にとくに困る点についてみると、①視覚障害ではまず、レベル差によるつまづき、信号の識別が困難、交差点における方向の確認が困難（交差点の角度が複雑）である。②聴覚障害では、横断歩道上での自動車音がきこえない。道順を人にたずねてもきこえないから書いてもらわないとわからない。という大きな障害がある。③言語障害は道順を人にたずねることができない。④身体不自由では階段のレベル差、車イス使用者のドア幅員の狭小さによる障害。⑤内部障害は休憩場所が少ない、階段の昇り降りがつかれる。

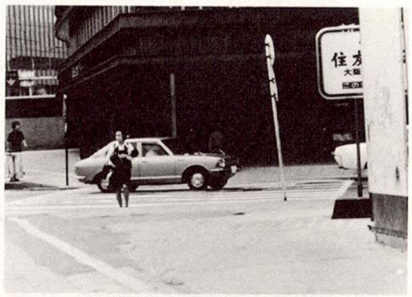
●子供づれの人（5才未満の子供づれと定義づけると約10％ある）階段ののぼりおりと、休憩場所が少ないことが困る。（子供はつかれると眠ってしまうことが多い）

●荷物をもった人（定義としては、荷物をもっているために普通の歩行姿勢がとれない状態とすると場所により異なるが約2～10％と比較的に多い）。①階段ののぼりおりがもっとも困難である。②少休憩できるスペースとロッカーがもう少しほしい。

■写真でみる梅田ジャンクション地区の問題点実態



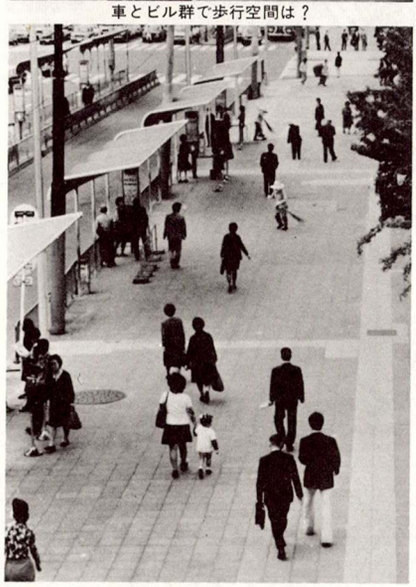
車とビル群で歩行空間は？



子供を抱えた母親のつかれは！



どこか荷物をおくとこはないかな？



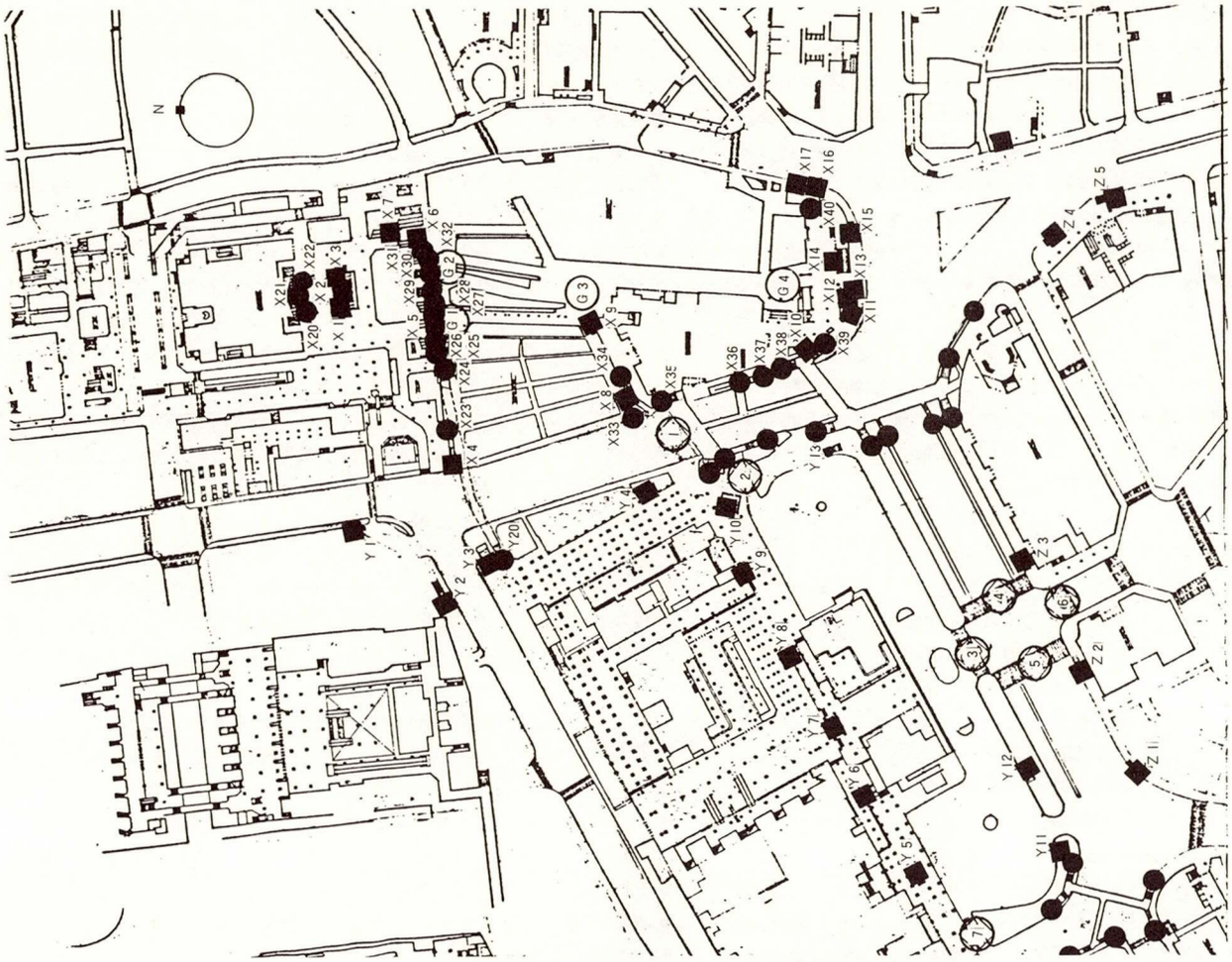
バスターミナルの歩道状況



どこにも休む所がないのかしら？

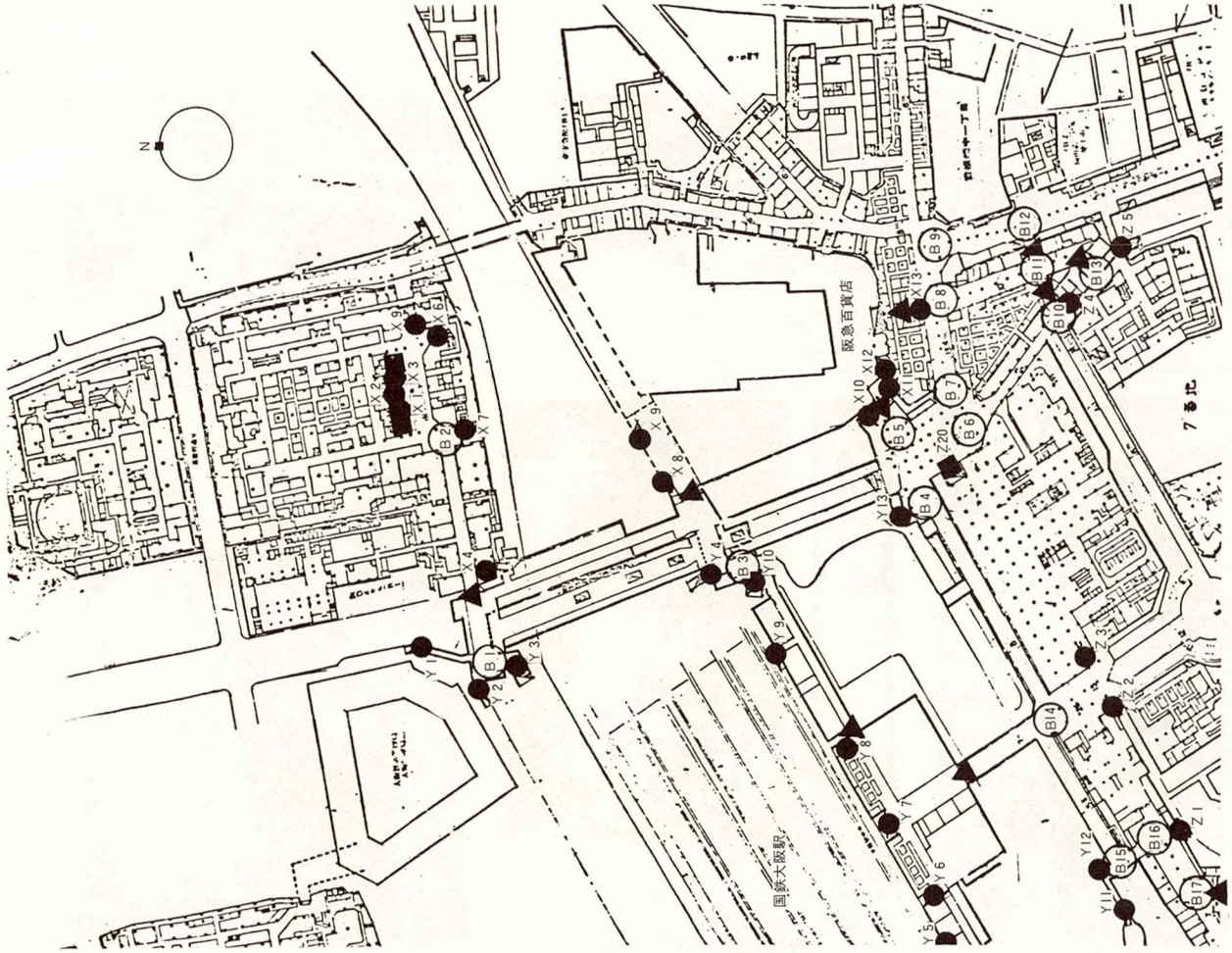


遠いなあ！



①交差点（円内数字は交差点ナンバー）
Ⓘ横断歩道（円内数字は横断歩道ナンバー）
●上り階段（Xは阪急ゾーン、Yは国鉄ゾーン、Zは阪神ゾーン）
■下り階段（Xは阪急ゾーン、Yは国鉄ゾーン、Zは阪神ゾーン）

図−1　地上レベルの歩行ネック地点分布図



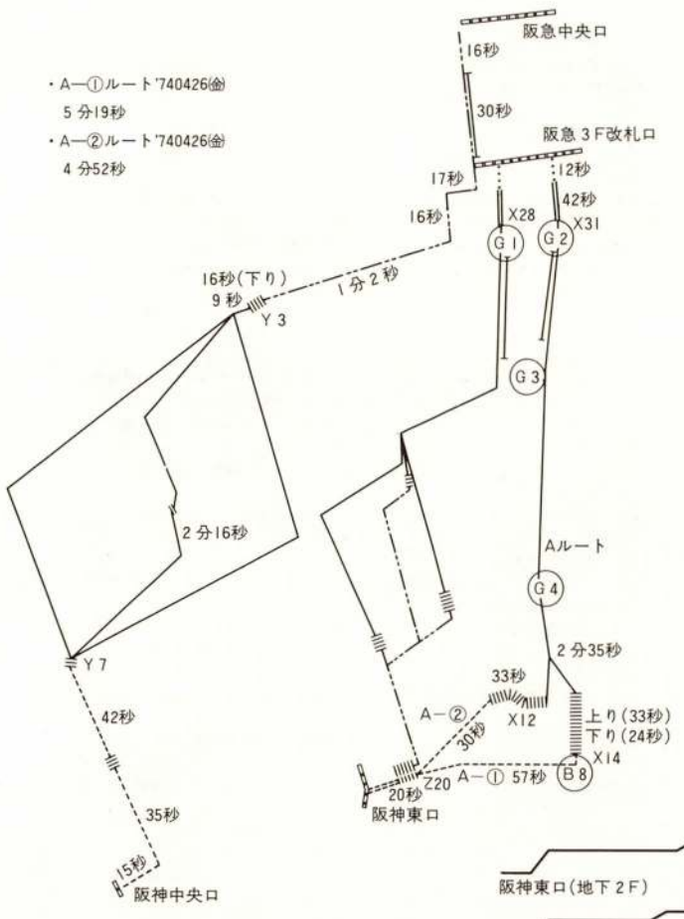
①交差点（円内数字は交差点ナンバー）
Ⓘ横断歩道（円内数字は横断歩道ナンバー）
▲小さな階段
●上り階段（Xは阪急ゾーン、Yは国鉄ゾーン、Zは阪神ゾーン）
■下り階段（Xは阪急ゾーン、Yは国鉄ゾーン、Zは阪神ゾーン）

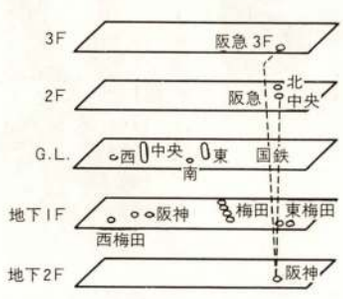
図－2　地下１階レベルの歩行ネック地点分布図

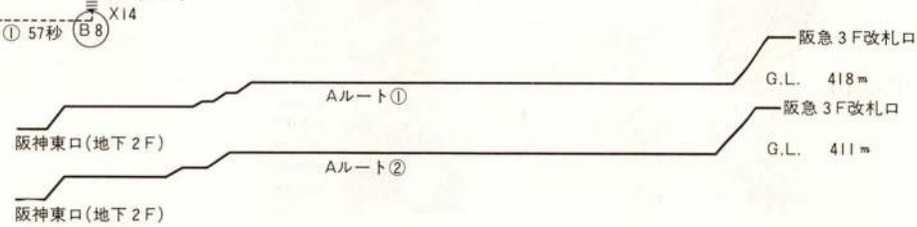
表—1　ジャンクション機能の条件整理

	ルート	距離 (m)	道程 (m)	レベル差 (階)	階段数	交差点 横断歩道	所要時分	歩行経路の 建築物内部率(%)	道程／距離	秒／100m	ラッシュ時乗り換え人数 (AM8－AM9) (人)
1. 国鉄↔阪急	A	185	276	2	1	3	3分52秒	86	1.49	84秒	国→急 10,458
	B	215	282	1	1	0	4〃37〃	52	1.31	98	急→国 11,685
2. 国鉄↔阪神	A	155	218	2	2	1	2〃38〃	60	1.41	72	国→神 4,077
	B	150	168	1	2	1	2〃6〃	100	1.12	75	神→国 1,431
	C	145	222	1	1	3	2〃30〃	47	1.53	68	
3. 国鉄↔梅田	A	75	94	1	1	1	1〃33〃	84	1.25	99	国→梅 20,828
	B	50	76	1	1	0	1〃	100	1.52	79	梅→国 2,649
	C	58	72	1	1	1	52〃	100	1.24	72	
4. 国鉄↔東梅田	A	333	396	1	1	6	4〃37〃	78	1.19	70	国→東 4,520
	B	333	382	1	3	6	4〃32〃	77	1.15	71	東→国 317
	C	333	384	1	4	6	4〃32〃	77	1.15	71	
5. 国鉄↔西梅田	A	210	282	1	3	4	4〃2〃	100	1.34	66	国→西 7,534
	B	165	236	1	2	4	2〃54〃	50	1.43	74	西→国 422
6. 阪急↔阪神	A－①	312	418	4	5	4	5〃19〃	100	1.34	76	急→神 2,494
	A－②	312	411	4	4	3	4〃52〃	100	1.32	71	神→急 972
7. 阪急↔梅田	A	140	212	2	3	1	2〃21〃	100	1.51	67	急→梅 21,162
	B	155	216	3	3	2	2〃46〃	100	1.39	77	梅→急 4,893
8. 阪急↔東梅田	A	475	576	2	5	6	6〃32〃	100	1.21	68	急→東 4,560
	B	403	502	3	5	6	5〃31〃	100	1.25	66	東→急 1,364
9. 阪急↔西梅田	A	563	756	2	5	3	9〃48〃	82	1.34	78	急→西 5,273
	B	504	672	3	3	7	9〃49〃	39	1.33	82	西→急 286
10. 阪神↔梅田	A	45	66	1	1	1	56〃	100	1.47	85	神→梅 5,389
	B	185	198	0	0	3	2〃31〃	100	1.07	76	梅→神 1,181
11. 阪神↔東梅田	A	180	238	1	4	4	3〃7〃	100	1.32	79	神→東 901
	B	180	222	1	3	3	2〃55〃	100	1.23	79	東→神 421
12. 阪神↔西梅田	—	63	71	0	1	2	1〃3〃	100	1.13	89	神→西2,650 西→神617
13. 梅田↔東梅田	A	185	234	0	2	5	2〃40〃	100	1.26	68	梅→東 118
	B	185	225	0	3	5	2〃40〃	100	1.22	71	東→梅 529
	C	185	220	0	2	4	2〃27〃	100	1.19	67	
14. 梅田↔西梅田	—	293	342	0	1	6	4〃17〃	100	1.17	75	梅→西1,147 西→梅 —
15. 東梅田↔西梅田	A	378	548	0	4	9	6〃15〃	100	1.45	68	
	B	378	554	0	3	10	6〃15〃	100	1.47	68	東→西 40
	C	378	558	0	1	10	6〃20〃	100	1.48	68	西→東 62
	D	378	530	0	3	8	6〃2〃	100	1.40	68	

図 —3 例として、阪急↔阪神







2周辺街路の現況と問題点

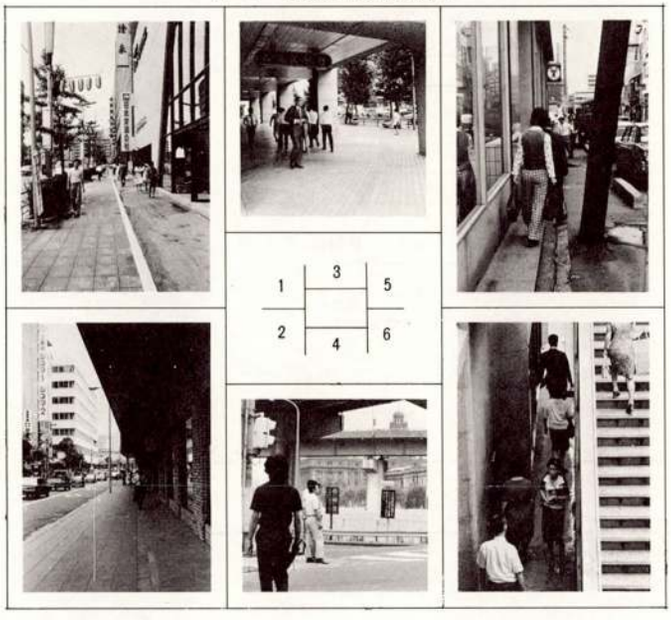
歩行環境としての梅田ターミナル周辺街路は、さまざまな問題を抱えている。その問題の一端を明らかにするため、歩行者サイドに立って観察し、環境評価を行った。**(図－4、表－2)** これはあらかじめ設定されたルートを調査員が歩き、気付いた点を記録し、検討したものである。概況としては“普通”という印象を得た。しかし大都市の中心市街地としてもう少し高いレベルの評価を目標として整備すべきであろう。

比較的良好であると評価された街路は御堂筋、四ツ橋筋 etc である。**(写真1、2、3)** これらは梅田ターミナルと業務地区とを結ぶ街路で、とくに御堂筋は昭和初期に巨額の資金を投じて整備された。現在でもなお歩道の整備状況、街路樹、建物のメンテナンス etc が整えられ、人々にとっても快適な歩行空間になっている。

悪いと評価される場所としてまず細街路がある。そのほとんどは、自動車の氾濫や看板、物品などのような突出物によって歩行空間が圧迫されている。ガードレールや駒止めなどによって歩行空間が確保されている街路でも、電柱・立看板などのためにスムーズな行動が阻害されている**(写真5)**。　幹線街路においてさえも同様な指摘



図－4　街路の歩行環境評価図



表－2　街路の歩行環境評価

評価内容	改善の方向
歩道関係	
・路面の仕上げ、手入れ悪い	・よごれにくい材料による路面の再整備
・歩道のない所危険	・幹線街路以外でも歩道の確保(ガードレール、駒止)
・ガードレールで保護されると歩きやすい	・歩道は分散的でなく連続性をもたせる
・歩道幅員狭くすれ違いにくい	・歩道の拡幅、立看、商品、自転車などの除去(できれば電柱なども)
・歩道幅員が一定でない	・地下街出入口、歩道橋附近の歩道幅員の確保
・建物1Fピロティ部分歩きやすい	・建物前面を歩行者に開放するように指導
・歩道広々として気持がよい	・歩道幅員の確保と植栽の拡大
・工事中の周辺荒れている	・工事に伴う道路使用、騒音などをきびしく規制する
・地下街出入口の段差	・地下街出入口附近の段差に工夫
・歩道橋	・スロープの場所の拡大、可能ならば除去
・車道と歩道の段差(階段状である所)	・段差はスロープにする
・信号無視多い(細街路、幹線街路)	・細街路から車の排除、信号設置条件の検討
・どの信号をみて良いかわからない	・わかりにくい信号、見にくい信号は設置場所を変えるか、改善
・信号のない横断歩道危い	・車が走りにくいように工夫、横断歩道の手前に段差をつける
・とっつきにくい横断歩道、横断中信号が変わりあわてる	・交差点などはスクランブル導入
・信号待ちの人の待ちスペース不足	・信号待ちのスペースの確保
・駐・停車多く歩きにくい	・駐車違反等をきびしく取り締まる、細街路の通行禁止
・歩道に乗り上げた車邪魔	・歩道に乗り上げられないよう工夫
・車に気をとられイライラする	・歩車道分離区域拡大、歩行専用路の導入
・一方通行場所、後の車に気をつかう	
・騒音大、排気ガス大	・高速道路から騒音対策、通行台数を押さえる、減速する
ストリート・ファニチュア	
・歩道の屑籠が邪魔	・狭い歩道での屑籠の設置を工夫する
・屑籠、屑が詰まってもう使えない	・屑籠を大きくする
・護美が散乱して不潔	・護美を気軽にすてたくなるような所をなくする
・屑籠の大きさ、配置、デザインはもっと考えるべき	・屑籠の適正配置、デザインの統一
・電柱が歩道内にあり邪魔	・幹線街路だけでも除去
・電柱、電線がゴチャゴチャしている	・電線は地下ケーブル化の方向に指導
・映画の看板ポスターで雑然としている	・映画館附近の看板の規制、ポスターのはり場所指定
・広告、看板が不揃いで多すぎる	・広告、看板の規制、デザインの統合化
・歩道に突出した看板、立看、危い	・広告物の設置高さ規制、立看板禁止
・広告のはんらん	・公共的標識のある附近での広告物の規制
・歩道に突出したテント危い	・低い所の突出テントの除去、デザインの統合化
・案内図、案内板に気付きにくい	・設置場所の検討、イメージアビリティを高める(例、交差点etc)
・今自分がどこにいるかわかりにくい	・案内図の表現方法の再検討
・アーケードが途中までしかない	・アーケードのデザインは全面的に考え直す
・アーケードにより薄暗くなっている	
・デザインが良くない	・デザイン・コンペティションを実施して創造力を高める
・歩道に設けられたタクシー、バス乗り場の棚	・タクシー、バス乗り場等の滞留スペースの再検討、確保
・自動販売機が邪魔	・歩道に突出した自動販売機除去
・自転車、単車、物品、空箱が邪魔	・自転車、単車、物品etc 除去
外部空間	
・樹木の茂っているところ気持がよい	・フラワーボックスの連続的設置、植栽の拡充
・樹木が分散している	・低木、高木の適宜配置
・歩道橋の裏側デッドスペース	・歩道橋周辺の利用を工夫
・オープン・スペースが少ない	・オープン・スペースの確保
・中途半端な空地が惜しい	・空地の有効利用を計る
・不良品置場	・材料、ガラクタ置場になっている所の有効利用を計る
・高架の下の小緑地、遊び場などは有効に利用されていない	・高架下の工夫と真の有効利用
・公開空地は良好	・公開空地の拡大、公開空地の連続性確保
・ベンチに老人が座っている	・休憩場所の確保と再整備
・歩道橋2カ所昇降すると休みたい	・幹線街路における休憩スペース確保
・腰かけられるところがほしい	
・少ないスペースでも植栽があると人が休んでいる	・休憩スペースの植栽、ファニチュアの充実
・噴水の周囲、住宅展示場の近くで休んでいる	・心身とも休憩できる空間の演出
・バス停のベンチに腰掛けている	・バス利用者のための滞留空間の充実化
景観、視界、その他	
・新大ビル、大阪市役所、日銀附近景観良好	・景観のよいところを確保し、殺風景のところに工夫
・異和感のする建物がある	・改修指導
・高架による景観の破壊	・高木等により景観をやわらげ高架道路の構築を規制
・壁面が汚損している	・古くなった壁面の修理、指導
・壁面の広告見苦しい	・壁面広告物のデザインの統合または規制
・メンテナンスの悪い建物があり見苦しい	・低層建物のデザインの統合、幹線街路沿いのデザインの統合
・不良建物(バラック)がある	・不良建物の改修を指導
・デザインの不揃い	・個々バラバラのデザインを地域的広がりで考える
・地下街出入口のデザインの不揃い	・地下街の出入口のデザインの統合、ネーミング
・高架や歩道橋で視界がさえぎられる	・構築規制
・阪急百貨店に視界がさえぎられる	・デザインの指導
・前方の見通し悪く、街路の選択に迷う	・複雑な交差点での工夫
・ランドマーク的なものが少ない	・ランドマーク的なものの設置およびネットワーク化
・地下街出入口が視界を悪くしている	・地下街出入は歩道につくらない、周辺建物に組み込む
・薄暗いところ、淋しい感じのところある	・陰気な部分の改修
・適度な人の流れはない	・適度な流れになるよう、歩行空間の整備
・高架による圧迫感	・圧迫感の排除(例、樹木によりカバー)

ができる（とくに国道1、2号線の歩道）。

また、歩道橋のある地点では、従来確保されていた歩道幅員がせばめられて、歩道橋と建物とのわずかな隙間を人々が通行しているという現象もみられる。歩行者のための歩道橋が逆に歩行者を圧迫するという皮肉な結果に陥っている(**写真6**)。

さらに、高架道路、高架鉄道、歩道橋などのような巨大構築物が視野を妨げている例が少なくない。また四ツ橋筋から中之島附近をながめた**写真4**によっても明白なように、巨大構築物によって景観が破壊されている。

以上指摘してきた問題点に加えて、ターミナル周辺のグリーン、オープン・スペースやレスト・スペースなどは分散しているため、充分に効果を発揮できないでいる。その統合化がのぞまれる。

❸空間の「わかりやすさ」はどうか

ターミナルについて、利用主体の側からみると、大まかに、通勤（コミューター）者と訪問者（ヴィジター）にわけられる。訪問者はさらに、経験あるものと未経験のもの、（初来訪者（ニュービジター））とに分けることができる。主体と環境のかかわり合いとして、前二者は環境に対して強い者であり、初来訪者は弱い者である。環境が人間らしい生活にふさわしいものとなるための基本は、環境に対して抵抗力の弱い者にも安心して居られる状態を造り出すことである。われわれ大都市居住者は、先にも述べたようにターミナルをしばしば利用することでそれに慣れ、相当な不具合についても主体側の応対の仕方でこなしてしまうことから、不具合や矛盾に意外に気付かないでいることがある。しかしそれは気づかないだけであって、本来あるべきものから遠くかけ離れた状態にのめり込んでいっていることに変わりはない。その影響は潜在的、間接的にではあるが着実に人々の生活にゆがんだ枠をはめ込んでいく。

他方、弱い者にとっては、その影響はもっと明白であり、決定的である。初めての者にはとても使いこなせない公共施設、弱い者が途方にくれてたちまどう公共空間がそれとしてたちどころに明らかになる。人間はもともと初来訪者のように素朴なものであり、それに相当な程度に応え得ることが、都市空間の人間らしさの標準であろう。

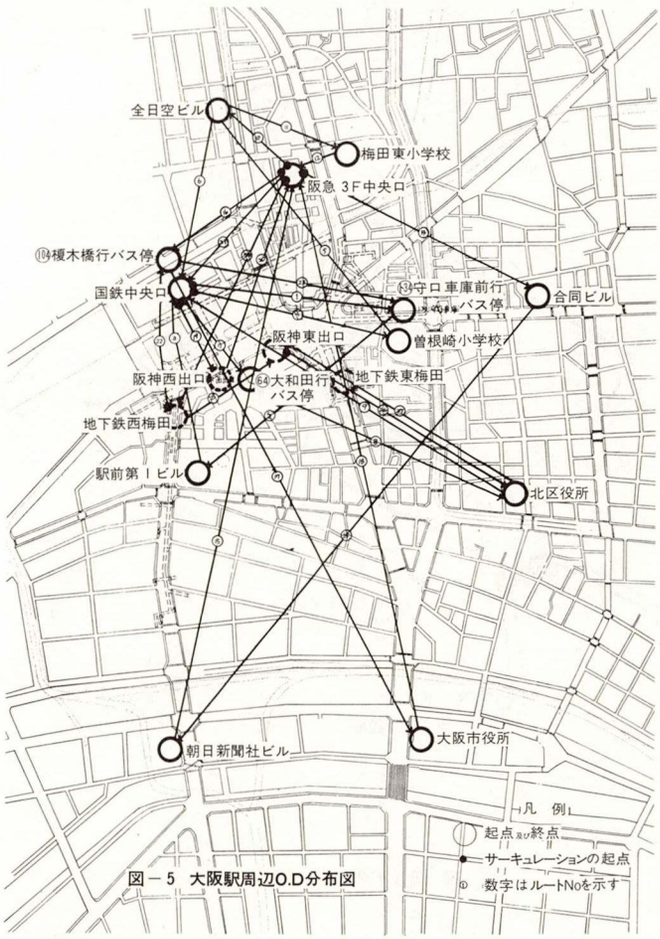
梅田ターミナル周辺の都市空間は、初来訪者がそれぞれ目的の所へいこうとする人間的な要求に対してどう応答するのか、いいかえれば、都市空間の「わかりやすさ」はどの程度保たれているか、それが、この調査の目的であった。

すなわち、ターミナル・エリアの各所に行動（トリップ）の起点（ORIGIN）と終点（DESTINATION）を設定し、その幾組かのODについて、初来訪者に、終点の地名または施設名だけを与えて出発させ、観察者（調査員）がその行動（トリップ）を逐一記録していくわけである。それによって、果たして被験者がうまく目標に到達できるか、その経路は合理的なものか、どのような情報を得、それをどう活用するか、行動の阻害要因は何か、被験者がもっと頼りにするものは何か、などの諸点を読みとろうとしたわけである。

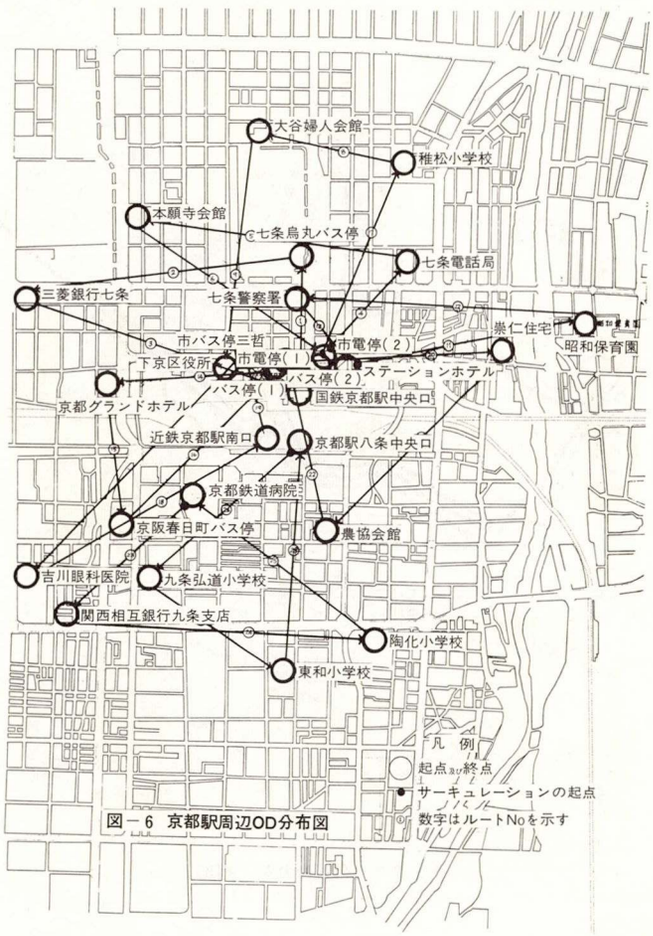
調査対象の地図とODの分布を**図－5**、**図－6**に示す。

調査の概要はつぎのとおりであった。

調査日時：大阪駅周辺、昭和49年4月、京都駅周辺、同年12月、調査方法：被験者と調査員とがそれぞれペアを組み所定のOD間トリップを実施した。この場合、被験者には終点の「名称」のみを与えその他の情報は一切与えず、被験者自身が必要に応じて情報収集をするように指示し、調査員は情報源にならないよう指示した。調査員は被験者が行動を開始した時点から追跡をはじめ、現地周辺の地図（1/6000）に行動軌跡、情報収集場所、情報源などについて記録し、また被験者の態度についてもできるだけ詳しく観察し記録するようにした。被験者：大阪駅周辺、関西大学新入生（S49.4入学4名）、京都駅周辺、近畿大学4回生、一般社会人（計5名）である。彼らが初来訪者としての資格をもつか否かについて検討するため、おのおのの被験者に対して調査地区周辺のイメージマップを描かせたが白紙の状態であった。またODを含んだ建物名、街路名を挙げ認知程度を検討した結果、名称や位置について知らないものが大部分であった。したがって初来訪者としての資格をもつものとした。



図－5 大阪駅周辺O.D分布図



図－6 京都駅周辺OD分布図

梅田ターミナル附近における初来訪者の行動

梅田ターミナル・エリアを中心とする27の起終点について調査を実施した(**図－5**参照)。結果の概要を示せばつぎのとおりである。

27例中２例は最終目標に到達できなかった。道に迷ってどうにもならなくなり、調査員の判断で調査を打ち切ったものである。そのうちの１例の行動(トリップ)の軌跡を**図－7**に示す。残る25例は、一応、行動を完了したが、その最短歩行距離の平均値７２２ｍに対して実歩行距離は平均して４３２ｍの超過、すなわち歩行率（平均）で１７７％に達した。**(図－10、表－3)**

内訳についてみると、歩行率１１０％以下で比較的順調に行動(トリップ)を完了したものは６例（約２割）、逆に歩行率が２００％を上廻り、相当道に迷ったと判断されるもの９例（約３割）であった。目標に到達できなかった１例を加えると約４割が道に迷ってさまよい歩いたことになる。つまり、梅田は初来訪者(ニュービジター)にとって決して安心できる空間ではなかったことになる。行動軌跡の数例を示してあるので参照願いたい。**(図－7、8、9)**

比較的順調に行動した例について、歩行経路の特徴をぬき出してみると、

・起終点が同一レベルにあり、経路も同一レベルで成り立っているもの
・起点が地下から出発し、地上拠点に向かう場合
・ターナミル・エリアの外周から中心部へ向かって求心的に行動する場合
・歩行経路が幹線道路に沿って完結する場合
・知名度が高くて比較的中心部に近い目標の場合
・有効な情報が通行人から得られた場合

などであった。

他方、これらの条件と逆条件の場合には道に迷いやすいことも事実である。

初来訪者(ニュービジター)の歩行特性をみると、

・地上面の経路に執着する。
・幹線街路に沿って歩き勝ちで枝道には入らない。
・空間の開いた方向に行く。
・施設の正面の方向に行く。

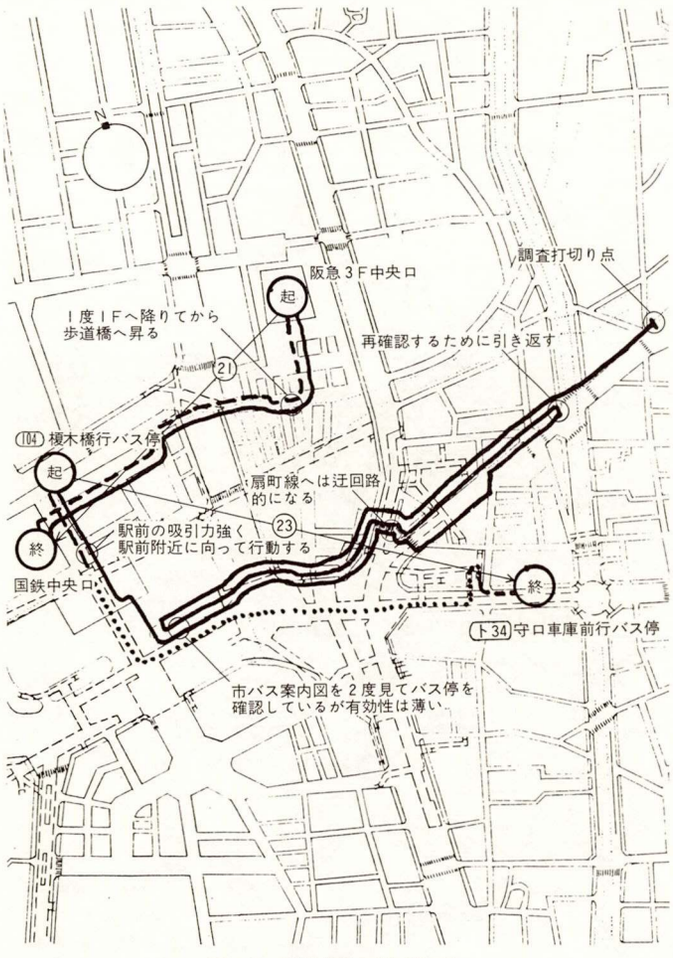
などであった。

とくに問題があると思われる場所(まよいやすい、わかりにくい)としては、

・阪急阪神前から東側の御堂筋終点一帯のエリア
・阪急駅の立体的構成
・地下街全体

があげられる。また、バスとバスの乗り替え、とくに分散して配置されたバス・ストップ相互の往来は非常に困難とみられる。一般に有効な視覚情報や案内人が不足しており、通行人に頼らざるを得ないが、聞かれた方も道筋が複雑で地名などが的確につけられていないので説明に困って不充分な情報しか提供できないというのが実情であった。

なお、特別な事例として曽根崎警察前から阪神百貨店方面への道順を警官に聞いたあと地下への出入口が探しきれず、御堂筋を一気に走り渡る（歩行禁止区域）という事例があった。このことは、現在のターミナル・エリアの空間が、ナイーブな行動の要求を極端にゆがめて成り立っていること、基本的なレベルの問題解決能力を超えた解答を人間におしつけている傾向があることを示唆しているのではないだろうか。



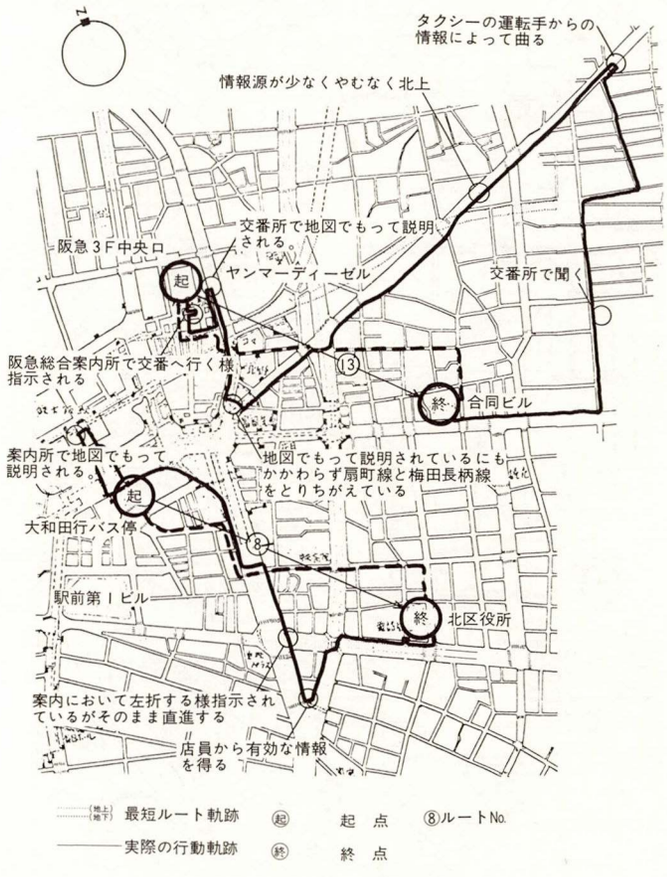
図－7　行動軌跡の例（梅田）



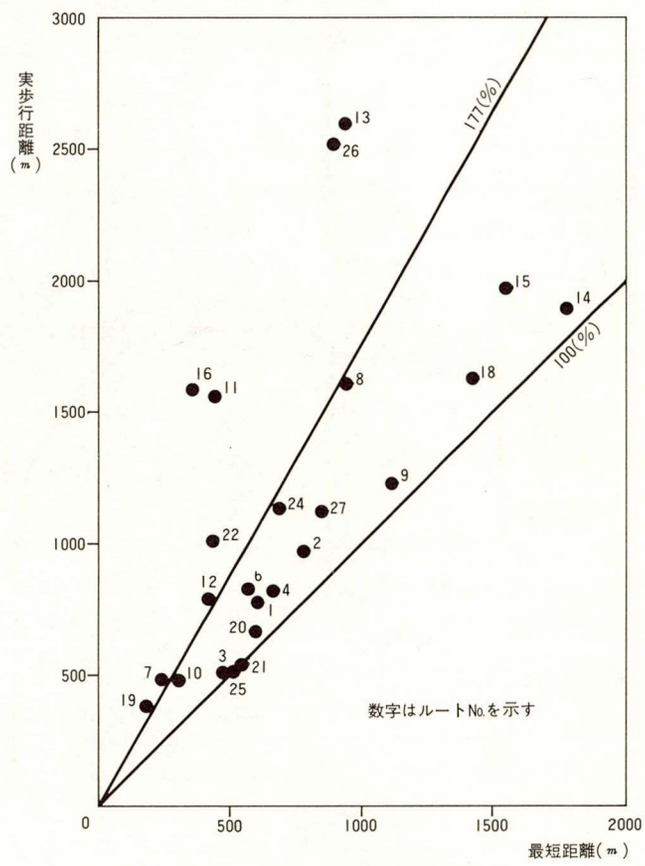
図－8　行動軌跡の例（梅田）

表3　ルート別距離および情報源（梅田）

	ルートNo.	25	21	9	3	14	20	18	2	4	15	1	27	6	10	24	8	12	7	19	22	13	26	11	16	5	17	23	計・平均
距離	実歩行距離(m)	525	535	1230	505	1900	660	1630	955	810	1980	780	1140	825	486	1140	1620	795	485	380	1050	2600	2500	1560	1590	—	—	—	1154
	最短距離(m)	525	535	1170	480	1780	600	1410	780	660	1554	600	850	570	300	690	930	420	240	185	435	940	885	420	360	(870)	(1300)	(705)	722
	歩行率(%)	100	100	105	105	107	110	116	122	123	127	130	134	144	162	165	174	189	202	205	241	277	285	371	442	—	—	—	177
情報	駅員						1(1)	1(1)												1(1)		3(2)		1			1(1)		8(6)
	店員																1(1)	1	1(1)	1(1)		1	1						6(3)
	警察官					2(2)				1(1)												2(2)							5(5)
	通行人		1(1)			1(1)		1(1)	1(1)			1			2(2)	2(1)	5(2)				1		5(3)	2(2)	6(1)		3(2)	1	32(7)
	住民風																						1						1(0)
	案内所									1(1)							1(1)		1(1)	1(1)		1	1(1)	1(1)					7(6)
	その他(人)								1(1)													1						1	3(1)
	案内図											3(3)		1(1)		1					2(2)				1			2	10(6)
	方向案内	1(1)		1(1)									2(2)	1(1)				2(2)									1(1)		8(8)
	その他(物)																		1(1)			1(1)		1(1)					3(3)
	情報数(回)	1	1	1	—	3	1	2	2	2	—	4	2	2	2	3	7	3	3	3	3	9	8	5	7	—	5	4	83
	有効情報数(回)	1	1	1	—	3	1	2	2	2	—	3	2	2	2	1	4	2	3	3	2	5	4	4	1	—	4	0	55
	誤報(回)	0	0	0	—	0	0	0	0	0	—	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3	—	0	2	7
	有効情報数/情報数(%)	100	100	100	—	100	100	100	100	100	—	75	100	100	100	33	57	67	100	100	67	56	50	80	14	—	80	0	66
	人からの情報(回)	0	1	0	—	3	1	2	2	2	—	1	0	0	2	2	7	1	2	3	1	8	8	4	6	—	4	2	62
	物からの情報(回)	1	0	1	—	0	0	0	0	0	—	3	2	2	0	1	0	2	1	0	2	1	0	1	1	—	1	2	21
	実歩行距離(m)/情報数+(1)	263	268	615	—	475	330	543	318	168	—	156	380	275	162	285	203	199	121	103	263	260	280	260	199	—	—	—	278
	実歩行距離(m)/有効情報数+(1)	263	268	615	—	475	330	543	318	168	—	195	380	275	162	570	324	265	121	103	350	433	504	312	795	—	—	—	353



図－9　行動軌跡の例（梅田）



図－10　歩行距離と最短距離の相関（梅田）

国鉄京都駅附近における初来訪者の行動

ここでは28の起終点について調査したが、全部目標に到達することができた。(図－６)

この場合の最短歩行距離平均882ｍ（梅田：722ｍ）に対して実歩行距離は平均289ｍ（梅田：432ｍ）の超過で、歩行率平均は 132%となり、梅田よりも45%下廻った。行動は概して順調であったと言えよう。**(図－11、12、13、14、表－４)**

内訳についてみると28例中８例が歩行率100%でほとんど迷わずスムーズに目標に到達している。また、歩行率が200%を上廻るものは２例にすぎなかった。

以上からみて明らかなように、京都駅周辺の空間状況は、梅田よりもわかりやすいと言えるであろう。このわかりやすさの要因は、下記のようなものとみられる。

・地下通路がなく、すべて地上面歩行である。
・駅広（北側）の見通しが比較的良く、方向が見定めやすい。
・街路が格子状でわかりやすい。

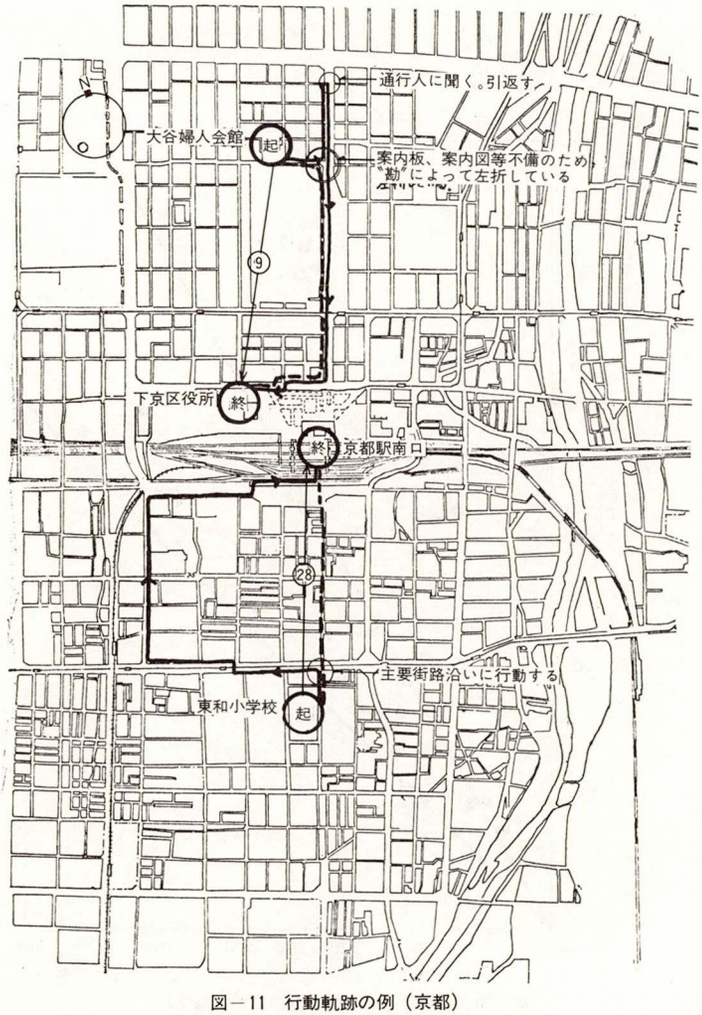
また、梅田と違って市電や市バスの乗り替えに迷わず混乱が少なかったが、これは乗場が一箇所に集まっている上、駅広との関係で見やすい位置にあることによるものと言えるであろう。

被験者の行動傾向は梅田の場合とよく一致しており、

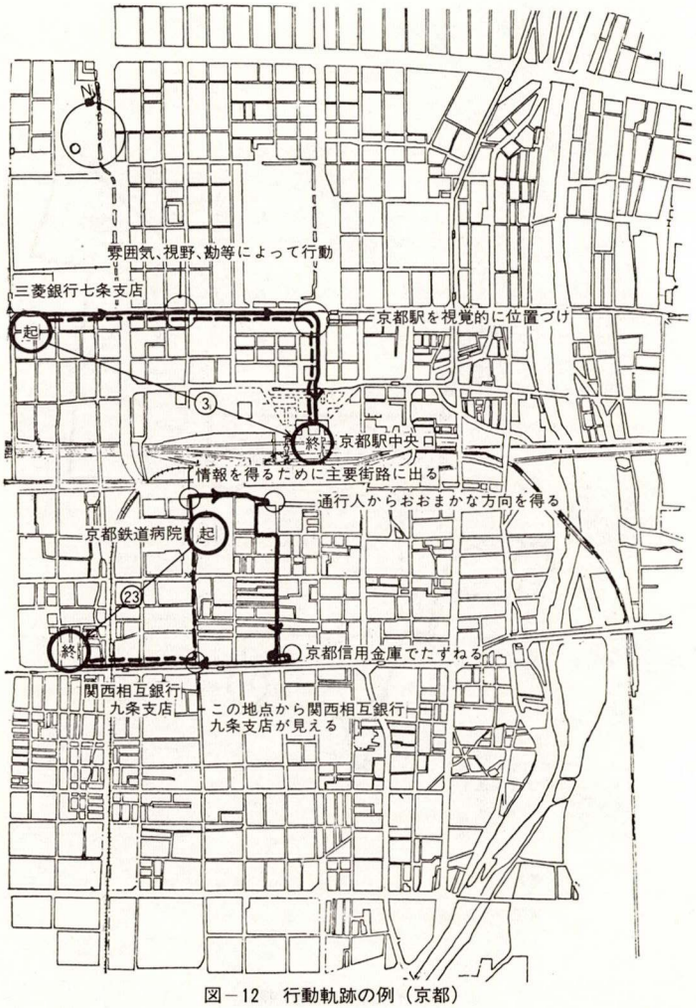
・幹線街路沿いに歩く。
・開いた空間にひかれる。
・駅正面の行動は順調だが、背面（南側）では迷いやすい。
・求心的な行動は成功しやすい。
・情報取得は通行人に頼る。

などが認められる。

一般に格子状街路では大きな方向さえ間違っていなければ前の分岐での誤謬は、つぎの分岐で修正可能となる点が有利で、道案内の理解も容易である。京都では通りの名称が確立されていることも通行人からの情報取得上有利である。



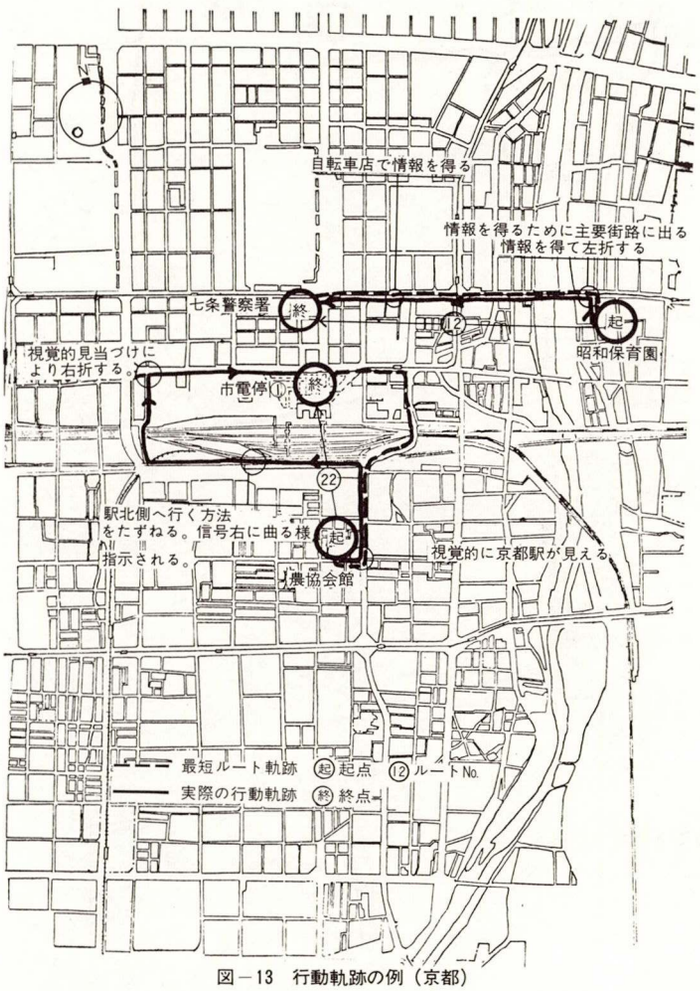
図－11　行動軌跡の例（京都）



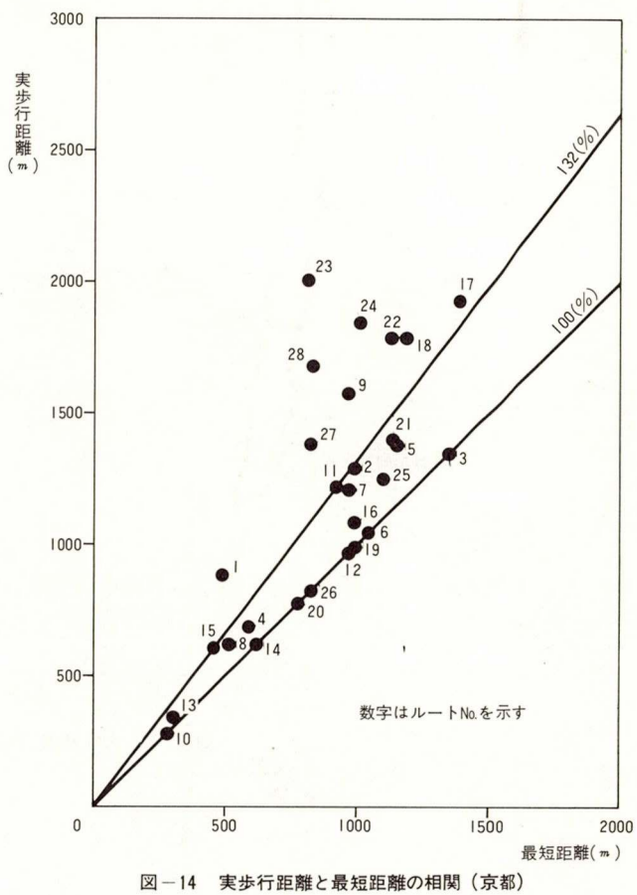
図－12　行動軌跡の例（京都）

表－4 ルート別距離および情報源（京都）

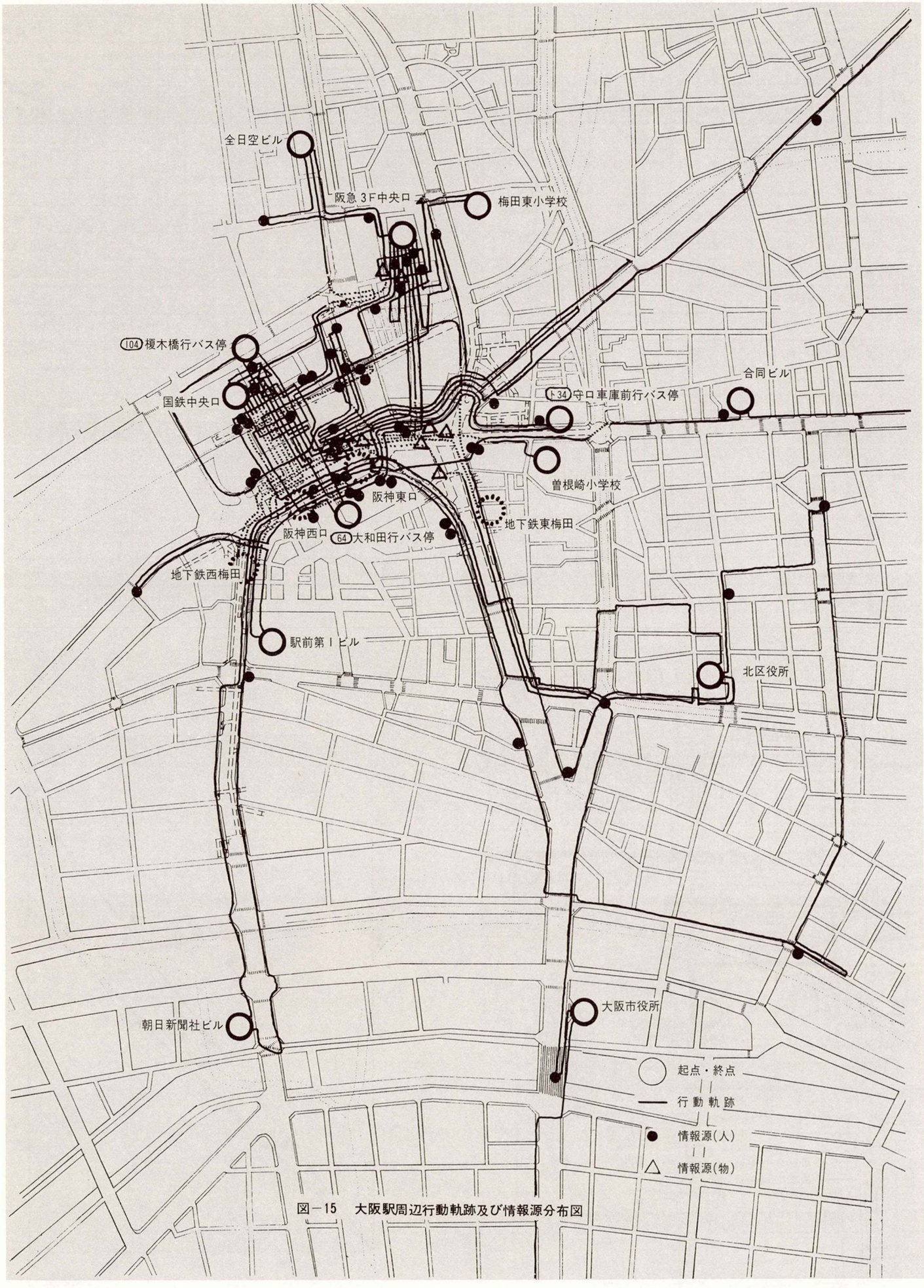
	ルートNo.	10	14	20	26	12	19	6	3	16	13	25	4	5	8	21	7	2	11	15	17	18	27	22	9	24	1	28	23	計・平均
距離	実歩行距離(m)	238	610	778	820	973	998	1048	1348	1083	340	1255	688	1373	618	1395	1213	1290	1215	598	1933	1788	1375	1795	1580	1845	868	1675	2000	1171
	最短距離(m)	238	610	778	820	973	998	1048	1348	993	303	1090	593	1153	510	1143	960	990	918	453	1393	1178	863	1123	963	1063	495	833	805	882
	歩行率(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	109	112	115	116	119	121	122	126	130	132	132	139	152	159	160	164	174	175	201	248	132
情報	駅員																							1(1)						1(1)
	店員			2(1)	1(1)	2(2)							2	1(1)		2	1	1	3(2)		3(3)					3(2)			3(2)	25(17)
	タバコ屋			1(1)									1(1)			2(1)					2(1)									6(4)
	通行人													1(1)				5(1)		1(1)	1	2	1(1)				1(1)		1(1)	13(6)
	住民風			2(1)	1(1)												1(1)						1(1)		1				1(1)	7(5)
	案内所		1(1)																1(1)											2(2)
	その他(人)												1(1)	1	1(1)	1(1)			1(1)	2	1(1)				1(1)					9(6)
	案内図			1																							1			2(0)
	方向案内																	1(1)									1(1)			2(2)
	その他(物)																					1(1)	1(1)							2(2)
	情報数(回)	—	1	6	2	2	—	—	—	—	—	—	4	3	1	5	2	9	4	3	7	3	3	1	2	3	3	—	5	69
	有効情報数(回)	—	1	3	2	2	—	—	—	—	—	—	2	2	1	2	2	4	4	1	5	1	3	1	1	2	2	—	4	45
	誤報(回)	—	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	—	0	5
	有効情報数/情報数(%)	—	100	50	100	100	—	—	—	—	—	—	50	67	100	40	100	44	100	33	71	33	100	100	50	67	67	—	80	65
	人からの情報(回)	—	1	5	2	2	—	—	—	—	—	—	4	3	1	5	2	8	4	3	7	2	2	1	2	3	1	—	5	63
	物からの情報(回)	—	0	1	0	0	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	2	—	0	6
	実歩行距離/情報数+(1) (m)	—	305	111	273	326	—	—	—	—	—	—	138	343	309	233	404	129	243	150	242	447	344	898	527	461	217	—	333	322
	実歩行距離/有効情報数+(1) (m)	—	305	195	273	326	—	—	—	—	—	—	229	458	309	465	404	258	243	299	322	894	344	898	790	615	289	—	400	416



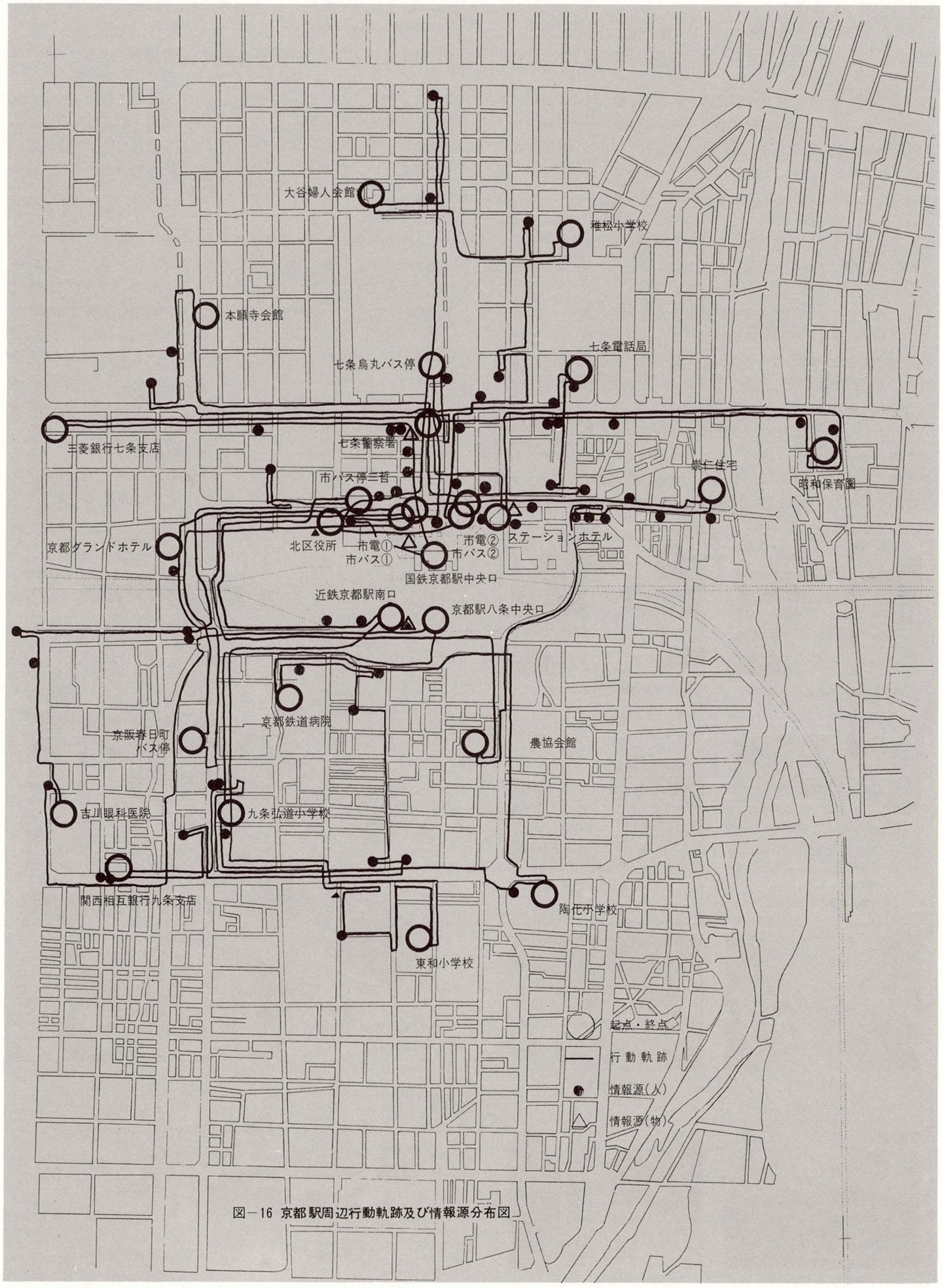
図－13 行動軌跡の例（京都）



図－14 実歩行距離と最短距離の相関（京都）



図－15　大阪駅周辺行動軌跡及び情報源分布図



図－16 京都駅周辺行動軌跡及び情報源分布図

わかりやすさの条件

初来訪者の行動（トリップ）の総合軌跡を図－15と図－16とに示している。これらの図をみれば、人のもっとも通りやすい道筋はどこか一目瞭然で見分けられる。

いずれの場合も、徹底して幹線街路の歩道に沿って歩かれている。施設内では、主要な太い回廊に沿って流れている。とくに梅田では、歩道を通った歩行者が、各区画の丸い先端をぐるりと一周して歩いており、それが結果的に方向を狂わせたり、道筋を遠まわりにしたりしている。各区画から区画への横断が困難であるためにこの迂回は助長され、歩行者は一度とりついた島からとなりの島へなかなか渡ることができない状態が明瞭に読みとれる。ここでは、立体化による歩車分離によって一見役に立たなくなったかにみえる島の先端が、素朴な歩行行動にとって充分に意味をもっていることが読みとれる。地上の歩行空間整備の重要性をあらためて認識すべきであろう。また、「わかりやすさ」の条件として、施設の外周に沿って良い見通しと簡明な動線を用意すること、駅などの施設内では構内を貫通して開いた戸外空間に直結する豊かな公共歩廊を整備すべきことが示唆される。

このような地上空間の骨組みが確立されてはじめて、デッキレベルや地下通路の活用の道も開けると考えるべきである。動線が幹線街路の歩道に沿って流れていることから、各種の案内や情報を幹線街路沿いに適正な間隔、適正な場所で設置して、区画内の細街路への誘導を行うべきであろう。なお梅田地区では被験者の平均情報要求距離は約280mであった。



梅田ターミナル附近　幹線道路



国鉄京都駅附近　幹線道路



梅田ターミナル附近
横断歩道のない交差点



見通しのよい国鉄京都駅正面　駅前広場



梅田地下街



国鉄京都駅背面



梅田ターミナル附近
阪急前の立体構成

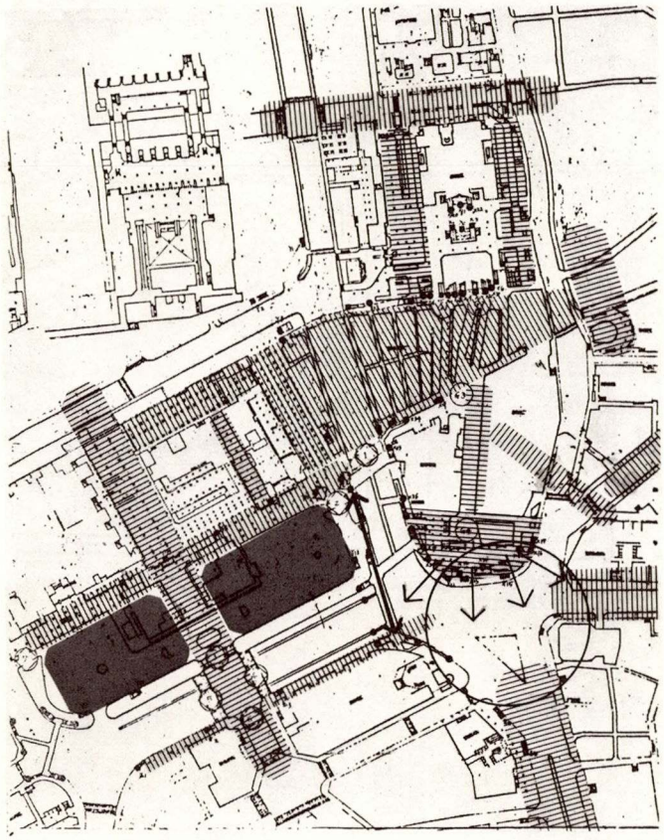


国鉄京都駅南側　細街路

❸梅田ターミナルの将来へ向けての提案

梅田ターミナルは、あるきやすい、わかりやすい人間環境として早急に整備しなおすことが必要である。そのために相当な年月をかけて抜本的な大改造を行うことは、長期の課題としてもちろん必要であるが、その間ながい年月を今のままで推移していくことがあってはならない。都市は今使われているのであって、その今の不具合に早急に応じることが人間尊重の基本条件であると言えるであろう。つまり、明日からでもとりかかれることについてどんどん実行していくための修復（リハビリテーション）的な計画が要求される。修復を計画的にすすめて、当面の対策が、長期の方向づけに矛盾したり、手もどりにならないことも大切である。これまでのターミナル対策は、この点で明確な方向づけにもとづいて進められたかどうか。環境を診断した結果からみてうまくいっていないのは事実であろう。

以下に行う提案は、そうした現状に対して実行がのぞまれるプランとして考えたものである。そこで、ジャンクションの空間改善については、わかりやすさの条件から、広々とした見通しのよい歩廊によって公共空間ほんらいの機能をまず回復することを重点とした。総合的な修復（リハビリテーション）の計画は、まず、障害を除去し、機能的必要の充足度を高め、最終的には、豊かで心地よい空間にもっていく手順で、緊急度の高いものから手をつけていくというプログラムとした。



●上り階段（Xは阪急ゾーン、Yは国鉄ゾーン、Zは阪神ゾーン）
■下り階段（　〃　、　〃　、　〃　）

交差点（円内数字は交差点ナンバー）　横断歩道（円内数字は横断歩道ナンバー）

公共歩廊として整備、明快な動線を形成
駅前広場として整備
地下通路をわかりやすく改善
明快な動線を確立
良い見通しを与える

図－17　梅田ターミナルにおける空間条件改善の方向

かみの　けいじん　大阪大学工学部助教授
ちばな　こうきち　近畿大学理工学部助手
はるい　ひでお　R＆A総合計画研究所

●梅田ターミナルのリハビリテーションに関する提案（周辺市街地）

タイム・スパン		第1段階（現在～3年後）	第2段階（3年～5年後）	第3段階（10年後に完成）
基本方針		**現状における障害の除去**	**機能的必要の充足**	**都市の歩行環境アメニティ、イメージアビリティの向上**
歩きやすく	○歩車分離	・路上駐車(とくに駐車違反)の排除 ・細街路等における歩行路の確保 （ガードレール、さくなど） ・時間帯別自動車交通規制の導入	・細街路を含む歩道の連続性確保 ・ノーカーゾーンの一部実現	・ノーカーゾーンの拡大 ・サービス車のカルデサックシステム
	○ランドマーク・シンボルの形成	・幹線街路の植栽拡充	・街路・交差点・歩道橋に、それぞれ特徴を附与（路面の材質・色彩・パターン、並木、グリーンetc）	・良い都市景観の誘導、形成
わかりやすく	○サインシステムの構成 ○案内人の適正配置	・街路・交差点等のネーミングおよびその明示 ・既存案内施設の整備増強、地図案内図等の整備	・案内システムの確立 案内人、案内板・案内施設の適正配置とそのネットワーク形成(レストスポットと結合)	
	○歩行路システムの単純化	・歩行路面の段差解消 ・主要交差点にスクランブル導入 ・信号システムの改善	・レベル変化に機械力導入(特に弱者のため) ・レベル間相互関係の明確化 ・歩行自由領域の形成	・歩行自由領域の拡大 ・循環遊歩道等の形成
ひろがりとゆとりを	○歩行路の量・質拡充	・路面補修 ・狭あいな部分の改修、信号待ちスペースの確保 ・障害物の除去(看板、テント、ゴミバコ、物品)	・歩道の拡巾、連続したコロネードの形成 ・歩道橋、階段取付部等の改修 ・障害物の除去(電柱の移設・除去など)	・歩行者空間の全面的拡大、流動ネットワークの形成（建物内外を含めた）
	○オープンスペースの形成	・未利用空閑地の活用、建築公共空間のオープン化 ・ノーカーゾーンの設定(細街路)	・拠点的オープンスペース・広場の形成 ・大規模建物、足まわりのオープン化	・オープンスペースネットワークの形成
	○レストスポットの確保	・ベンチ・イスなどを多量に設置	・レストスポットの設置 （休憩スペース、化粧室、室内施設、電話など）	・レストスポットのネット形成
施設・装備類を良く、適正な密度で	○配置の適正化 ○使い良さの向上 ○デザインの向上		各種施設・装備全般について設置の密度、設置場所、施設内容等改善の必要性がある。 特にバスストップの施設強化、 既存アーケードの改修 ゴミ箱・スイガラ入れの改良、等である。	
	○メンテナンス体制の拡充	・メンテナンスの強化 建物外壁、塀、ポスター、ゴミ箱、ベンチ等塵芥集収、散水、樹木・グリーンの手入れ等	・メンテナンス体制の確立	

●梅田ターミナルのリハビリテーションに関する提案（ジャンクション・スペース）

種別 ＼ 問題点別 ＼ タイムスパン		第1段階（現在～3年後）	第2段階（3年～5年）	第3段階（10年後に完成）
地下街レベル	1.現在点の確認 2.方向性の確認 3.目的地への最短ルート 4.交差点のシンボル化 5.階段のシンボル化 6.ネックの解消	・防災設備の充実 ・階段、交差点に名称をつける。 ・〃　に方位をつける。 ・ラッチ、主要建物への経路を示す。 ・インフォーメーション・センターの設置 ・名称と方向性をもたせる。（または色別） 〃　（または色別） ・ネック地点を分かりやすくする。	・地下街および取付きビルの店舗の制限、改善による安全性向上 ・群衆流のよどみ、滞留等の計画化による広巾員、わかりやすい通路の建設 ・一部コア昇降部の完成及び吹抜け等の設置	・防災性向上のため地下街の構造的改善（EX．吹抜け、広くゆるい階段等）。 ・地下ー地上ーデッキレベル等の位置確認の出来る一体的な構造
グランド・レベル	1.歩行面積の拡大 2.歩行路の確立 3.主要地点のシンボル化 4.階段のシンボル化 5.車との関係	・乗りかえ抵抗を少なくするために、地上部にわかりやすい広い歩行路をとる。 ・歩行者が位置確認のしやすい場をつくる。 ・名称と方向性をもたせる。（または色別） ・このエリア内に休憩所、案内板、シンボル空間の形成。 ・モビリティ密度の高い所では最小必要限の車だけにする。（朝夕のピーク時地上開放の提案）	・大阪駅東口広場を一部歩行者に開放し、国鉄→阪神を直接つなげるようにする。 ・歩道の拡大、確定および位置確認できる広場の形成 ・大規模なスクランブルを形成する	・デッキと一体となった大規模な地上面での駅前広場形成 ・歩道ー広場ーシンボルの体系的形成
デッキレベル	1.昇降部分の改善 2.雨・風の対策 3.コア施設の提案	・主要地点でのエスカレーター設置 ・テントシステムの提案。（いらないときは簡単にとれる）	・一部コアの完成 ・地上レベル、地下レベル統一地点の昇降施設で、電話、ロッカー、休憩所、案内板があるコアユニットの計画	・コアの完成(昇降の問題解決)
備考		国鉄東口広場一部歩行者に開放 乗降点の移動(動線の整理)	国鉄東口広場一部歩行者に開放 国鉄西口広場に人工デッキ 駅前線等の車道縮小 新交通システムの導入準備	デッキ、地上、地下の歩行路確立

通勤者の〝ターミナルかいわい〟における日常的領域

――京阪神主要ターミナルでの調査――

片倉健雄/稲垣雅彦/塩崎賢明

三宮（神戸）

Ⓐ男（既～40才）国鉄三宮駅　Ⓑ男（既～35才）国鉄三宮駅　Ⓒ男（既～65才）阪急三宮駅
男（単～25才）阪急三宮駅　男（単～30才）国鉄三宮駅　男（単～25才）阪神三宮駅
女（単～20才）国鉄三宮駅　女（単～35才）阪急三宮駅　女（単～30才）国鉄元町駅



全員が知っている領域：約1,000m×750～1,200mと範囲が広く、その外縁は知名度の高い施設によって区切られている（生田神社・神戸新聞会館・貿易センタービル・東遊園地・オリエンタルホテル・大丸等）。これは、amusement area 全体の面的な拡がりが小さく、かつ、この中に歴史をもつ施設がいくつか含まれている為に、かえって認知領域が大きくなっていると考えられる。

利用が集中している経路：三宮センター街←―トーアロード―→元町通1・2丁目　とつながるリニアーなゾーンひとつに集中し、その中間部でやや幅をもっている。延長は1.0kmを越えるが、十分日常的行動領域に組込まれている。

利用者が集中している施設：そごう・大丸の2百貨店と国際会館（ホテル＋Audi＋店舗）に加えて、三宮センター街東寄りで向き合っているさんプラザ・星電社が強いポイントになっている。サンチカタウンはこれらに比べて、通勤者にとってはやや弱い存在のようである。

調査対象による差異：三宮の場合、調査対象の勤務先がやや近接していることもあって、その行動圏域の相異はあまり明瞭でない。また個人属性の差異も認め難いが、国鉄高架以北の飲食店中心地区は、駅近傍を除いて男の夜の街であることを示している。



（神戸市の承認をえて「神戸市地形図1／3000」を使用複製）

通勤経路となっているターミナルで、通勤者の日常的な amusement area がどのような形で拡がっているかは、興味のあるところである。そこで、試みとしてmap を使って若干のサラリーマンを対象にした調査を行った。ここでは、勤務後の行動の中で日常的なものを地図の上に示してもらった。わずかな事例ではあるがある程度共通した傾向が現れており、私共の事前の予測に近いものとやや意外な結果とがある。

調査では、京阪神3都市の代表的なターミナルである神戸の三宮、大阪のキタとミナミ、京都の河原町の計4か所をとりあげた。対象 area は、ターミナル周辺の amusement 施設が集積しているとみられる部分をほぼ含んで、かつ同じ大きさになるように、約 1.1㎞×1.5㎞にそろえた。

調査対象は、この範囲にある勤務先3か所を任意に選び(建築関係・一般・官公庁各1を原則とした)、各々について、既婚男子・単身男子・単身女子各1名ずつを選んだ（一部都合により異るものがある）。

調査用紙は、1/3,000又は1/2,500の地図に知名度が高いと思われる街路や店舗の名称等を記入したもので、これに、次のような表示を求めた。

Ⅰ）日常の主な通勤経路

Ⅱ）帰宅時の立寄り経路と主な施設（行動領域）

Ⅲ）殆ど知らないか、行ったことのない範囲（非認知領域）

調査結果を各ターミナル毎に取りまとめたものは以下の通りである。図中の白抜きの部分は半数以上の人が知っている area，濃い塗りつぶしと線は半数以上が立寄る施設と経路（この場合「よく利用する」ものを1.0,「たまに利用するか知っている」ものを0.5の比重で合計した）、淡い塗りつぶしと線は半数未満が立寄る施設と経路を示してある。小さい方の図では勤務先の位置による行動領域のズレを簡略化して表した。

各ターミナルの共通傾向

通勤時の経路 ： 一般に最短距離の経路を選択すると考えられてい

キタ（大阪）

全員が知っている領域 ： 国鉄大阪駅前および阪急百貨店を中心として御堂筋の両側に拡がっているが、その範囲は狭くそのひろがりは約400ｍ×750ｍである。

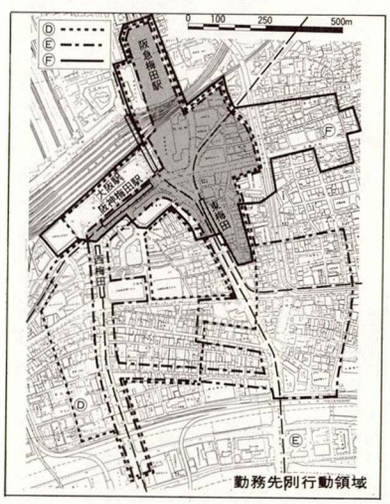
利用が集中している経路 ：
梅田地下街の一部←→堂島地下街
お初天神←→曽根崎小(曽根崎センター街)

利用が集中している施設 ： 阪急三番街、阪急百貨店、阪急ファイブ、阪神百貨店、大阪駅前第一ビル、旭屋書店本店。

調査対象による差異 ： 事業所への通勤方法は、出勤時は出来るだけ所要時間が少くなるよう地下鉄等に乗り替てでも通勤しているが、退社時には通勤順路に影響のない方向へと自己の領域を展開させている。事業所と梅田ターミナルを核とした2眼レフの形をとり、各調査群とも認識度の高い施設群を梅田地区に共有する形となり、事業所の後背部分への展開はみられず事業所毎の差異は顕著である。

日常的領域の特徴と考察 ： 梅田地区と事業所を結ぶ放射線上に展開し横方向へのふくらみは弱い。これは梅田地区の市街地形成の歴史と重要なかかわりがあるものと思われる。また、全員の認識外空間が大阪駅前の一部および駅裏にみられるが、駅前は再開発予定地であり、施設更新が遅れ空白となったものと思われ、市街地再開発がまたれる。

また、事業所の後背にもそれぞれ鉄道駅が存在するが、これらの駅へ向って領域の展開がほとんどみられないのは施設集積度が弱く魅力度不足のみならず、梅田地区の京阪神圏における位置関係、鉄道運行状態も影響しているものと思われる。

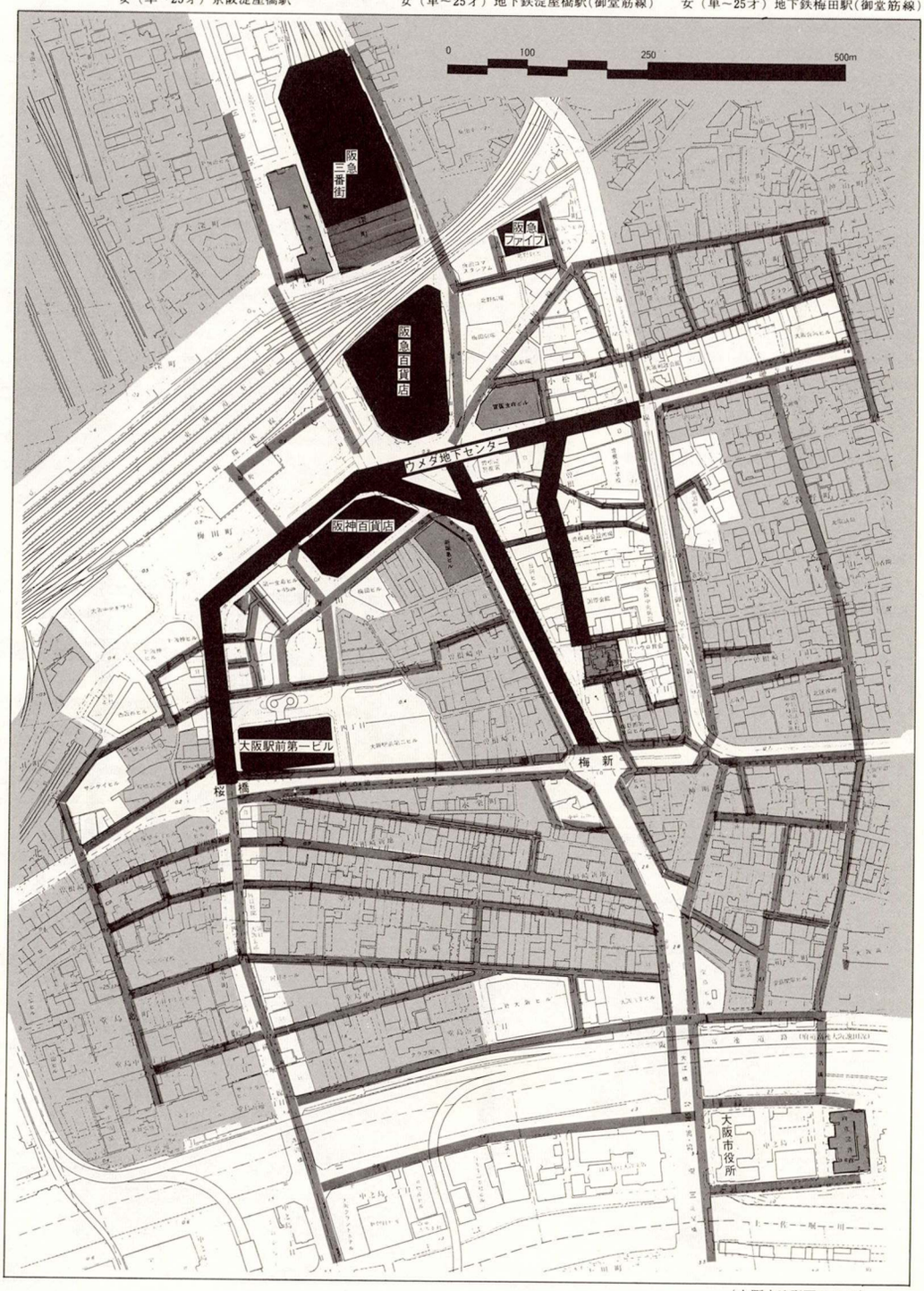


勤務先別行動領域

Ⓓ男（既～40才）国鉄大阪駅
男（単～30才）地下鉄西梅田駅(四ツ橋線)
女（単～25才）京阪淀屋橋駅

Ⓔ男（既～45才）地下鉄淀屋橋駅(御堂筋線)
男（単～30才）地下鉄淀屋橋駅(御堂筋線)
女（単～25才）地下鉄淀屋橋駅(御堂筋線)

Ⓕ男（既～35才）地下鉄梅田駅(御堂筋線)
男（単～30才）地下鉄東梅田駅(谷町線)
女（単～25才）地下鉄梅田駅(御堂筋線)



（大阪市地形図による）

るが、この調査では、単純な最短距離ではなく、物理的・心理的に抵抗が少い経路をとっている事がうかがえる。この事は、同じ地点から同じ勤務先に到達しようとする場合でも、個人的な経路選択の差が生ずる事にも通じるが、各ターミナルに共通してみられた傾向には次のようなものがある。

○地下街・横断陸橋をさけ、地上横断の可能な経路を見つけ出している。（キタに特徴的な迂回例）

○歩行者・車の多い経路をさける。(出勤時にいくつかの事例がみうけられる——河原町・三宮)

○いわゆる繁華街の人ごみをさける。特に帰宅時は通勤者以外が集中する道をさけて、往きとは別の経路をとるものがある。

認知領域 ： 各ターミナルについて、全員が知っている共通領域があり、これに勤務先の位置の方向に領域が付加されるのが一般的である。共通領域は、キタ・ミナミは狭く、三宮・河原町は広い。

行動領域 ： 個人属性による差が目立ち、まず既婚男子は個人差が大きくて、極端に狭い人と広い人がある。単身男子は一般に広く、特にのみ屋街・娯楽施設を求めて拡っている。また女子は個人差がかなりあるが、共通点としては、shopping とみられるものや特定施設利用が目立ち、距離は伸びているが面的な拡りに乏しい。

誘引力のあるポイント ： ターミナルによって異なるが、あえて共通性を求めてみると、ファッション性のある集積度の高い(大規模な)店舗と書店が目立っている。

鉄道隣接駅の影響 ： ターミナル中心駅に対して、隣接駅の距離が近く（1.0㎞程度）、列車回数・種類等に差が少いと、その方向へ行動経路が延伸しやすく、これは帰宅方向と関係がないようである。この傾向は、三宮——元町、難波——心斎橋、三条——四条、烏丸——河原町、という形で現れているが、梅田周辺と日本橋・難波間ではみられない。

この調査には、京都市・大阪市・神戸市の職員および主として建築に関係のある会社・事務所の方々に御協力を載いた。御希望もあって会社名等はすべて伏せてあるが、誌上を借りて厚く御礼申し上げます。

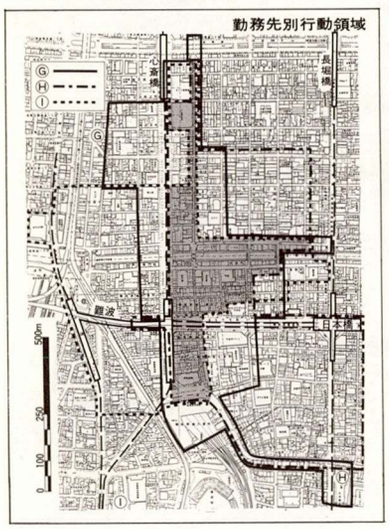
ミナミ（大阪）

全員が知っている領域 ： 範囲が狭く、虹の街をはさむ難波新地と宗右衛門町の約400m×500mに、心斎橋筋を軸としてそごうに至る約 650m のゾーンを加えたものに留っている。

利用が集中している経路 ： 高島屋←——戎橋筋——心斎橋筋——→大丸・そごうと、道頓堀（御堂筋——太左衛門橋間）の2軸、およびなんば花月前の短い範囲である。しかし半数未満の利用範囲は大きく拡り、格子状の主要街路と難波新地は網羅されている。

利用が集中している施設 ： 心斎橋のそごうと大丸のみが認められる。大きな amusement area では点的な施設の強度が弱められる傾向があるが、通勤者にとってそれが特に顕著なのかもしれない。高島屋は accessibility の弱さの為とみられるが、虹の街の比重の低さが意外であった。また、松竹座・中座あるいはニュージャパン等は利用者が目立つが、施設の性格上このような集計では強く表れていない。

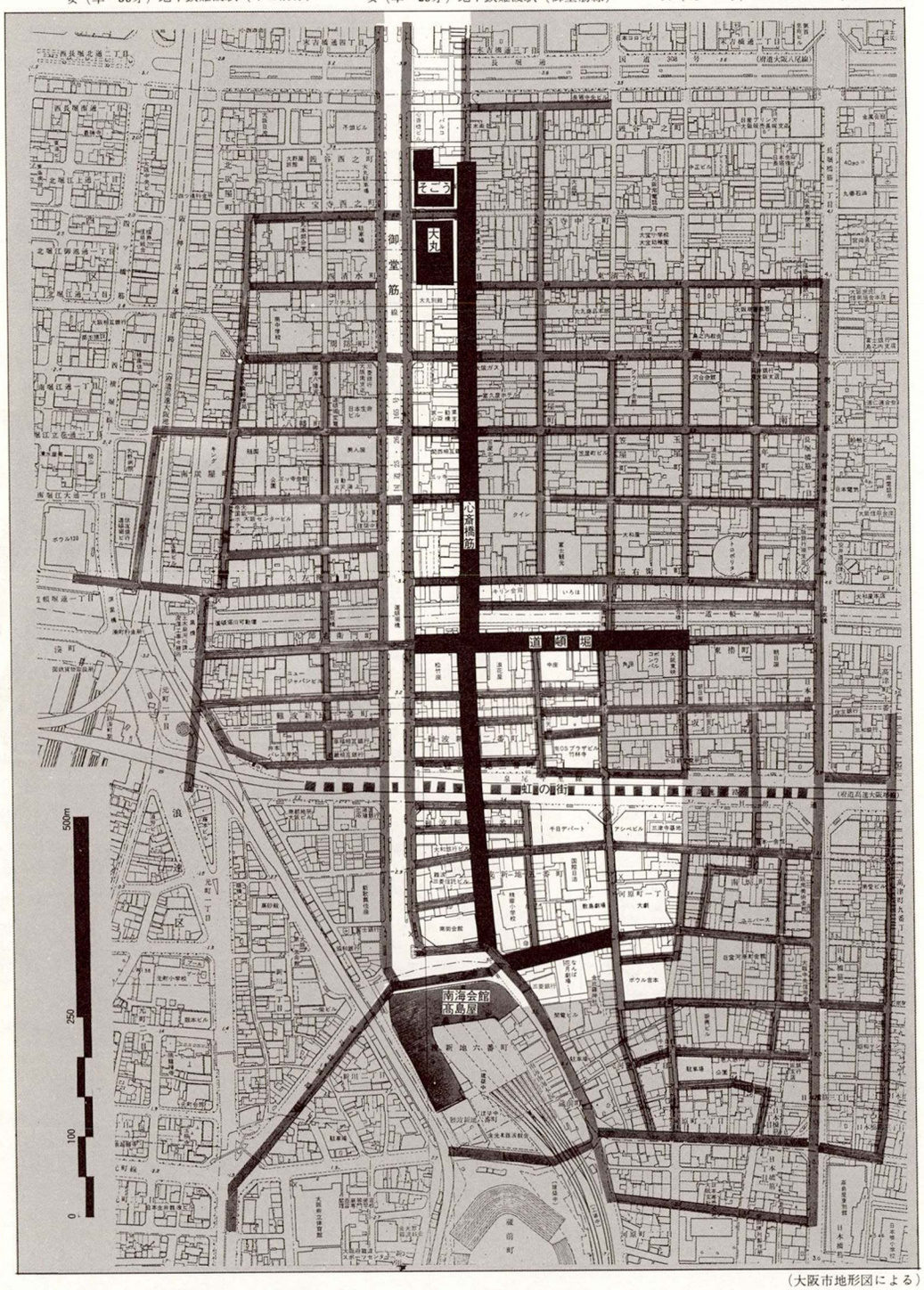
調査対象による差異 ： 勤務先の位置によって行動圏域が片寄る傾向が明かに現れている。しかし、半径 1.0㎞を越えても利用されるような強い誘引力をもつ部分がある。また、男子は飲食・娯楽が、女子は買物・娯楽が目立ちブラブラ歩きもみられる。ここでも、宗右衛門町以北ののみや街は男性だけの領域であることを示している。



Ⓖ 男（既～40才）近鉄難波駅
男（既～25才）地下鉄心斎橋～南海難波駅
女（単～35才）地下鉄難波駅（千日前線）

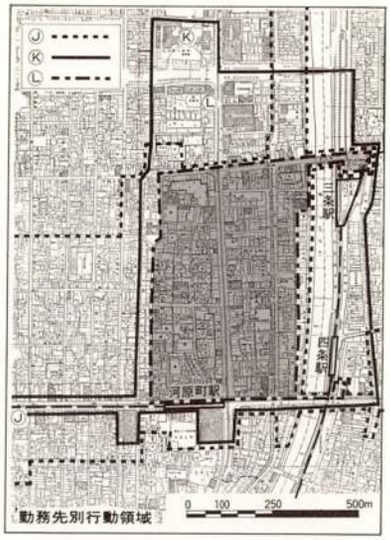
Ⓗ 男（既～45才）南海難波駅
男（単～25才）近鉄難波駅
女（単～25才）地下鉄難波駅（御堂筋線）

Ⓘ 男（既～45才）地下鉄難波駅（御堂筋線）
男（単～30才）地下鉄難波駅（四つ橋線）
女（既～45才）地下鉄難波駅（御堂筋線）



（大阪市地形図による）

（かたくら　たけお　近畿大学助教授）
（いながき　まさひこ　フジタ工業設計部）
（しおざき　よしみつ　京都大学大学院）



勤務先別行動領域

河原町（京都）

全員が知っている領域：〝河原町〟界隈とよばれる一帯の領域は定かでないが、今回のアンケート調査の結果から、回答者のほぼ全員が認知している範囲をみると、四条通りと三条通り、および寺町通りと先斗町に囲まれた、東西500m 南北700mの部分であった。交通の拠点はこの部分の縁辺部に、阪急河原町、京阪三条・四条駅、市電の河原町三条・四条停留所などがある。これらの交通施設と、回答者の行動範囲からみると、界隈は御池通、四条通りと寺町通り大和大路で囲まれた面的に広がる地域（東西650m 南北1000m）に四条通を中心とする線状部分がくっついて構成されているといえよう。

利用が集中している経路：この界隈で最もよく利用されているのは、むろん河原町通りと四条通りで、交通機関へのアプローチとしても必要不可欠の経路である。次いで、寺町、木屋町、新京極などが多く利用されている。京都の都心部は全体として格子状の街路パターンをなしているが、この界隈では南北方向に比較的幅員の大きい直進道路があるが、東西方向の街路は狭く、また、南北方向の道路によって寸断されている。従って、街路の利用もこれらの南北方向の道路を主軸とした形になっている。

利用が集中している施設：日頃、よく利用されている施設をとりだしてみると、書店・ファッションビル、飲食店が多い。とくに、書店は意外なほど利用されている。一方、百貨店は、日常的な利用は案外少い。

階層別による行動範囲：階層別にみると、単身男性が最もよく〝ぶらつい〟ており、行動範囲が広く、利用施設も多岐にわたっている。単身女子、既婚男子の〝ぶらつき〟は同程度であるが、単身女子の場合、利用施設が限定され、また、通勤年数の少ないほど行動範囲が狭いという傾向が顕著である。

Ⓙ男（既～40才）市電四条河原町　Ⓚ男（既～45才）市バス四条河原町　Ⓛ男（既～40才）京阪三条
男（単～30才）京阪四条　男（単～25才）阪急河原町　男（単～30才）阪急河原町
女（単～35才）市バス四条高倉　女（単～25才）市バス四条京阪　女（単～30才）京阪三条



（京都市地形図による）

北欧諸都市のターミナル建築

紙野桂人

この夏、ごく短期間であったが、北欧諸国を訪問する機会を得た。出発に先立ち、編集の諸兄と約束をしてしまったのが、北欧諸国のターミナルの現状を紹介するというこの話であった。急な旅程のあい間を縫って、目指す場所にとんでいって写真をとるといったありさまなので、結果はまことに不充分であるけれども、ともかく約束を果たす覚悟を決めた次第である。

都市の現状とターミナル建築

スカンジナビア諸国から西ドイツ連邦を中心に駆け脚で廻った印象から、各国の中心的な諸都市の現状を大づかみに言ってみる。

おおむねどの都市も起伏のゆるやかな、広大な森林や農地を背景にして数十万から百万程度の人口を集めている。おおかた市の中心部に中世以来の旧市街（ALTSTADT）を保有しており、その外側に新市街（NEUSTADT）の層がかなり厚く形造られている。さらに外側に、都市緑地や公園とモザイク状をなして散らばる近代的なSIEDLUNGと独立住宅街区の層をもった三重の構造になっている。市街地の外の広大な森林や農耕地は、特例を除いて全く市街化の影をみせないみごとな田園風景となっている。緑地帯を厚くもった高速道路がその間を縫ってのびているが、沿道の市街化は全くみられない。時にはこの外側の森林や湖水がそのまま市の中心部になだれこんでいる。その好例がヘルシンキであった。この都市では、市街を歩いていて針葉樹林独特の森のにおいがしてくる。

高速道路を経由して都市に近づくときの誘導は、どの都市でもまず〈CENTRUM〉の表示によって市の機能的な中心に導かれるが、それはおおかた記念的な市庁舎（RATHAUS）や教会（DOM）の広場をもつ旧市街とそのすぐ外側に位置する中央駅（HAUPTBAHNHOF）歩行者天国のショッピングストリートおよび緑道を含む一廓をなしていて人間的・生活的・歴史的な道具立てが市の中心として活力をもっていることが感じられる。人口数万の都市から百万におよぶ都市まで、この形を根強くもちこたえている。他面、第2次大戦における市街の破壊の程度が、それらの中心市街地の現在の姿にそれぞれの影響を与えていることは見逃せない。

現在の都市間交通は、空路・鉄道・高速道の3本立てであるが、都市近郊は市内の路面電車のネットワークと地下鉄でカバーしている。路面電車は比較的よく維持されているが、次第に自動車交通の犠牲になるきざしが見え、現在地下鉄化が各都市で盛んに進行中である。そのため中央駅前はほとんどの都市で改造工事または地下鉄工事の真最中であった。言い訳ではないが、良い駅前写真が撮れなかった最大の理由である。これらを通して、北欧諸都市もいまや市内の自動車対策が重大な問題になりつつあることは明らかである。しかし、歴史的建造物を大切にしていることと大規模な歩行者天国をつぎつぎ実現している点は、その積極さを見習うべきであろう。

中央駅を独語でBAHNHOFと言うが、この言葉はヨーロッパ諸国のターミナル建築の空間の特徴をまことに素直に言い表していると思う。すなわちそれは鉄道のための囲い庭であることに徹しているといえよう。その基本のゲシュタルトは、ヘルシンキ中央駅のスケッチで示したように、広大な駅広空間の中におかれた⊐の字型の囲いである。コンコースの空間は、一般にこの型を素直に反映して三方にアプローチをもつ明快な大広間となっている。利用者が道にまようことはまずない。駅舎が近代化された場合でも、この方式はよく守られている。たとえば、ミュンヘン中央駅のホールのように、コンコースの中から、外の市街地の空間が明瞭にみてとれるなど、好例といえるであろう。

これらのことを駅の性格の違い、ターミナルの複合建築化の進展の程度の違いとして切り捨ててしまうことは簡単であるが、ターミナル建築が都市空間の道具立てとして果たすべき本来の役割、基本的機能に立ちもどって考えるべき、いくつかの点を暗示しているのではないかと感じた次第である。

ヘルシンキ中央駅　スケッチ：著者



ケルン中央駅前　右側はケルン大寺の一部





❶



❻

ストックホルム中央駅(スウェーデン)
—CENTRAL STATIONEN—

ヘルシンキ中央駅(フィンランド)
—RAUTATIENTORI—ELIEL SAARINEN 1906～14



❷



❼



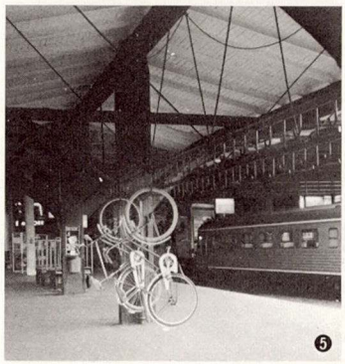
❸



❽



❹

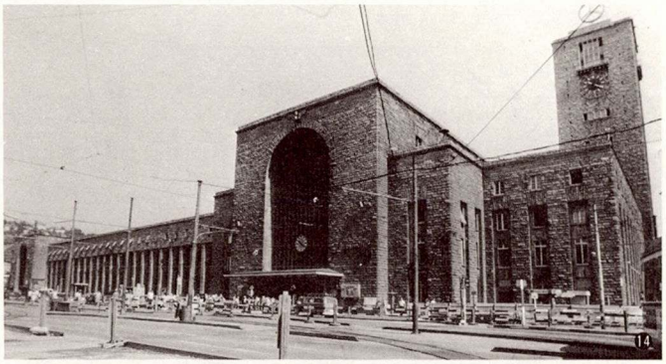


❺

❶ストックホルム駅　正面
❷ストックホルム駅　ホール
❸ストックホルム駅　コンコース
❹ストックホルム駅前
❺ストックホルム駅
プラットフォーム上の自転車保管装置
❻ヘルシンキ駅　正面
❼ヘルシンキ駅　ホール
❽ヘルシンキ駅　コンコース

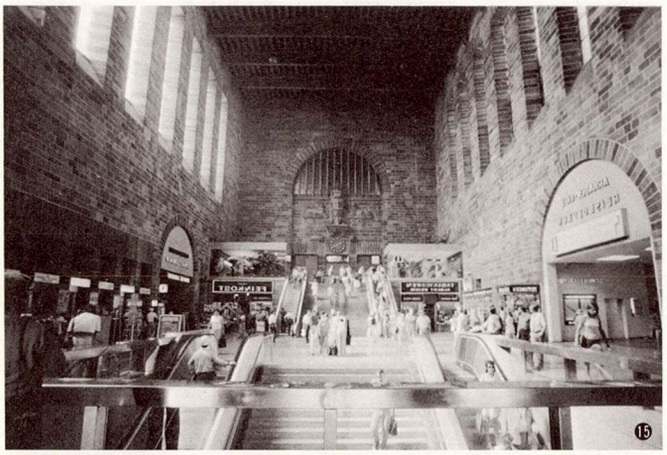


コペンハーゲン中央駅(デンマーク)
—HOVENBANEGARD—



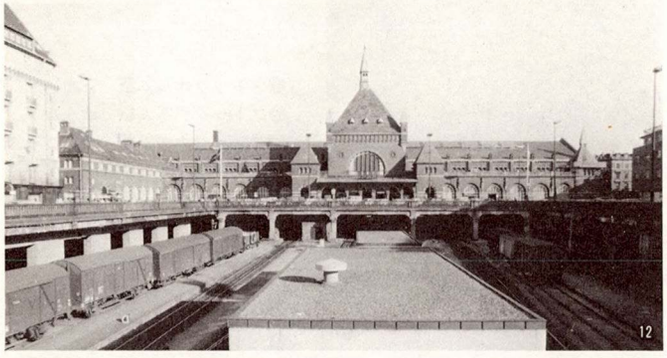
スツットガルト中央駅(西ドイツ)
—HAUPTBAHNHOF—BONATZ und SCHOLER 1911~27

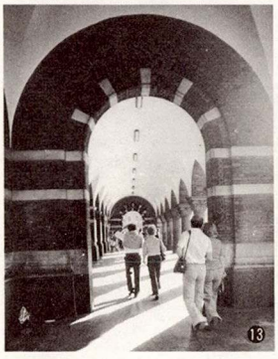












❾コペンハーゲン中央駅　正面
❿コペンハーゲン中央駅　コンコース
⓫コペンハーゲン中央駅
　ティボリ遊園側の出入口
⓬コペンハーゲン中央駅
　プラットホームを通してみる
⓭コペンハーゲン中央駅　前面のコロネード
⓮スツットガルト中央駅　正面
⓯スツットガルト中央駅　ホール
⓰スツットガルト中央駅　コンコース

構造の頁

15

鉄骨構造建築物の鋼材量と基礎のコスト（その2）

（柱負担面積と階数の影響について）

須賀　好富
八木　省三

前稿に続いて2種類の構造形式（①両方向ラーメン構造、②桁行方向ラーメンで張間方向はピン構造）により、柱負担面積や階数が単位床面積当たりの鋼材量と基礎部コスト（独立基礎と基礎ばりコストの和）に与える影響について明らかにしたものである。なお、小ばりは鋼材量が少ない方向（構造形式がRの場合は短辺方向、Sの場合はラーメン大ばり）にかける。

各材料の単価はつぎのように仮定する。コンクリート9000円／m³、型枠1500円／m²、鉄筋100千円／t、角形鋼管180千円／t、その他鋼材160千円／t（いずれも材工とも）。地耐力15t／m²（長期）として、独立基礎、基礎ばりのコストを求める。基礎および基礎ばりの詳細は**図1**のごとくする。すなわち、柱脚はR.C造柱に埋め込まれ、かぶりは四周とも15cmとするほか、主筋、せん断補強筋、腹筋そして基礎ベース筋などを積算する。基礎ばりの幅はスパンにより変化させる。図1の基礎スラブのせいDFは上記単価のもとで柱軸力にたいし最小コストを与えるDFをあらかじめ用意しておく。

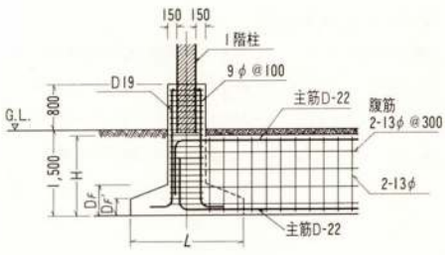


図1　基礎ばり図

両方向ラーメン構造の場合

図2は中柱負担面積Aの影響を3階建と7階建について示したもので、Aと単位床面積当たりの鋼材量比（鉄筋を含まず）およびAと単位床面積当たりの全コスト比の関係はほぼ直線的になるが、その増加率にかなりの差がある（鋼材量比の急激な増加にたいし、全コストの増加は緩い。）これは基礎部コストがAの増加につれて反対に減少するからである。（**図3**参照）

図3は基礎部コストとAの関係を示したもので、基礎部コストがAの増加とともに減少する（鋼材量と逆の現象）。そしてこの傾向は低層ほど（ここでは3階建が7階建より）いちじるしい。

7階建の基礎部コスト比は3階建にくらべて小さく、約70%である。3階建の場合、Aは基礎部コストに大きな影響を与え、A≦30m²になると基礎部だけで全コストの30%以上を占める結果がでている。一方、7階建はAの影響をあまり受けない。

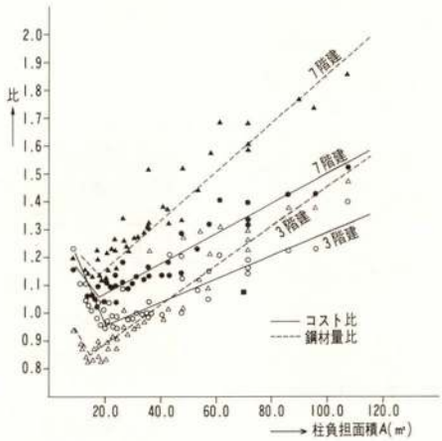


図2　柱負担面積Aと階数の影響

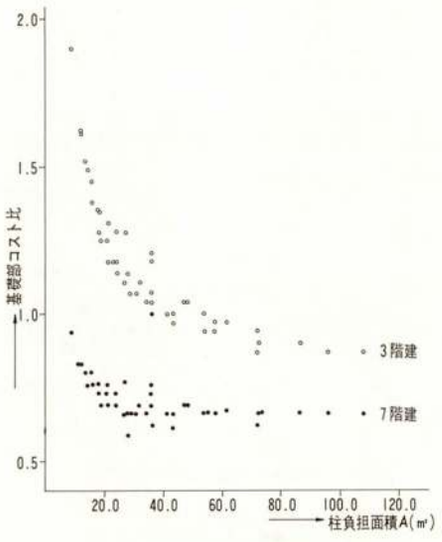


図3　柱負担面積Aと基礎部コスト比

張間方向がピン構造の場合

図4は階数と鋼材量の関係を張間方向1スパン〔S1〕と、2スパン〔S2〕について示したもので、ほぼ直線的に増加している。

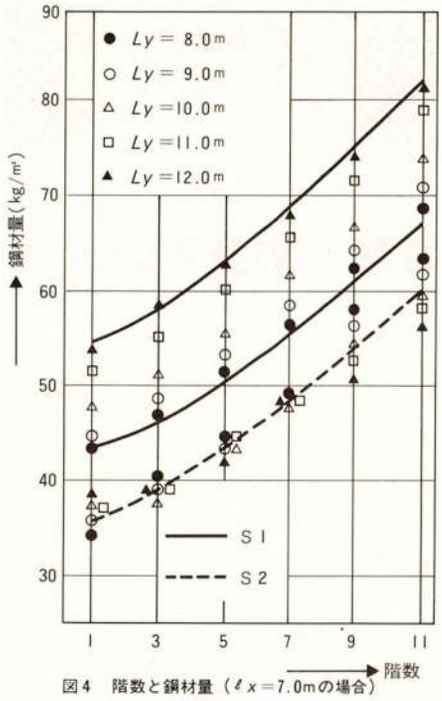


図4　階数と鋼材量（ℓx＝7.0mの場合）

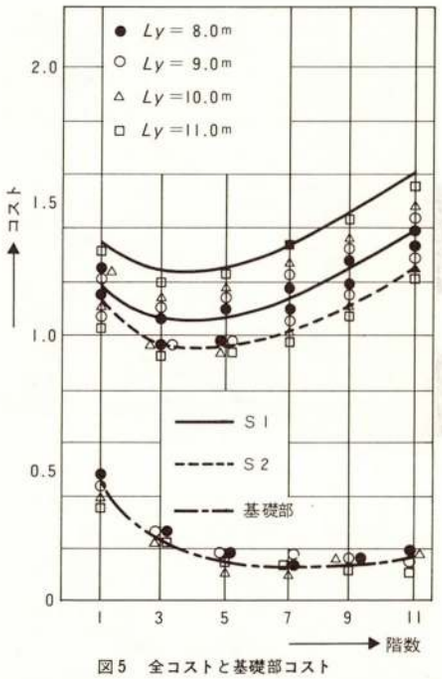


図5　全コストと基礎部コスト

これは両方向ラーメン構造の場合と同じ傾向である。またこの図からS2がS1にくらべ有利なこと、S2は張間方向スパンにたいしほとんど変化がないが、S1はスパンに大きく影響されていることがわかる。

図5は基礎部コストと、それを含めた全コストの階数にたいする影響を示したものである。階数にたいして基礎部コストは5階建以上になるとほぼ一定で、階数が少なくなるにしたがって急激に増加する。これは両方向ラーメン構造の場合とよく似た現象で、全コストは階数の増加による鋼材量のアップと基礎部コストの低下から、図5の上部のように下に凸の曲線となっていて、平家建より3～5階建の全コストが小さくなっている。これは基礎部の影響によるものである。

（すが　よしとみ　近畿大学理工学部　助教授
やぎしようぞう　兵庫県立神戸工業高校教諭）

設備の頁

15

蓄熱そうの断熱について

金子　稔

蓄熱そうはヒートポンプシステムや省エネルギーシステムに欠かせないものであり、最近多く利用されるようになったが、断熱仕様が不充分なためのクレームも多くなった。

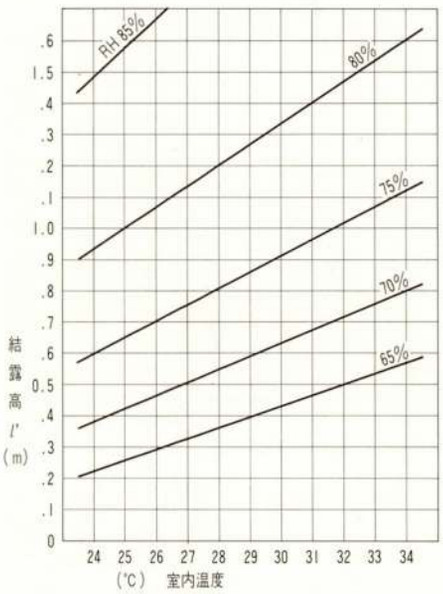
地下機械室床下に設けた蓄熱そうでは、室内換気が充分行われるだろうし、多少の床面結露は許されるかもしれないが、1階居室の床下を蓄熱そうにするときの床面結露は絶対に許されない。この主な原因は、土曜日曜を休日とする間欠空調が行われるとき、休日に侵入した外気が床面に結露するもので、とくに梅雨どきの高温多湿空気が室内に停滞するときは、床面はおろか壁面下部にまで「アセ」をかく現象が起こる。

結露を防ぐには、このように壁面に生ずるものと床面に生ずるものについて、断熱対策を検討することになるから、その考え方について簡単にのべる。

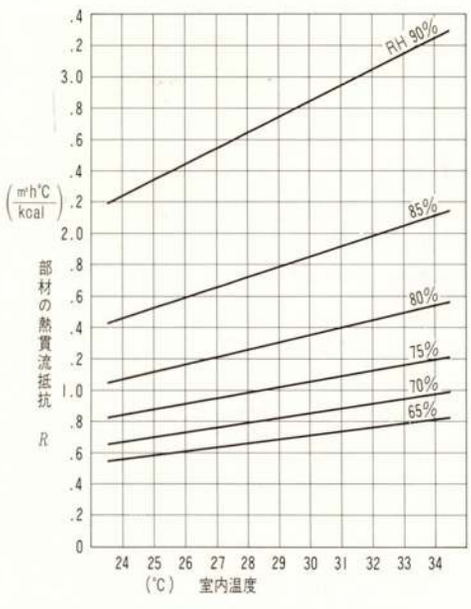
1．壁面結露に対する検討

部材に温度差による熱貫流があるとき、表面温度は下記のように与えられる。

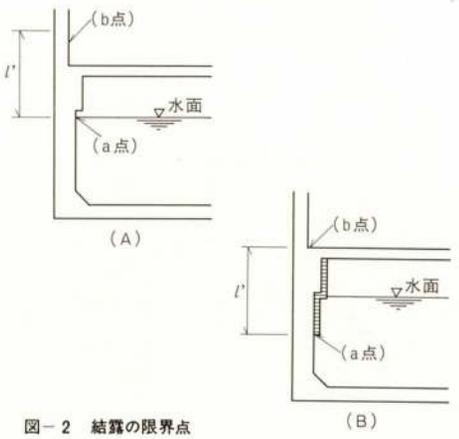
$$\theta i = ti - \frac{ri}{R}(ti - to) \quad \cdots\cdots(1)$$



図－1　室内温度と結露高

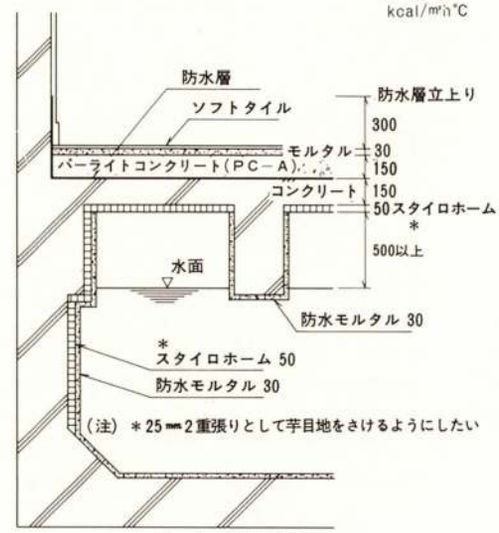


図－3　室内温度と床版の所要熱貫流抵抗



図－2　結露の限界点

	λ (kcal/m²h℃)	l (m)	l/λ (m²h℃/kcal)
ro			0.125
モルタル	1.3	0.03	0.023
パーライトコンクリート (PC－A)	0.194	0.15	0.773
コンクリート	1.4	0.15	0.107
スタイロホーム	0.03	0.05	1.667
ri			0.125
			R=2.82
			K=0.355 kcal/m²h℃



図－4　断熱仕様例

θi：部材の表面温度　(℃)

ti，to：室内外温度($ti > to$)(℃)

ri，ro：室内外の熱伝達抵抗　(m²h℃/kcal)

R:部材の熱貫流抵抗(m²h℃/kcal)

また

$$R = ri + \Sigma\frac{l}{\lambda} + ro \quad \cdots\cdots(2)$$

l：部材の厚さ　(m)

λ：熱伝導率　(kcal/m h℃)

いま、コンクリート単一材を対象にして、$\lambda = 1.4$　$ri = ro = 0.2$　とおき(1)式をlについて整理すれば、

$$l = 1.4\left\{\frac{(ti - to)}{(ti - \theta i)}ri - 0.4\right\} \quad \cdots\cdots(3)$$

室内表面が結露しないための厚さの限界点は、室内空気の露点温度(tid)が表面温度(θi)に等しいときであるから、そのときのlの値は、

$$l' = 1.4\left\{\frac{(ti - to)}{(ti - tid)}ri - 0.4\right\} \quad \cdots\cdots(4)$$

そこで、冷水温度を5℃と仮定したとき、室内空気の状態と、結露しないためのコンクリート厚さの限界点（結露高）とを(4)式から求めると、**図－1**のようになる。

●例－1　コンクリート水そうに5℃の冷水があって、室内空気が33℃80%の状態で停滞しているとき、壁面に結露現象を起こす限界高さは　$l' = 1.53$ m となる。(図－1)すなわち、熱伝達水面(a 点)から1.53 m の範囲(b 点)では室内面で結露する可能性がある**(図－2.A)**。

室内に結露させないためには、(b 点) を床面以下にすればよいから、水そうを深くするとか、水面以下の側壁面を断熱処理して実効の熱伝達水面を下げるなどの対策を講ずる**(図－2.B)**。ただし、側壁が完全断熱仕様でない限り、断熱材からの熱伝達があるから次項に準じて壁面に結露しないことを検討する必要もある。

2．床面結露に対する検討

室内床面が結露しないための床材の所要熱貫流抵抗を(1)式から求めると、

$$R = \frac{(ti - to)}{(ti - tid)}ri \quad \cdots\cdots(5)$$

冷水温度を5℃と仮定したとき、室内空気の状態変化と所要熱貫流抵抗との関係を求めると、**図－3**のようになる。

●例－2　梅雨のときを想定して、30℃、90%の空気が室内に停滞したとき、床版上面に結露しないための所要熱貫流抵抗を求めると　$R = 2.84$m²h℃/kcal となる（図－3）。すなわち、伝熱係数 $K = 1/R = 0.352$ kcal/m²h℃以下となるような断熱仕様が必要となる。これに対する設計例を、**図－4**に示す。

（かねこ みのる KK新日本技術コンサルタント部長）

施工材料の頁

15

スクイズ式鉄筋継手工法(SJ工法)

松井　攻

1．SJ工法の概要

本継手工法はスリーブ（厚肉鋼管）に被接合異形鉄筋を挿入し、スリーブを特殊な油圧ジャッキを用いてダイスで絞り加工し、異形鉄筋のフシ間に食い込ませることにより、スリーブと異形鉄筋とを完全に一体化する機械的接合法である。（図1参照）

接合された異形鉄筋の荷重伝達は、異形鉄筋のフシ間に食い込んだスリーブのせん断抵抗ならびに異形鉄筋とスリーブの摩擦抵抗によって行われる。

継手性能は異形鉄筋のフシの模様（斜フシ、横フシ、波フシ）に関係なく、スリーブの締付長さが異形鉄筋のフシ数にして、4フシ以上あれば鉄筋の規格値を十分に満足し、力学性状も母材鉄筋と同等である。

本工法による接合可能な鉄筋は、JIS G3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に規定する熱間圧延異形棒鋼であり、種類はSD30ならびにSD35、呼び名はD19よりD35までのものである。

なお、本工法は鹿島建設、新構造技術、大同製鋼、竹中工務店の4社により共同開発されたもので、昨年5月日本建築センター・コンクリート系構造評定委員会より、一般鉄筋コンクリート工事の鉄筋継手として使用しても構造耐力上支障なしとの評定を得ている。

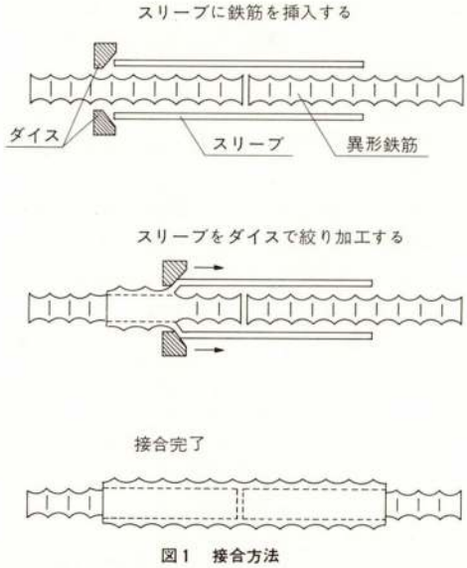


図1　接合方法

2．工法の特徴

①機械的接合であるので、信頼性がきわめて高い継手が得られる。
②締付け機の操作は簡単かつ単純作業であるので、熟練工を必要としない。(素人でも作業ができる)
③火気を使用しないため天候に左右されずに作業が行える。
④継手部の検査は目視およびスリーブ外径測定などの簡単なものでよい。
⑤鉄筋の先組み工法と併用することにより合理的なく体工事ができる。

以上のような特徴をもつ本工法とガス圧接工法とを比較して**表1**に示す。

表1　SJ工法とガス圧接の比較

項目	ガス圧接	SJ工法
作業者	有資格者でなければ作業ができない	数時間の講習、実技指導を受ければよく、特に熟練を要しない
接合面	グラインダーがけ、端面間の隙間などの形状チェックを厳重に行う必要がある	切断形状のチェックのみでよい
清掃	油、塗料、セメントペーストなど不純物の除去が必要	セメントペーストの除去程度の簡単なものでよい
天候	雨天時、強風下では作業ができない。また低温時は余熱が必要である	天候に左右されず作業が可能である
作業	加熱温度と加圧力の関係が微妙であり、圧接作業員の技量による依存度が高い	操作は簡単で、継手性能に作業者による差は生じない
継手検査	圧接部の強度は実際に引張試験を行わなければ確認できない	外観検査だけですみ、信頼性の高い継手ができる
長さ	アプセットにより鉄筋の長さが短くなる	圧着前と後で鉄筋の長さ、位置は変わらない

3．スリーブと締付装置

スリーブは、JIS G2455「機械構造用炭素鋼鋼管」に規定するSTKM 13Aに相当するものを使用している。接合する異形鉄筋の径に対応するスリーブの標準的寸法を**表2**に示す。

締付装置は締付機（ダイス、かまし金具を含む）と油圧ポンプから構成されており、締付機は接合する異形鉄筋の径に応じた専用機があり、主筋間隔が径のおおむね3倍あれば締付け可能である。

油圧ポンプは電動式で2.2kw、締付機の手元操作ボタンで簡単に作動させることができる。

表2　スリーブの標準寸法(mm)

呼び名	内径	外径	長さ
D22	30.3	40.3	180
D25	34.1	45.7	200
D29	37.8	51.0	220
D32	41.5	56.3	240
D35	45.1	61.5	260

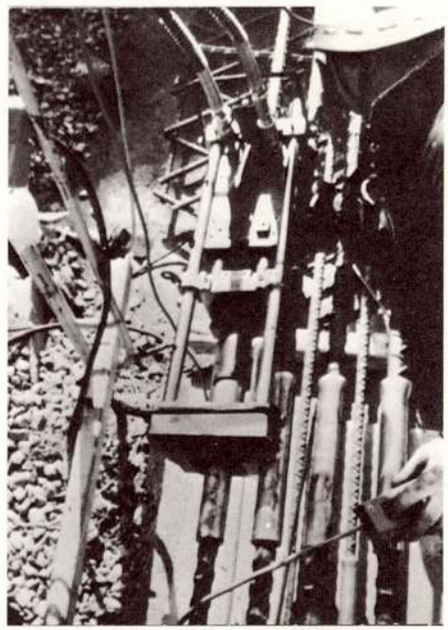


写真1　締付機および締付状況

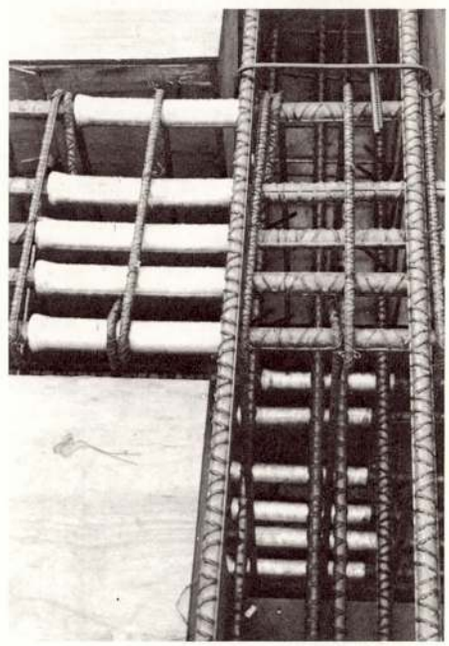


写真2　SJ工法によるはりの継手例

4．本工法の実施例

おわりに本工法を今までに採用した代表的作業所を紹介する。

①中部電力浜岡発電所作業所
②天理おやさとやかた北左第4棟作業所
③鐘紡洲本工場作業所
④ユニチカ大和高田作業所
⑤横浜日新運輸大黒町倉庫作業所

（まついおさむ　KK竹中工務店工事部技術課）

日本建築総合試験所だより 37
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION
本試験所：〒565 吹田市藤白台5丁目125 電話／大阪(06)872－0391代表
大淀分室：〒531 大阪市大淀区長柄西通2丁目35 電話／大阪 (06) 351－7217

繊維インテリア材料による省エネルギー効果

§1．はじめに

1973年のオイルショック以来、各分野で省エネルギー化が大きくクローズアップされております。しかしこのような省エネルギーは、わが国のごとき資源の大部分を諸外国にたよらざるを得ない国では当然のことであり、むしろこれまでのエネルギー浪費を恥ずべきでありましょう。そこで今回、当所では、京都大学堀内三郎教授に指導を願い、繊維インテリア材料メーカーの㈱川島織物の依頼によって、㈱積水化学工業の協力のもとに、住宅室内環境に関する省エネルギー効果の実験的研究を行ったので、その結果の一部を報告いたします。

本研究で対象としたものは消費エネルギーの中の民生用エネルギーで、とくに冬期の暖房時における熱エネルギーに着目し、カーテン、カーペット、壁貼地等の繊維インテリア材料が、その取り付け量や取り付け状態、また、繊維材の材質の違い等により室内暖房効率に対して、どの程度のエネルギー節約（電力節約）となるかを実験により求めようと試みたものであります。

§2．実験計画

第1図に示すような同一性能を有する工場生産による量産型ユニット住宅のA、B2棟を同じ立地条件となるように配置し、実験棟としました。両棟には同一性能の加熱用電気ヒーターを内蔵させた温度調整機により室内の空気を循環加熱し、調整機上部の吹出口より拡散放出させ、室内温度を常に22℃に保持しました。室内の温度測定には温度調整機の前方4 m、高さ1.2 mの位置に乾球湿度計、自記温度記録計および加熱用電気ヒーターのサーモスタットを設置しました。

実験に際してはA、B2棟の内、A棟には**第1表**に示す材質の繊維インテリア材料が施工され、とくにカーテンについてはその縫製で2倍ひだ、1.5倍ひだ、1倍ひだ、また吊り丈で床上0 cm、1 cm、10 cm、そして取り付け方法では、カーテンボックスのある場合と、ない場合というように、材質ばかりでなく縫製や施工法の違いによる組み合わせで27種類の測定種目を作り、そのおのおのについて実験期間中に消費されたA棟の消費電力量と、繊維インテリア材料のないB棟の消費電力量を比較することにより、繊維インテリア材料による電力消費節約量を求めることにしました。



第1図　実験棟見取図

第1表　インテリア材料、材質表

部品名	重さ (g/m²)	組成 (%)
カーテン C_1	317	レーヨン; 61, モダクリル; 39
〃 C_2	330	レーヨン; 52, ビニロン; 10, アクリルラテックス; 38
〃 C_3	204	レーヨン; 86, ビニロン; 14
〃 C_4	250	レーヨン; 88, ポリ塩化ビニール; 12
〃 C_5	218	レーヨン; 100
同レース C_0	48	エステル; 100
ブラインドB	275	ガラス繊維, 塩ビコート
壁貼地W	468	レーヨン; 100
カーペットF	1567	ポリエステル：100, ジュート; 100
同下材	950	ジュートくず; 100

§3．実験結果

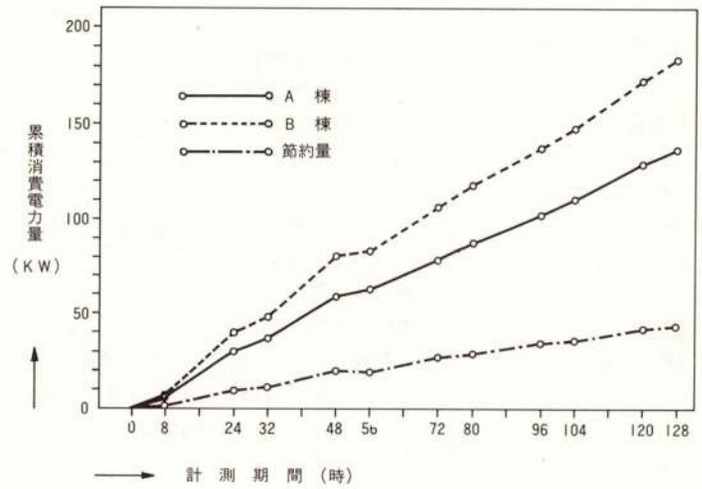
以上のような実験方法により昭和49年11月11日から50年4月10日までの延べ150日間に、種々の内装仕様に対する測定を行いましたが、ここでは紙面の都合で実験結果の二、三を例示することにします。

まず**第2図**に一般的な内装仕様として、窓面にカーテンC_1とレースカーテンC_0を2倍ひだ、カーテン丈床上1 cm、カーテンボックス付きで取り付け、壁面には壁貼地Wを、そして床面にはカーペット下敷およびカーペットFを施工した状態で連続128時間の測定を行った場合のA棟およびB棟の各累積消費電力量と繊維インテリア材料施工によって得られる累積消費電力節約量（B棟の累積消費電力量－A棟の累積消費電力量）を示しました。

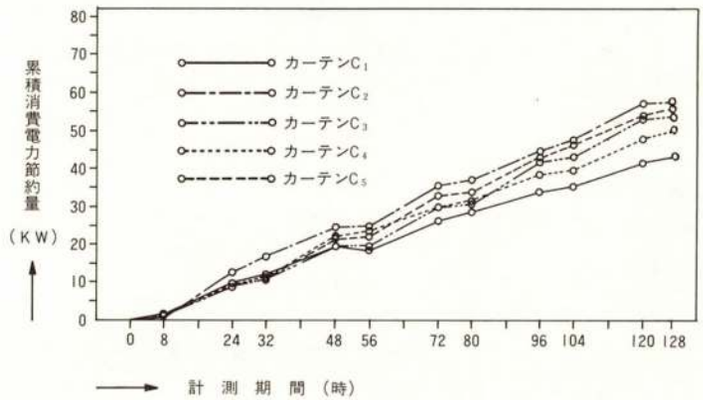
また**第3図**はレースカーテン、カーペット下敷、カーペットおよび壁貼地は同一条件とし、カーテンの材質を変化させた場合の累積消費電力節約量を示しました。そして、カーペットおよびカーペット下敷による効果としてカーテンおよびレースカーテンを施工しない状態でカーペットおよびカーペット下敷のある場合とない場合の測定を行い、その累積消費電力節約量を**第4図**に示しました。

以上のごとく128時間の短い計測期間ではあるが、カーテンやカーペット等の繊維インテリア材料が電力消費の節約に大きな効果を持っていることがわかります。

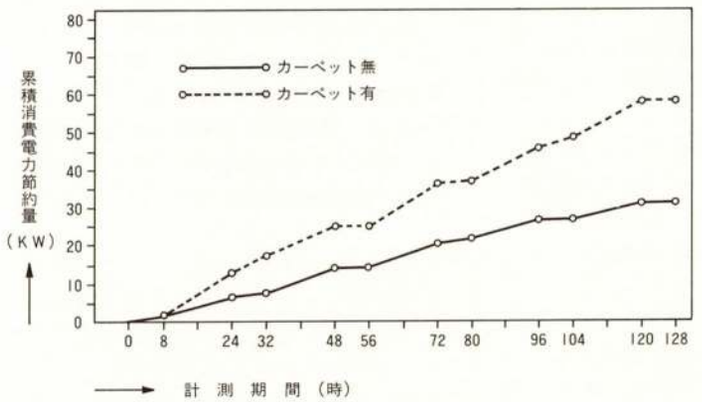
そこでカーテンやカーペットの各部品ごとでの節約効果を示す節約率(｜1－A棟の累積消費電力量/B棟の累積消費電力量｜×100)と、冬期の暖房期間を150日とした場合の電力節約量、それによる経済的な節約額を求めてみると**第2表**のごとくになります。



第2図 インテリア施工の有無による差



第3図 カーテン材質の違いによる差



第4図 カーペットの有無による差

第2表 各部材による節約量

部品名	織密度	縫製	取付方法	節約率 %	150日間の節約量 電力KWH	金額
カーテンC_1	普通	2倍ひだ 床上0cm	Box 付き	16.7	932	16,590
カーテンC_3	密	2倍ひだ 床上10cm	Box 無し	14.7	810	14,410
カーテンC_5	粗	2倍ひだ 床上10cm	Box 無し	12.7	700	12,460
カーペットF (下敷付き)	—	——	床面敷き詰め	12.0	661	11,760
塩ビ発泡床材	—	——	床面敷き詰め	6.4	353	6,280
壁貼地W	—	——	全壁面ノリ付け	2.1	116	2,060

● 当試験所の組織（各種試験お問い合わせ）

理事会
理事長 坂 静雄

財団事務局
事務局長 錦田直一

企画室
室長 正法院陽三

事務室
室長 松下喜一郎

試験所
所長 奥島正一

（試験項目）

大型構造物試験部門
主管(兼) 奥島正一
第1係長 西 仁
第2係長 田村 博
第3係長 谷村嘉英
工事用材料係長 小林一雄
- 柱・梁・床版などの大型構造部材や架構の実大試験・模型試験
- パネル類の強度試験
- 鋼材、コンクリート等の物理的性質の試験
- 木材の各種強度試験
- コンクリート用混和剤等の性能試験
- 一般建材試験
- 建物の診断とその対策
- 外壁カーテンウオール、サッシ等の耐風圧強度、気密、水密試験
- シャッター、ダンパー等の遮煙、漏煙性能試験
- 防火戸の温度ヒューズ連動機構の作動試験
- 工事用材料の圧縮、引張曲げ等の試験

耐火防火試験部門
主管(兼) 正法院陽三
耐火防火材料係長 藤川 慧
耐火防火構造係長 坂 啓智
- 柱・梁・床・壁・屋根等の耐火試験
- 外壁・防火戸等の防火試験
- 内装材料の難燃性試験、燃焼ガスの毒性試験

音響熱部門
主管 十倉 毅
係長 長橋英彦
- 音の透過損失・吸音率・床衝撃音試験
- 熱伝導率・熱貫流・結露試験
- 音・熱の各種現場測定等

大淀分室
分室長 中山次雄
- 工事用材料の圧縮・引張・曲げ試験
- 骨材試験

事務部
事務長 松下喜一郎
係長 石堂義隆
- 試験受託事務
- 会計一般庶務

本試験所：〒565 吹田市藤白台5丁目125 電話（06）872—0391代表
大淀分室：〒531 大阪市大淀区長柄西通2丁目35 電話（06）351—7217

§4. 結び

上記の結果から、暖房エネルギー（電力量）の節約率が、カーテンで15%、またカーペットでは12%、カーテンとカーペットの併用では27%程度となることが分かります。

またカーテンについては織密度の密なるものを十分に"ひだ"を取り、カーテンボックスより床面まで吊るすことによりさらにその効果を向上させることができます。

（研究員 長橋英彦）

日本建築協会

月間の動き

昭和50年7月分

理　事　会

17日　4時～5時　　於会館集会室
出席者　福田副会長ほか8理事　山根建築業務基準委員会委員
議事　(1)建築士及び建築士事務所実態調査の件（建築業務基準委員会経過報告）
(2)沖縄海洋博建築写真集の件
(3)「第22回青年技術者」特集号の件
(4)入退会者承認の件
(5)報告事項

編　集　委　員　会

第2回計画分科会
2日　2時～4時　　於会館集会室
出席者　片倉幹事、松村委員長、右田委員
議事　(1)計画特集のテーマとその編集方針の具体化
(2)そのほか

委　員　会
2日　4時～6時　　於会館集会室
出席者　松村委員長ほか7名
議事　(1)8月号「生活排水処理施設のあり方」特集報告
(2)9月号「人間環境としてのターミナル」特集報告
(3)10月号「騒音対策と防音材料」特集報告
(4)11月号「第22回青年技術者」特集の応募規定と選衡委員について
(5)12月号「集合住宅の設備」特集幹事会報告
(6)来年1月号と3月号の特集テーマ――第2回計画分科会報告
(7)広告企画小委員会について
(8)そのほか

10月号「騒音対策と防音材料」特集第3回編集幹事会
3日　4時～6時　　於会館集会室
出席者　浅野幹事、十倉委員ほか4名
議事　(1)「施工材料の頁」10月号の企画
(2)広告企画
(3)そのほか

12月号「集合住宅の設備」特集第2回編集幹事会
8日　4時～6時　　於会館3階会議室
出席者　成瀬、山崎両特別幹事ほか2名
議事　(1)12月号「集合住宅の設備」特集のテーマの具体化と執筆者の選定
(2)そのほか

広告企画小委員会
9日　4時～6時　　於会館集会室
出席者　伴副委員長ほか5名
議事　(1)7月号広告収支報告
(2)8月号広告企画の件
(3)9月号広告企画の件
(4)10月号広告企画の件
(5)11月号広告企画の件
(6)12月号広告企画の件

第1回構造分科会
15日　4時～6時　　於会館3階会議室
出席者　須賀幹事ほか3名
議事　「建築と社会」誌「構造の頁」の10月号以降の企画について

作品作風小委員会
16日　4時～6時　　於会館3階会議室
出席者　横山副委員長ほか4名
議事　(1)8月号排水処理場作品の報告
(2)9月号作品〝研修所〟の選定
(3)10月号以降の作品作風の方針

9月号ターミナル特集編集打合会
25日　3時～7時半　　於会館3階会議室
出席者　片倉委員、稲垣委員
議事　〝ターミナルとかいわい空間〟の原稿作成

事　業　委　員　会

広報小委員会
2日　6時～7時　　於会館3階会議室
出席者　三品副委員長、上松、打浪両幹事ほか7名
議事　(1)PR分科会の事業報告並びに事業企画について
(2)研修分科会の事業企画について
(3)親睦分科会の事業企画について
(4)そのほか

見学会小委員会
4日　6時～7時　　於会館集会室
出席者　堤副委員長ほか4名
議事　(1)9月の見学会についての報告
(2)10月以降の見学会企画について
(3)矢崎実験ソーラハウス1号（太陽熱利用冷・暖房システム）の見学について
(4)そのほか

若い会員の集い第5回企画「ディスカバー大阪」現地調査
8日　1時～6時
出席者　中村主査、森下、宮後両幹事ほか1名

若い会員の集い小委員会
8日　6時～8時40分
出席者　西村副委員長、広瀬、宮後、森下各幹事ほか10名
議事　(1)第2回「建築家のための〝みどり〟学習会(3)」についての反省
(2)第3回「解体修理中の古建築見学会(4)……国宝東福寺三門その他」の実施報告
(3)第4回「海とレクリエーション」の企画報告
(4)第5回「ディスカバー大阪」の企画について
(5)「教育環境」の企画分科会報告
(6)そのほか

委　員　会
10日　6時～7時　　於会館集会室
出席者　窪田委員長、大橋、小泉、花房、柳、西村、各副委員長ほか2名
議事　(1)各小委員会の事業報告並びに事業企画について
(2)そのほか

若い会員の集い第5回「ディスカバー大阪」企画分科会
29日　6時～8時　　於会館集会室
出席者　中村主査ほか5名
議事　(1)第5回「ディスカバー大阪」の点検下見の報告
(2)「第5回・ディスカバー大阪」の会告案について
(3)同上のイラストについて
(4)そのほか

住　宅　委　員　会

委　員　会
7日　5時50分～8時　　於会館集会室
出席者　小西委員長ほか15名
議事　第12回よろず相談住宅展の件

住宅展、総務合同小委員会
15日　5時50分～8時　　於会館集会室
出席者　岩本、高田両副委員長ほか6名
議事　(1)住宅展会場計画変更の件
(2)出展業者勧誘の件

住宅展小委員会
24日　5時50分～8時　　於会館集会室
出席者　岩本、高田、高野3副委員長ほか2名
議事　住宅展会場計画の決定

そごう百貨店打合会
29日　2時～4時　　於そごう百貨店
出席者　協会側　岩本、高田、吉田、そごう側4名
議事　住宅展会場計画、宣伝などの検討

建築データシート委員会

企画分科会
9日　午前11時～午後1時　　於会館3階会議室
出席者　酒井幹事ほか2名
議事　(1)建築データシートの掲載案内作成について

(2)そのほか

委員会

16日　5時半～7時40分　於会館集会室
出席者　井上、真塚正副委員長ほか10名
議事　(1)№51号（11月発行）の掲載予定シートについて
(2)「建築データシート・掲載案内」の作成について
(3)中国建築学会訪日代表団に建築データシートファイル贈呈について
(4)そのほか

建材委員会

委員会

18日　5時半～8時半　於会館集会室
出席者　山田、牧田、元木正副委員長ほか6名　日本セメント3名
議事　膨張セメント検討会（第3回）

法規委員会

21日　4時～5時　於会館集会室
出席者　市川委員長ほか15名
議事　建築基準法と消防法のギャップについてのアンケートのまとめ

教育委員会

講習会小委員会講師との打合会

22日　5時半～8時　於会館集会室



旧ハンター住宅の見学会　於7月15日



同上、室内を見る

講師　梅原洋一氏 越本昌弘氏 渡辺隆氏
出席者　委員会　佐々木副委員長ほか3名
議事　(1)本年度建築工事実務講習会企画について
(2)そのほか

若い会員の集い

解体修理中の古建築見学会（第4回）
――国宝・東福寺山門その他――

5日　2時～5時
参加者　37名
講師　京都府教育庁文化財保護課
主査　川嶋一雄氏 ほか1名

見学会

西山記念会館と旧ハンター住宅（重要文化財）の見学会

15日　1時半～5時
参加者　42名
講師　旧ハンター住宅について
神戸市教育委員会社会教育部主幹
工学博士　坂本勝比古氏
西山記念会館
設計　村野・森建築事務所
監理　川崎製鉄㈱営繕部建築課
施工　清水建設㈱大阪支店

建築業務基準委員会

15日　2時～4時　於日本建築士会連合会
出席者　山根正次郎氏ほか19名
議事　(1)士会連合会の士法改正要綱案についての各会の意見
(2)業者推せん等の場合の設計監理者の責任について
(3)そのほか

建築クラブ朝食会

8日　8時～9時半　於大阪グランドホテル
出席者　77名
当日は京都大学教授工学博士石崎滾雄氏より「台風と建築物」についてのお話を伺った。

6月の入会者（敬称略）

〔個人会員10名〕

相宅　莞爾	有賀　保二	右角　和雄
菊田　靖久	渋谷　康雄	習田　四郎
豊田　充	中井　清和	中西　秀貴
松下　嘉昭		

7月の入会者（敬称略）

〔団体会員5社〕

永大産業㈱大阪営業所ハウス団地事業部　大阪機工㈱　三愛美装㈱　高取㈱　日本住宅パネル工業協同組合関東支所

〔個人会員22名〕

安部　三男	岩尾　秀明	姥　靖
大浦　孝一	岡本　英造	小林　照男
佐瀬　正雄	田中　進三	竹内　保
竹田　正治	辻　修二	土屋　弘和
内藤　貴之	永浜彰一郎	深沢　雅俊
藤塚　敬	伯耆　紳	松井　基祐
松風　勝美	八木慶一郎	柳田　英樹
山口　信義		

■日本建築協会の展示窓紹介

本誌8月号でもご紹介しましたが、今回は『大阪の新しい建築』として、本年4月末竣工した「ＮＣＢ中之島センタービルディング」をご紹介いたします。
大阪の中心部、中之島の西端に完成したこのビルは、地上32階、高さ129mの文字通り西日本では一番高いビル。内部にはオフィスを中心として、大小会議室・宴会場・結婚式場・ホテルなどが併設され、多様化する大都市の機能に対応するよう計画されており、設計から施工にいたるまで最新の技術が導入された複合建築物です。
展示写真には、ご覧のように、南北を2つの川に挟まれたこのビルを中心とする航空写真を掲載しました。
「中之島再開発計画」の一環として建設されたこのビルの占める位置、およびその周辺地域が一望され、この地区の変化の様相などがよくご覧いただけるものと思います。その他、メタリック仕上げが美しい外観、緑のオープンスペースとして広く一般に公開された庭園、および超高層建築のもう一つの建築美ともいえる夜景の写真なども掲示しましたのでご一覧ください。
▷展示期間　8月下旬より2ヶ月間
▷展示場所　京阪電鉄　地下通路（淀屋橋→北浜の中間南側のショーケース）





日鐵サッシ
公共住宅用

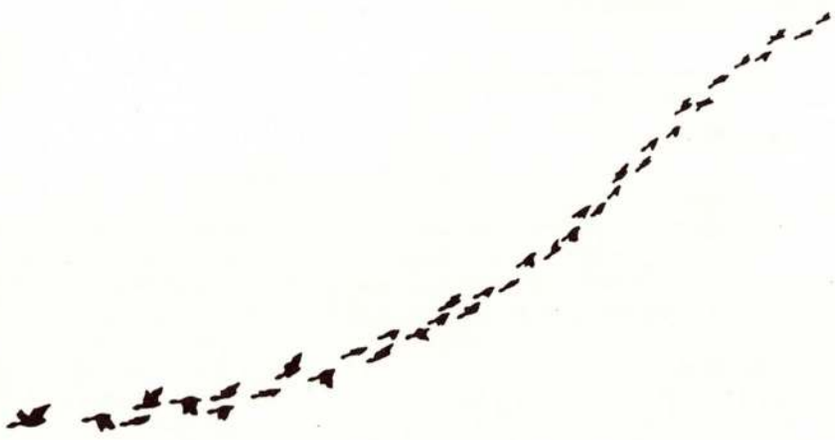
BL−KJ
KJ　　AL−007
BL　　BO−034
スチールドア　P−003

新日鐵グループ

㈱日鐵カーテンオール株式会社

本社　東京都千代田区神田錦町1−8　☎03−295−4511
支店　東京・大阪・名古屋・仙台・広島・高松

渡り鳥の鋭敏な判断力を
私たちは求めています。



渡り鳥はなにを基準に移動するのか、何を頼りに正確な方向を定めて飛ぶのか…まだ、解明できない自然の不思議のひとつです。
私たちは建築の可能性を大きく広げるために、この渡り鳥のもっている自然に対する直感と把握と判断力をもっとも大切にしています。
そして日本独特の自然現象を、渡り鳥のように鋭敏に、正確にキャッチし、それを超高層カーテンウォール技術の中に生かしています。



こんにちわ、渡り鳥。

快適環境 ネニサッシ

〒103東京都中央区日本橋室町1-3 日本橋大栄ビルTEL03(279)1611

三協は輝かしい未来を開き、新しい飛躍と社会の貢献に努力をつづけます。

より豊かな生活環境づくりに一役を担う三協アルミ建材は、優れた気密性、遮音性、雨仕舞、強度、耐食性、経済性および各種着色、発色技術の開発などにより好評を博し、高層ビルから店舗、住宅まで広範囲に使われています。
その各種製品は、近代建築にマッチした建築美を生み出し、広く需要家の皆さまのご要望に応えております。

営業品目

A. ビル用サッシ
超高性能スーパーシリーズ
各種排煙窓
ビル用レディメードサッシ・汎用サッシ
公団規格KJサッシ・ALC用サッシ
スタンダード・カーテンウォール

B. 住宅用サッシ
超高級 テラス戸 / 玄関引戸 秀峰シリーズ

C. 厨房用品
アルミ製流し台、家庭日用品

D. 画期的内装材のフレクサラム・ルクサロン・ルクサクレア

E. BL認定製品
防音サッシ・手摺ユニット・キッチンユニット

三協アルミニウム工業株式会社

本　社　富山県高岡市早川70
TEL0766(22)5030代表
大阪支店　大阪市西区靱1－123(近畿富山会館ビル)
TEL06(448) 5451代表

日本住宅公団　御指定品

用心鎖



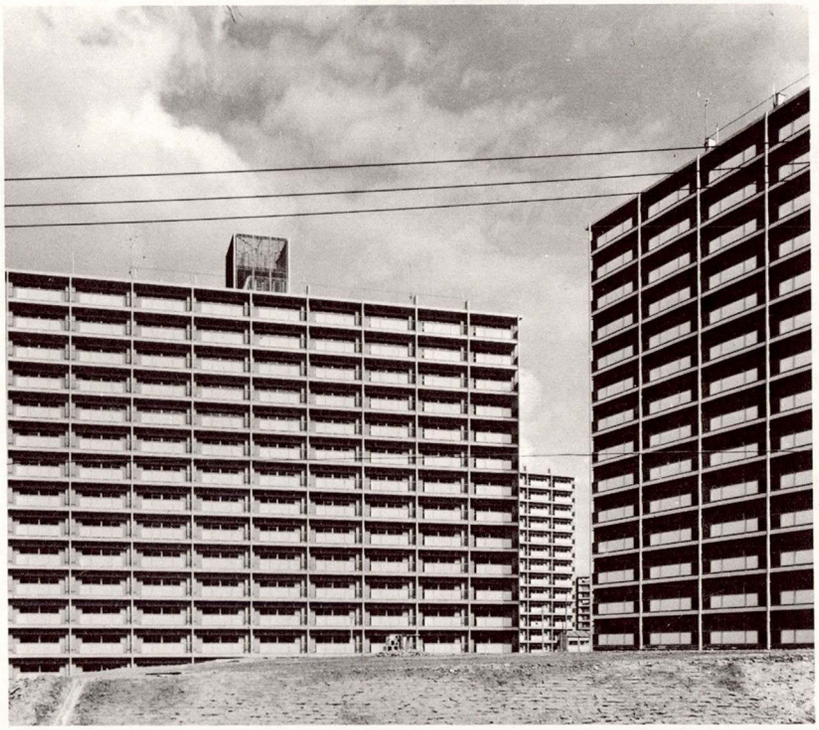
■特　長
- どなたでも簡単に開閉錠（開栓閉栓）できます。
- ワンタッチです——片手で簡単に操作できる複式チェーンロックです。
- 鎖の引張強度は 500kg／cm²ですから、安心してご使用できます。ボタンの内部はステンレスバネを使用していますから、錆付いて動かないことはありません。
- 高級品として、オールステンレス製もあります。

555　三榮建材工業株式会社

本社　大阪市生野区巽北4-5-11　☎(06)751－3653～5／東京出張所　東京都墨田区立花町1－11－1　☎(03)618－4071

今日も新しい街づくりに貢献する

きんきサッシ・ドア



営業種目

◻金属製建具工事
KJ型サッシ・ドア　スチールサッシ・ドア
アルミサッシ・ドア　ステンレスサッシ・ドア
カーテンウォール　ＢＬ・防音サッシ
◻設備工事
◻電気工事

販売 近畿工業株式会社

本　　社　大阪市北区梅ケ枝町１０８（新梅ケ枝町ビル）
〒530　電話（06）３６３－３３７１（代）
東京支店　東京都千代田区神田松永町19（東京近鉄ビル）
〒101　電話（03）２５５－８２７１（代）
名古屋支店　名古屋市中村区米屋町2番50号（名古屋三交ビル）
〒450　電話（052）５７１－９１１１（代）
営　業　所　横浜・志摩・四日市・上六・京都・神戸・広島・福岡

JIS表示許可工場・KJ認定工場・BL認定部品製造工場
製造 近畿車輛株式会社
工　　場　東京・大阪



営業品目

KJ
スチールドア　Ⅰ型
スチールドア　Ⅱ型
フラッシュドア
パイプシャフトドア

ステンレスサッシ
カラードア（ＣＤ－50）
小　　扉
ダストコンテナ
ＭＴ型プレス手摺

輸送機工業株式会社

本社・工場　〒475 愛知県半田市上浜町１０２　ＴＥＬ　半田(0569)21－3311代
大阪出張所　〒533 大阪市東淀川区山口町３２５－１　星和不動産 新大阪駅前ビル
ＴＥＬ　大阪（06）323－8551代

住まいを生かす

三和シャッター

営業品目

○防煙シャッター	○防災制御機器
○防火シャッター	○スモレーター(煙感知器)
○軽量シャッター	○テンプレーター(熱感知器)
○グリルシャッター	○マグホールド(ドアー磁着装置)
○サンパック(窓シャッター)	○防排煙パネル
○アコーダー(折たたみ雨戸)	○排煙ダンパー
○オーバースライダードアー	○雨戸・ドアー

●あらゆる建築設計にお応えします。
●資本金21億6千万円　●株式 東京大阪市場第一部上場

三和シャッター工業株式会社

本社　東京都新宿区西新宿2−1−1(新宿三井ビル44階)　東京03(346)3011代
関西地区事業部 大阪支店・大阪工場　尼崎市田能二の坪468　大阪 06(491)6021代
営業所　大阪南・東大阪・羽曳野・高槻・京都・京都南・大津・福知山・豊岡
尼崎・池田・大阪北・神戸・明石・加古川・姫路・泉州・和歌山
田辺・奈良・大和高田　営業第1課, 2課, 3課, 4課, 防災システム課

建築防災ひと筋に20年——

東洋シャッター

煙

煙感知器連動防災システム
ファイプロ

収納型屋外避難階段・避難橋
ライヘード

煙は人間より速い！

ビル火災で恐しいのは、火焔よりむしろ『煙』だといわれています。火災時の煙の速度は水平方向で毎秒0.3〜0.8メートル、垂直方向で2〜4メートルという予想以上のスピードで拡散します。これは明らかに人間の動きを上回る速度です。

火災時の煙や有害ガスによる惨事を防ぐため、早期発見と初期消火、そして居住者の安全な避難を果すため、われわれは独自の技術による防災設備の開発に、絶えざるご奉仕を続けています。

〔詳細お問合せ・資料ご請求は下記へご一報願います〕

東洋シャッター株式会社　大阪市東区両替町1−12日生谷町ビル　☎06(943)6571代表
東京都中央区銀座7−15−12富国ビル　☎03(543)3145代表

建築・土木工事の完全防水に……各種材料それぞれの特長を生かした併用工法に



カネボウゴーレックス

SPH・HPCに
プレハブ防水
外壁及び屋根の目地防水

EPTブチルラバー
ベルシート防水
我国最初の完全防水

アスファルト系高分子シート
アスシート防水
冷熱工法面用防水

ウレタン系
ベルウレックス防水
理想の弾性塗膜防水

アクリル系
樹脂防水
常温架橋型の塗膜積層防水

ウレタン系
ベルフロアー
シームレスの弾性塗床

KANEBO

鐘紡合成化学株式会社

本　　社　〒543 大阪市都島区友渕町1丁目3番80号
TEL　大　阪　06（921）　1231（代表）
肥後橋事務所　〒550 大阪市西区江戸堀上通1丁目25番地
（防水事業部）　（日本火災海上ビル）
TEL　大　阪　06（441）　8241（代表）
東京支店　〒141 東京都品川区西五反田7丁目22番17号
（東京卸売センター）
TEL　東　京　03（494）　2741（代表）
名古屋支店　〒450 名古屋市中村区泥江町3丁目5番地
（鐘紡ビル3F）
TEL　名古屋　052(581)　1271（代表）

日本住宅公団御指定材料
日本住宅公団関西支社指定工事店

		防火材認定番号	関連JIS
化粧壁セメント吹付材	ソリジットスタイン（R2型）	基材同等0003号	JIS 6907
合成樹脂入化粧用セメント吹付材	エバーウォール（R4型）	基材同等0003号	JIS 6907
合成樹脂エマルション砂壁状吹付材	エバーサンド	基材同等0004号	JIS 6909
ヒル石吹付材	エバーテックス	基材同等0004号	JIS 6909
下地調整用モルタル添加剤	スターゾール		

合同特許建材工業株式会社

本　社　大阪市東住吉区駒川町3丁目54番地　TEL（702）7814代表
工　場　大阪 TEL（06）709－5735 東京千葉 TEL（0474）23－7767
事業所　東京（03）990－3252　名古屋（052）503－4344
福岡（092）521－2731　札幌（011）582－6976



国産初のファッションタイル

装いのフロア、ソプラ

ファッション性豊かな塩ビタイルが国産で初めて東リから生まれました。素材はソフト系ビニルタイル、床材としての機能性はもちろん、耐摩耗性・すべり難さ・耐シガレット性などすぐれた性能をもっています。

■規格　厚み2.5㎜　303×303㎜（1ケース40枚）
■価格　2,300円/㎡（工事費は含みません）

よろこびを敷きつめる

東リ ソプラ

東リファッションタイル

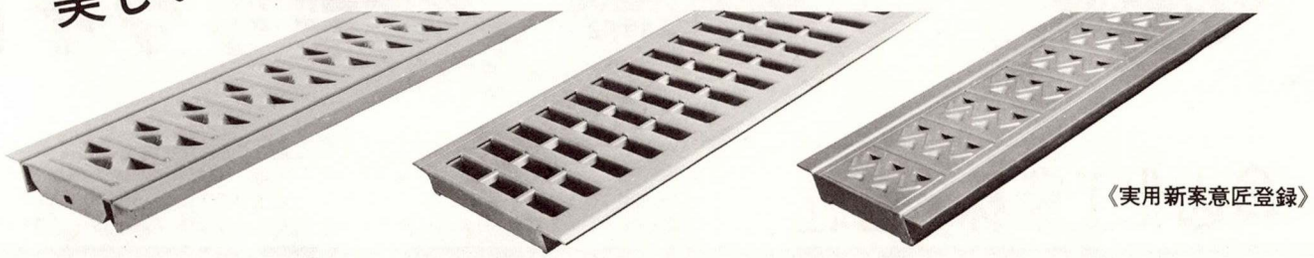
東洋リノリユーム株式会社

札幌営業所 ☎(011)271-2561/仙台営業所 ☎(0222)94-3505/東京営業所 ☎(03)503-3021㈹
名古屋営業所☎(052)733-3471㈹/大阪営業所☎(06)943-1641㈹/広島営業所☎(0822)28-3361
高松営業所 ☎(0878)33-4410/福岡営業所 ☎(092)411-9076㈹

日本住宅公団指定

用途に応じた軽・中・重荷重…美しい……みぞぶた

ワコーリップ

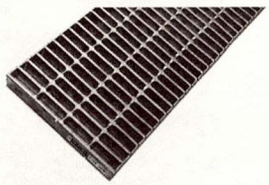


《実用新案意匠登録》

軽荷重用《R・RA型》
○公団タイプ
R10－15．R10－18
R10－24．R10－30
一般タイプ各種あり

中荷重用《MA型》

重荷重用《HA型》



圧接式 ワコーグレーチング

横断溝・測溝・集水桝・ロックグレーチング・U型グレーチング

製造元

ワコースチール株式会社

取締役社長 嶋田外喜男

本　社　大阪市東区大川町27番地(住友生命淀屋橋ビル5階)　TEL06(231)6206(代)
東京支店　東京都中央区日本橋茅場町1－8(稲村ビル5階)　TEL03(668)5811(代)
工　場　和歌山・香取(千葉)・堺・滋賀

総発売元

三井物産株式会社/住友商事株式会社/住金物産株式会社

⊙各種カタログ用意致しております。

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事 専業大店

シート防水・ウレタン防水・シングル葺工事

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　TEL 06-364-0206 代表

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　(英和ビル)
電話　神戸(331) 0881～3
支店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル5階 502号室)
電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5(電話221 2923)

陸屋根防水には 奥山式 特許 絶縁工法 を

OKUYAMA KAKOGYO WATER-PROOF OAM

新工法！
プレノテクト吹付工法

カッパー防水帯 コーパータイト

8対2の防水(冷工法) デラタイト

特許　奥山式熱工法・冷工法綜合防水層

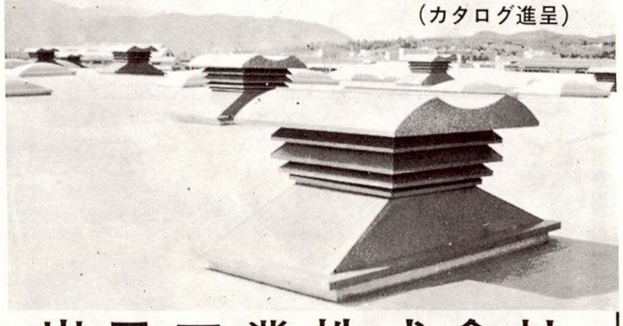
奥山化工業株式會社

本社	東京都中央区銀座8－4－11	電話 03(571)2703～4·2370·4064·0264
大阪出張所	大阪市都島区都島中通り2-3-1	電話 06(921)2497·(922)7280
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話 052(811)3660・3104
札幌出張所	札幌市中央区北三条東四丁目	電話 011(231)7　5　1　1

特許　岩元式ベンチレーター
(電動式並固定型各種)

岩元式ベンチレーター　A型・B型・固定型
岩元式連塔換気装置（コンチニヤス・ベンチレーター）
新型　換気塔 NSライン　（強制換気扇付）
新型　換気塔 SFスーパー　(特殊装置による風量増幅 換気扇の能力を倍増する)
最新型　採光排気塔(風光)スーパーライン特殊増幅装置付
スカイライト工事・通風ルーパー
スチール及アルミサッシュドアー・各種シャッター製作施工
其の他　曲加工一式

(カタログ進呈)



岩元工業株式会社
大阪市東成区大今里2丁目5番22号
電　話　(981) 0615～0618

電気工事・計装工事
設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長　栗原信英

大阪市北区高垣町16番地　(東阪急ビル)
電話　大阪(313)1101　(大代)
支店　東京・名古屋・舞鶴・大阪南・神戸・広島・九州

電気設備 ε 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役　山本博三

本社　大阪市北区中之島3－3　朝日ビル
TEL　大阪06(385)1361(代)
本社営業所　吹田市垂水町3－34－6
TEL　大阪06(385)1361(代)
京都営業所　京都市右京区西京極葛野町21
TEL　京都075(311)1185(代)
福岡出張所　福岡市中央区薬院1－14－8
TEL　福岡092(771)6168

電気工事設計施工

株式会社　三興社

代表取締役　林　敏夫

本社　大阪市北区絹笠町50(堂ビル7階)
電話(361)3671(代)
支店　東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話(671)1478(代)
出張所　川崎・相模原・堺・福山

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大阪支社

取締役支社長　姉川正男

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地　電話大阪(202)0325～9番
本社　東京都千代田区西神田1丁目4番地5号
支社　札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
営業所・出張所　全国主要都市20ヶ所

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長　嘉納伝三

本社　大阪市北区絹笠町50(堂ビル3階)
電話(364)1471(代)
支店　東京都港区新橋2－16(ニュー新橋ビル7階)
電話(504)0231
支店　名古屋市北区城見通2丁目20番地
電話(991)5131(代)
営業所　神戸・堺・千葉・宇都宮・熊本

電気工事 中 設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長　中本正明

本社　大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話　大阪(931)代表7341～5
(0388)2193
資材倉庫　大阪市城東区野江東之町3丁目11　電話大阪(931)7004
奈良営業所　奈良県御所市御国通360　電話御所(2)0122
枚方営業所　枚方市山之上西町1の1　電話枚方(43)8659・(44)9232

電気工事・計装工事・設計施工

中央電気工業株式会社

取締役会長　今村　騰
取締役社長　平木　寛

本社　大阪市北区梅ヶ枝町56番地
電話　大阪　大代表(312)8881
支店　東京・名古屋・四日市・神戸・和歌山
営業所　松山・京都・草津・静岡・水島・福岡

各種電気工事設計施工・制御盤製作

野里電気工業株式会社

取締役社長　池内文夫

本社　大阪市西淀川区柏里町1丁目110番地
電話　大阪(472)代表1101～7
支店　東京都品川区西五反田6丁目25番11号(福島ビル)
電話話　東京(491)1746(492)0182・0350
営業所　北九州市小倉区鋳物師町23番地
電話　小倉(56)5665・5818
出張所　群馬・千葉・和歌山・名古屋

電気工事設計施工

太陽工藤工事株式会社

取締役社長　小林四郎

本社　大阪市福島区上福島北1－2
TEL(06)452－1151(代)
電力工事本部　大阪市此花区恩貴南之町73
TEL(06)462－1301(代)

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長　田中実

本社　大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話大阪(538)1171代表
営業所　東京・名古屋・広島・福岡

電気設備設計施工

高千穂電機株式会社

取締役社長　岩崎久雄

本社　大阪市都島区中野町4丁目8－10
電話　大阪(06)358－1171大代表
営業所　東京・神戸・九州

電気工事・計装工事・設計施工

株式会社　ヤマト電気商会

取締役社長　山本永造

本社　大阪市北区西堀川町15番地
電話　大阪(364)代3056
支店　東京・神戸・広島
営業所　名古屋・岡山・水島
出張所　札幌・滋賀・高砂・松山・三原・沖縄

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区芝松町1-25-7　電話（434)6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302)2271(代)
支　店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町65番地　電話（352)1131（代）
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話（667)3431（大代）
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

電気・空調・給排水衛生設備
設　計　施　工

大阪電気暖房株式会社

本　社　大阪市西区江戸堀1－60　電話（441)8231代表
支　店　東京・名古屋・大阪・福岡・仙台・金沢・広島
営業所　札幌・新潟・岡山・高松・熊本
出張所　盛岡・秋田・横浜・富山・豊田・福井・京都・神戸・鹿児島・那覇

空気調和・衛生設備

株式会社 三晃空調

東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03－344－1911
大阪本店　大阪市北区富田町16番地　電話 06－363－1371
支　店　名古屋市中村区下笹島町11－2　電話052－581－8571
広島市紙屋町1丁目2番22号　電話0822－47－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
出張所　横浜・福井・京都・神戸・松江・沖縄

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区高垣町一　電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル　電話 京都561局4944(代)
神戸市生田区下山手通六ノ一　電話 神戸341局5892

――冷・暖房、衛生、機器配管、設計施工――

株式会社 清水工業所

本　社　大阪市大淀区南浜町3丁目14番地
〒531　電話 大阪（372)2851(代表)
東京支店　東京都中央区八丁堀4丁目11番7号
〒104　（神谷ビル）
電話 東京（551)8041(代表)
出張所　鳥取・群馬・宇都宮・君津
島根・福岡・松山・高松

空気調和設備
給排水衛生設備 設計施工
各種プラント設備
各種送風機・風力輸送装置
空調機器類・公害防止装置　設計製作

株式会社 カンダン

本　社　大阪市住吉区万代東6丁目3　TEL（672)1281(大代)
営業所　東京・名古屋・京都・広島・福岡　工場　和泉・名古屋
テレックス：本社 No. 562－7688　和泉工場 No. 538－5898

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜通1－25（新大ビル）
電話（06）344－6031（代）
本社・東京支店　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話（03）279－5671（大代）
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備
■その他管工事一切の設計・施工

（旧斎藤久孝事務所）

斎久工業株式会社大阪支店

大阪支店　大阪市北区常安町11　電話 06－443－5041代
東京本社　東京都千代田区大手町2-6-2(日本ビルデング)
電話 03－270－7411代
営業所　札幌・仙台・金沢・高松・岡山
出張所　福井・倉敷・広島・苫小牧

空気調和　衛生設備／設計施工

須賀工業

大阪市西区土佐堀通1-14　TEL 06-441-5171
支　店　東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡
営業所　札幌・千葉・横浜・静岡・高松・広島
出張所　金沢

冷暖房
給排水・衛生水道
電気
厨房

環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業 株式会社 大阪支店

取締役社長　各務節
取締役支店長　藤田初藏
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪（202）代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、北陸
出張所　横浜、高松、静岡、豊田、岡山、金沢

空気調和　地盤凍結　冷凍冷蔵

精研冷機株式会社

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地(オートセンタービル2階)
郵便番号542　電話 大阪(06) 768－5031番
東京営業所　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル8階)
郵便番号102　電話 東京(03) 262－3241～4番

●空気調和設備 ●給排水衛生設備 ●塗装設備
●蒸気噴射式冷凍機 ●公害防止関連機器／設計・製作・施工

大気社

（旧社名　建材社）

本社・東京支店＝東京都新宿区西新宿2-6(新宿住友ビル12・13F)　電(344)1851大代
大阪支店＝大阪市北区中之島2－22　電(203)3721代
名古屋支店＝名古屋市中区錦2－2－13　電(211)1535代
出張所＝札幌・仙台・豊田・金沢・神戸・高松
広島・松山・福岡・沖縄・バンコック

Carrier

冷暖房はCARRIER キャリア

東洋キヤリア工業(株)デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪(384)1201～7

一般空調設備・恒温恒湿設備・冷凍冷蔵設備
冷却乾燥設備・環境改善設備その他上記に附帯する衛生、電気等一切の工事の設計・施工

K PLANT

ダイキンプラント株式会社

取締役社長 北川一郎

本社　大阪市大淀区中津本通1丁目2番地 ホーコクビル
〒531　電話　大阪(06)372－5171(代表)
支店　東京都中央区日本橋本町3の1 共同ビル
〒103　電話　東京(03)242－5521(代表)
営業所　福岡・名古屋・広島・札幌・仙台

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目11　**電話大阪(458)3531番**
営業所　京都・広島・天理・福岡

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田町55番地(北阪急ビル9階)
電話　大阪(372)2511　(代表)
本社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

平山工業株式会社

衛生・空気調和設備・設計・施工

大阪市西区江戸堀通2の2　TEL(441)㈹1994・(443)㈹0331

温・湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30　電話(364)6661(代)
本社　東京都千代田区丸ノ内3-3-1(新東京ビル)
電話(211)8511・8561(代)
仙台支店　仙台市新伝馬町60
電話(21)4491
名古屋支店　名古屋市東区東門前町3－6
電話(971)3621

空気調和・恒温恒湿・冷凍・冷蔵
給排水衛生 設備　設計施工

不二熱學工業株式會社

本店　大阪市南区順慶町2－50　電話 261－2436㈹
東京支店　東京都大田区西馬込1－2－1　電話 773－1231㈹
営業所　銀座・浜松・京都・神戸・福岡

MODAIR

空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区京町堀4丁目　TEL(433)8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562)1351
支店　名古屋・福岡

親切真心で御用させて頂きます
大型パッケージ、ヒーター等々
（市価の半値以下の出物も少量あります）

宮地空調専門店

代表御用役　宮地一彦
大阪市西成区山王3－16－7
代表 649－0008　夜間 641－1242

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施行

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)5101～5・夜間専用(691)1045
大阪支店　大阪市北区天満橋筋1－37(天満橋北詰)
電話(352)3501～3
四日市支店　四日市市浜田西末広町　電話㊿7431～3
滋賀営業所　大津市打出浜13－15　電話 0775 ㉒9738
津営業所　津市栄町2－111　電話 0592 ㉖3610

冷暖房・温湿度調整・水道
衛生・環境衛生施設
設計施工

山田工業株式会社

本社　大阪市西区京町堀1丁目62　電話 06(443)8161(大代表)
名古屋支社　名古屋市中区栄2丁目16－13 京極ビル　電話 055 (202) 0077(代表)
出張所　東京都港区北青山3丁目6－18 共同ビルディング青山3階　電話 03 (409) 8905
神戸市生田区北長狭通7丁目1の1　電話 078 (341) 1778・4386

青写真とマイクロフィルム
株式会社
ナイガイ
製図・トレース・複写写真
本　　社　大阪市北区堂島北町１６　TEL（345）9055(代表)
御堂営業所　大阪市東区本町４－27御堂ビル　TEL（252）３９０６
横堀営業所　大阪市東区横堀２－３６　TEL（202）５２６０

社寺数奇屋用瓦……大仏瓦
床・壁内外装用瓦……大仏敷・貼瓦
内外装用窯変美術タイル……大仏タイル
新発売…古代土器調高温〆タイル……大仏古代タイル
株式会社　大仏
本　　社　京都市東山区今熊野大仏池田町９の９　075(541)3344(代)
東京営業所　東京都千代田区内神田１丁目６番２号　03（291）0491～２
南特許ビル３Ｆ
工　　場　京都清水・山城・瀬戸

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量
ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町一丁目七四一電話641五〇六五
ナニワ緩勾配瓦
３寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

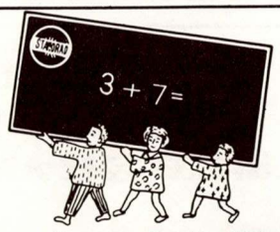
奉仕感謝の店
タイル工事施工
株式会社 川岸窯業商店
本　　社　大阪市西区靱本町２丁目98番地(靱本町バス停前)
電話　大阪 06(532)代0461　〒550
姫路営業所　姫路市北条口１２６番地(住友生命保険ビル７Ｆ)
電話　姫路 0792(82) 0999　〒670

耐酸ツボ各種
陶器、ガラス製品卸問屋
セトモノのデパート
源八橋セトモノ百貨店をご利用下さい。
株式会社 吉田芳雄商店
本　　店　大阪市北区旅篭町18 電話(361)3450・(364)2345
源八橋店　大阪市北区天満橋筋4－78 電話(358)1790・1838

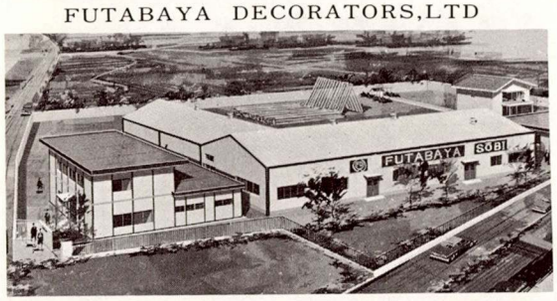
営業品目　建設省認定の防火材料
セメント系吹付材　ソリジットスタイン　基材同等　０００３号
特殊リシン吹付材　エバウォール　基材同等　０００３号
アクリル系吹付材　エバーサンド　基材同等　０００４号
ヒル石吹付材　エバテックス　基材同等　０００４号
合同特許建材工業株式会社
本　　社　大阪市東住吉区駒川町３－54　電話（06)702－7814～７
東京事業所・名古屋出張所・高松出張所・福岡出張所

株式会社 矢橋大理石商店
大阪支店
大阪市東区高麗橋二丁目九　野村ビル五階
電話　大阪　（２０２）　４９０５

内外装ホーロー建材及スパンドレル(ヨドウォル・ヨドスパン)
屋根折版（ヨドルーフ）販売及責任施工
サクラ建産株式会社
大阪市都島区都島中通２丁目１７番４号
電話　大阪(922)　代表4421～３

Standard


Board&Slate
フタバ黒板
大阪市東住吉区加美末次町８－92　TEL 大阪06（792）代5858

FUTABAYA DECORATORS,LTD


建築物船舶等造作工事、家具建具・室内装備工事
内外装飾織物・窓掛敷物壁紙類一式/設計施工
（創業大正７年）
二葉屋装備工業株式会社
取締役社長　若林繁吉
大阪府摂津市東別府３丁目７番８号
電話　大阪（06)349－９１９３代表
大阪府知事建築業者許可(般－48)第12064号

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

燃えない
われない
腐らない

長尺物・色彩自由・責任施工

品種　オリエンタルメタル（O.P.M）
オリエンタルスーパーメタル（S.P.M）
オリエンタルカラードメタル（C.P.M）
カラースーパーオリエンタルメタル（C.S.P.M）

波板規格　S小波　S大波　V波　ボックス波　Wジャンボ波

用途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
通風器・排気ダクト・モニター

オリエンタルメタル製造株式会社

本社　兵庫県尼崎市昭和南通り3－26松本ビル　電話　大阪（412）5131代表
東京支社及工場　埼玉県蕨市塚越5丁目6番32号　電話　蕨（42）3115～8
大阪支社及工場　兵庫県尼崎市長洲稲川新田44　電話　大阪（488）1081代表
九州支店及工場　福岡県遠賀郡水巻町頃末　電話　八幡（69）2831～4
名古屋支店及工場　名古屋市中村区泥江町1の24第2中経ビル　電話　名古屋（581）2781～4

カタログ御請求下さい。

全国で好評の……新興の内外装壁材を！

インテリヤ…カラーストーン…研出し仕上！
（旭化成ミュールコート・セット品）

シンコーストーン

いつも美しい　ワンタッチ…洗出し仕上…

ミュールストーン
（旭化成ミュールコート・セット品）

純日本壁の最高峰

ヤマト緊楽

吹付…に
塗付…に
完全耐火
主材 石綿

●全国有名建材店へ御問合せ下さい　●カタログお送りします

（株）新興建材工業所
大阪市西区南堀江通6丁目39番地　TEL大阪（538）2951～5・（541）5757～9
営業所　東京・高槻・明石・姫路・四国・中国

発売元

新興壁材工業（株）
大阪市住吉区粉浜本町4丁目26番地　TEL大阪（672）1661～3

（株）九州新興建材工業所
福岡市博多区上牟田八田町26の1　TEL福岡（41）5225～6

発明賞に輝く各種特許235件所有

特許 鈴木シャッター

65年の歴史最高の技術最大の生産

防煙火・防災・防盗

鈴木式防煙火シャッター・リンググリル®シャッター・
ステンレスシャッター・アルミニュームシャッター・
40・ピーアップ®シャッター・汎用シャッター
その他特殊シャッターの製造
アフターサービスの完璧

株式会社 鈴木シヤタア商会

大阪市北区茶屋町33番地 電話大阪(06市外局番)371代表4151～6
北陸営業所 金沢市長田町119番地 電話金沢(0762市外局番)65－5135～6
神戸営業所 神戸市長田区大橋8-4-7 電話神戸(078市外局番)611－7971 631－2021

内外

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルト・モルタル床舗装工事
耐酸アスファルト（樹脂）
モルタル工事

N.G.C.式
米国パブコ・アスファルトコンパウンド
米国バイヤーライト・アスファルトコンパウンド } 販売
各種シート防工事 責任施工
新防水材リベットルーフ 責任施工

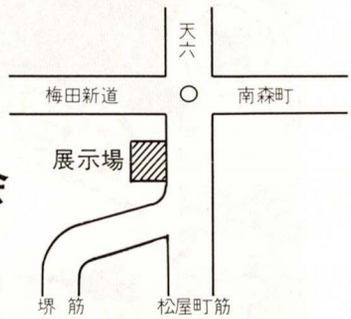
内外工業株式会社
本社 大阪市東住吉区桑津町3丁目16番地 電話 (714)0182(代)
工場 大阪市東住吉区桑津町3丁目16番地

年中見ていただける 皆様の見本室

タイル
常設展示場

AM. 10.00～P.M. 5.00
日曜・祝日は休館

全国タイル展示協会
大阪市北区南森町46番地
八千代ビル南館2F
TEL (06)364－2059



《建築家必習の通信教育》
構造計算

不況どこ吹く風—
今こそ生きた実力を！

厳しい社会情勢を反映し倒産・人員整理が相次ぐ中にあって、構造技術者だけはますますの盛況——まさに構造知識こそこれからの建築界を勝ち抜く切札です。
◎気軽に構造をチェックしたい！
◎手早く、確実な計算書を作りたい！
◎2級1級建築士試験に合格したい！
という方は今すぐお申込み下さい。全く新しい方法で初歩知識から計算書の作成まで短期間にマスターできるようにした速習通信教育の詳細説明書を急送します。
昨年は45才の主婦でさえ修了し、現在引張りだこの活躍を続けています。

設計製図
実力養成と合格への秘策

2級受験
一発必中の最短コース

建物の用途別に設計要点を、構造別に構造要点を即戦的に指導して短期実力向上を計り、受験期には『2級・1級の課題研究コース』を実施して毎年多数の合格者を出している絶賛の通信教育。2級1級受験者はぜひお申込み下さい。説明書急送
仕事に追われる受験者の環境、実力程度まで考慮して、最短時間の勉強で充分な対策がとれるよう、独特な企画構成指導がなされている全く新しい合格への道しるべ。安心してご利用下さい。説明書急送

〒164 東京都中野区東中野1-51-3
電話 03 (363) 7936(代)
建築実務研究所 建築と社会係

日進式

装飾天井〈クロッパー〉

クロッパーは光と影をたくみに合成した光天井の一種で、色々の基本パターンを持ち、その建物や使用用途によって幾通りもの組合せが可能です。その柔和な光と影は現代感覚にマッチした最高の人工空間を創ります。(ＰＡＴ、6件)

奥村重兵衛株式会社

旧社名　株式会社 奥村重兵衛商店

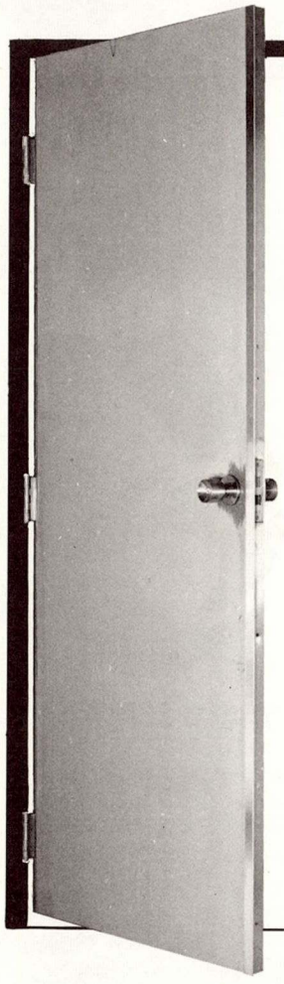
本　社	大阪市北区伊勢町22番地	〒530 電話(06) 312－4131(代)
東　京	東京都中央区銀座１丁目27番９号	〒104 電話(03) 563－3351(代)
福　岡	福岡市博多区住吉２丁目16番27号	〒812 電話(092)291－0459(代)
名古屋	名古屋市西区倹町２丁目１番６号	〒733 電話(052)522－5436(代)
広　島	広島市舟入本町19番13号	〒733 電話(0822)91－1533(代)
仙　台	仙台市燕沢字西山５の18	〒983 電話(0222)52－2631(代)

腐らない・燃えない・軽い

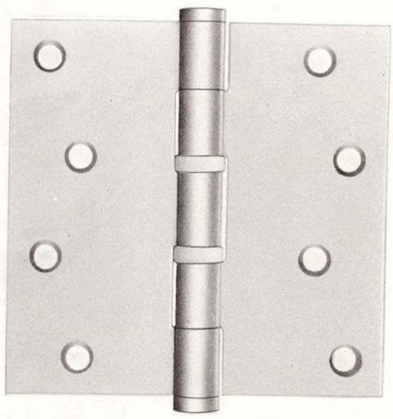
ケミカラーオーシマメタル

屋根材・壁　材・谷樋棟包水切りに

スタンダードメタルの　**大島応用化学**　東大阪市新庄（745）5121～５



DR-844
鋼製防錆ギボシ丁番



日本住宅公団選定規格品

“高級ヒンジ”で世界市場に躍進!

全自動コントロールによるヒンジ自動製造ライン、電動研磨、包装、パッカーラインの製法特許を誇る優秀な生産技術が生みだす《アート》のヒンジは、世界各国の製品よりはるかに優れた品質の製品であることを、米国“ＵＬ”のラベル表示許可が明らかに立証しています。

温度変化、錆、摩耗などいかなる要素にも強い抜群の耐久性、きわめて容易な施工、美しい表面仕上げ――《アート》の高級ヒンジは高い品質で世界各国に躍進しています。

Art　21世紀をみつめる建築資材の総合メーカー

永和工業株式会社

本社・工場　大阪市生野区巽北３－20－29 ☎(06)751-1271代
枚岡工場　東大阪市布市町２－１－40 ☎(0729)84－1181
東京出張所　東京都千世田区外神田3-6-12 ☎(03) 253－0317

アスファルト防水は世界の主流



躍進する建築と共に

56

大正8年創立　満創業56周年

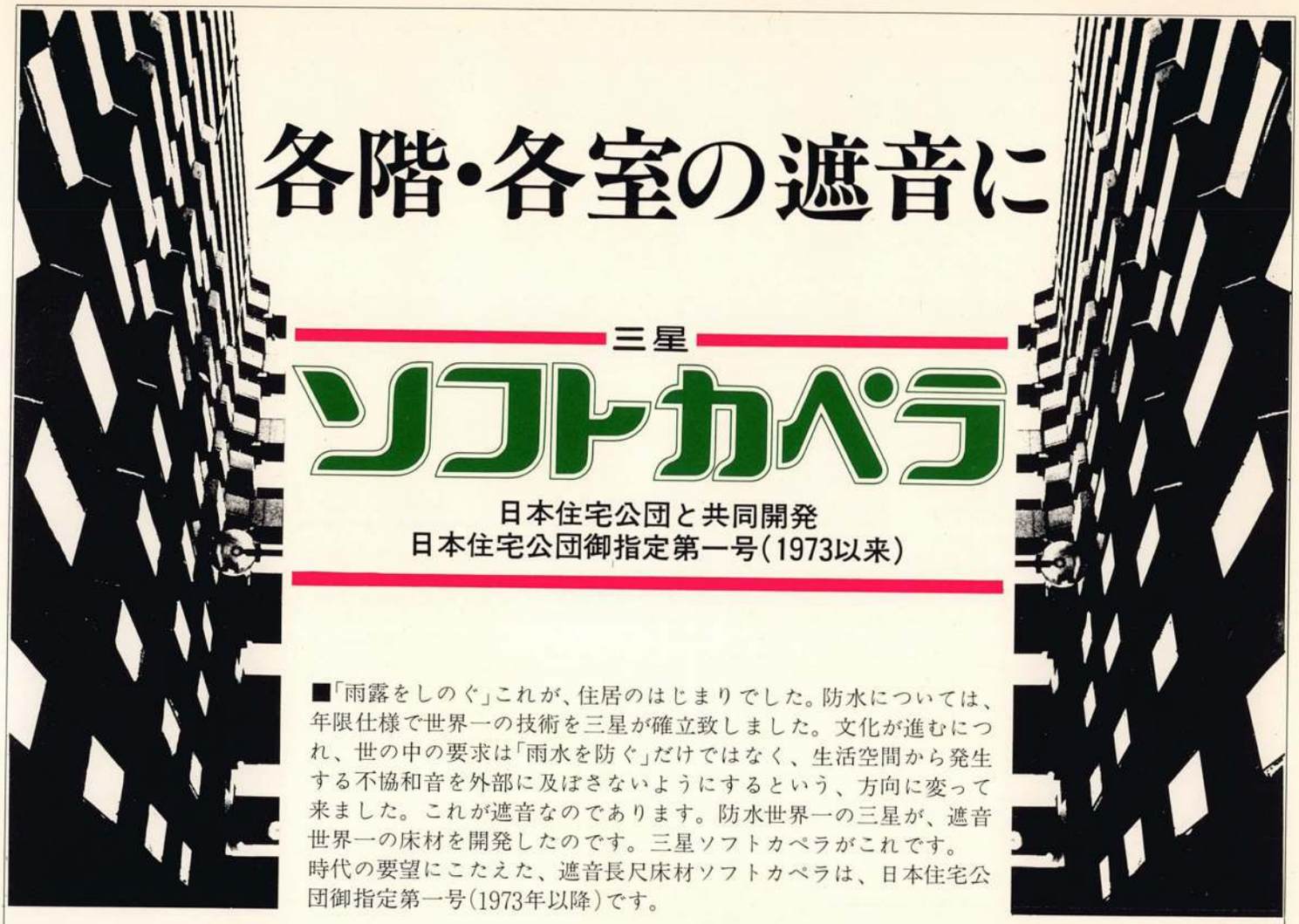
田島ルーフィング株式会社

大阪営業所＝大阪市西区京町堀1-74　☎06-443-0431(代)

広島事務所＝広島市幟町12-3　☎0822-27-5771

高松事務所＝高松市栗林町2-8-1　☎0878-62-5285

東京・名古屋・博多



各階・各室の遮音に

三星

ソフトカペラ

日本住宅公団と共同開発
日本住宅公団御指定第一号(1973以来)

■「雨露をしのぐ」これが、住居のはじまりでした。防水については、年限仕様で世界一の技術を三星が確立致しました。文化が進むにつれ、世の中の要求は「雨水を防ぐ」だけではなく、生活空間から発生する不協和音を外部に及ぼさないようにするという、方向に変って来ました。これが遮音なのであります。防水世界一の三星が、遮音世界一の床材を開発したのです。三星ソフトカペラがこれです。
時代の要望にこたえた、遮音長尺床材ソフトカペラは、日本住宅公団御指定第一号(1973年以降)です。

特　徴

❶遮 音 性：特殊塩化ビニル表層と、発泡層及び、ガラス繊維との完全一体複合により優れた遮音性を発揮します。
❷暖 か さ：特殊塩化ビニル表層は、杉板の肌ざわりと暖かさをもっています。
❸軟 か さ：高密度発泡層により、足ざわりが軟かく、疲れを知りません。
❹汚れにくい：表層が特殊塩化ビニルですから、汚れにくく、日常のお手入れが楽です。

規　格

トップ層	0.40㎜
発 泡 層	2.10㎜
全 層 厚	2.50㎜
巾	93㎝
長　さ	11.0m

色　　数:5色
設計単価:3750－/㎡(材工共)



日本住宅公団・男山団地にてご採用

三星Pタイル
田島応用
TAJIMA OYO KAKO CO.,LTD.
大阪／大阪市西区京町堀1-74電話大阪(441)代表5951㊊550
東京／東京都千代田区岩本町3-11電話東京(866)代表6101㊊101

防水!!…この責務を果し続けます



日本アスファルト防水工業協同組合

マルエス S 日新

日新工業株式会社

本社営業所●東京都足立区千住東2-21-8☎03(882)2424(代)
大阪支店●大阪市東淀川区瑞光通り4-30-2☎06(329)7737～7740

建築と社会　**ARCHITECTURE & SOCIETY**　第56輯第9号

昭和50年9月25日発行（毎月1回25日発行）・昭和24年3月19日第3種郵便物認可

定価六百円（送料共）

表紙・松岡外科病院（解体前）
きりえ　加藤義明

■ご入会のお申込および「建築と社会」の購読は・社団法人　日本建築協会　〒541　大阪市東区北浜3－37　電話大阪(06)231-9648・9649・9640　振替口座大阪 39975番